

Light you up



DAIHATSU

01999-B2571

Mira TOCOT

取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。



DAIHATSU

**このたびは、ダイハツ車をお買い上げいただき、
ありがとうございます。**

本書は、ミラ トコットの正しい取り扱いかたや、手入れの方法などについて説明しているほか、お車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用前に必ずお読みください。

ご愛車のために

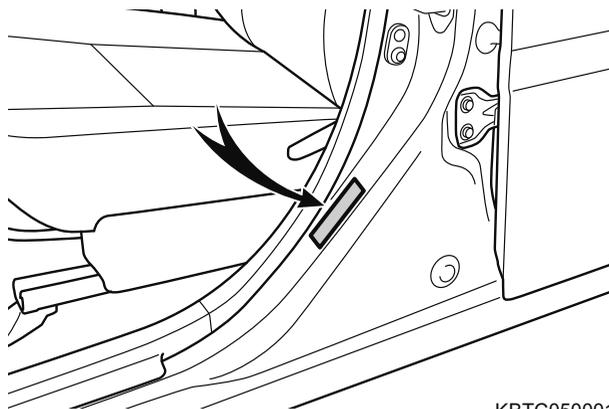
- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくとう便利です。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
 - 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネームプレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	KF 型エンジン
総排気量	658cc
車体色（番号）	
トランスミッション	CVT

ネームプレートは助手席ドアを開けたところに貼り付けしてあります。



KBTC050001

イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 計器の見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万ーの場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	20
安全なドライブのために	22
シートベルト	24
SRS エアバッグ	28
排気ガスに対する注意	36
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	37
チャイルドシート	38
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	57
セキュリティアラーム	58

2 計器の見方

2-1. 計器の見方	
警告灯／表示灯	62
計器類	68
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	71
TFT マルチインフォメーション	
ディスプレイ	77

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	98
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
キーフリーシステム	101
ワイヤレスリモコン	111
ドア（フロントドア、リヤドア）	114
バックドア	119
3-3. シートの調整	
フロントシート	124
リヤシート	125
ヘッドレスト	127
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	130
インナーミラー	132
ドアミラー	133
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	136

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	140
荷物を積むときの注意	149

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ（キーフリー システム非装着車）	150
エンジン（イグニッション） スイッチ（キーフリー システム装着車）	153
CVT 車の運転	158
方向指示レバー	161
パーキングブレーキ	162

4-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	163
オートハイビーム	167
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	171
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	173

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	175
---------	-----

4-5. 運転支援装置について

スマートアシストⅢ	178
衝突警報機能（対車両・ 対歩行者）、衝突回避支援 ブレーキ機能（対車両・ 対歩行者）	189
誤発進抑制制御機能 （前方・後方）	199
車線逸脱警報機能	208
先行車発進お知らせ機能	211
アイドリングストップ システム（eco IDLE）	213
コーナーセンサー	223
バックカメラ	229
パノラマモニター	232
運転を補助する装置	239

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	245
--------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

マニュアルエアコン	250
オートエアコン	255
シートヒーター	261

5-2. オーディオの使い方

ステアリングスイッチ	262
------------	-----

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	264
-------	-----

5-4. 収納装備

収納装備一覧	266
ラゲージルーム内装備	270

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	272
----------	-----

6 お手入れのしかた**6-1. お手入れのしかた**

外装の手入れ	278
内装の手入れ	282

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	285
ガレージジャッキ	288
エンジンオイルについて	289
ウォッシャー液の補充	290
タイヤについて	291
タイヤの交換	295
タイヤ空気圧について	302
エアコンフィルターの 交換	304
ワイパーゴムの交換	306
キーの電池交換	310
ヒューズの点検・交換	314
電球（バルブ）の交換	316

7 万一の場合には**7-1. まず初めに**

故障したときは	326
非常点滅灯 （ハザードランプ）	327
発炎筒	328
車両を緊急停止するには	330
水没・冠水したときは	332

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	333
フューエルポンプ シャットオフシステム	339
警告灯がついたときは	340
警告メッセージが 表示されたときは	346
「スマアシ停止」が 表示されたときは	355
パンクしたときは	358
エンジンが かからないときは	371
電子カードキーが 正常に働かないときは （キーフリーシステム 装着車）	372
バッテリーが あがったときは	374
オーバーヒート したときは	377
スタックしたときは	380

8 車両情報**8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など) …………… 382

8-2. カスタマイズ機能

カスタマイズ機能一覧 …… 388

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 …… 392

さくいん

こんなときは
(症状別さくいん) …………… 394

車から音が鳴ったときは
(音さくいん) …………… 398

アルファベット順さくいん …… 399

五十音順さくいん …………… 400

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

ダイハツサービス工場で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

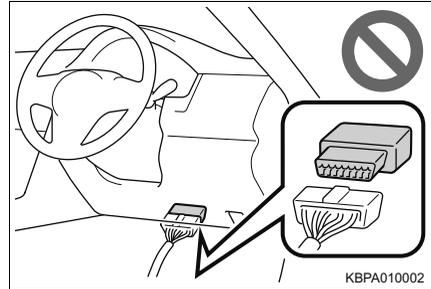
不正改造について

- ダイハツが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱くと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
 - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあります。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

●データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせ使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。ダイハツにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

●EDRデータの情報開示

次の場合を除き、ダイハツはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは

- ・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI※ コンピューター
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をダイハツサービス工場にてご提供します。

※“EFI”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



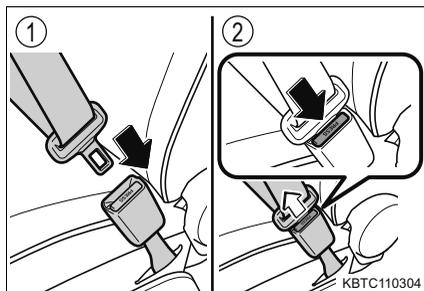
注意

お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

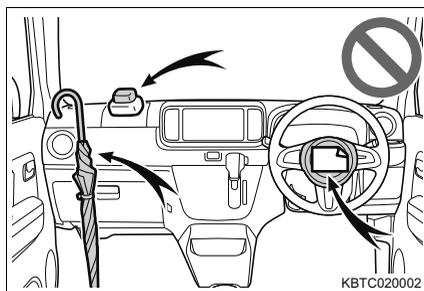
➡: 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

⇨: フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡: 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘: “してはいけません”
“このようにしないでください”
“このようなことを起こさないでください” という意味です。



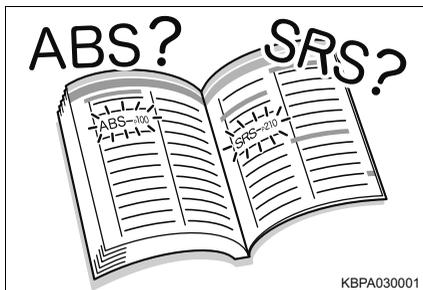
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

▶ 名称から探す

- 五十音順さくいん 400
- アルファベット順さくいん 399



KBPA030001

▶ 取り付け位置から探す

- イラスト目次 12



KBPA030002

▶ 症状や音から探す

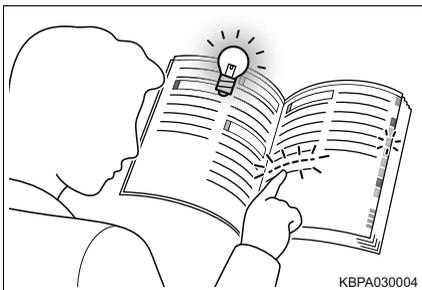
- こんなときは
(症状別さくいん) 394
- 車から音が鳴ったときは
(音さくいん) 398



KBPA030003

▶ タイトルから探す

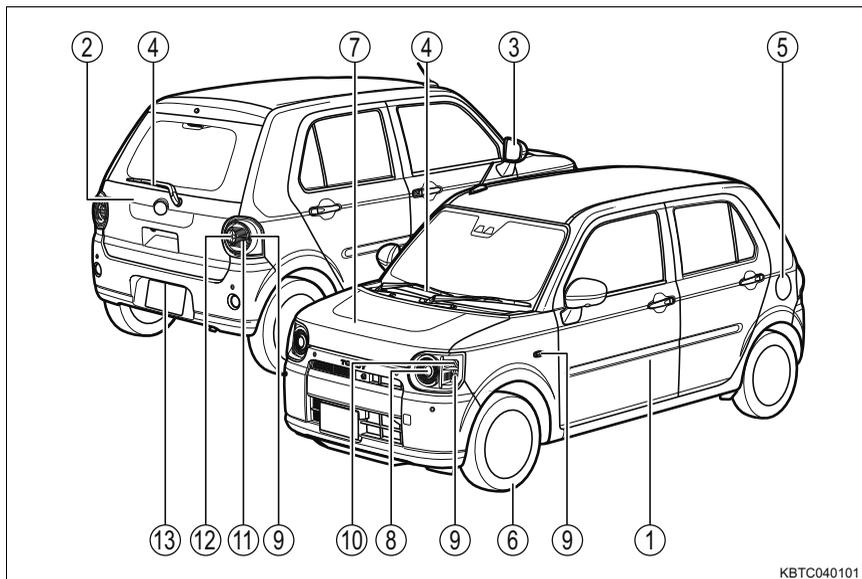
- 目次 2



KBPA030004

イラスト目次

▶ 外観



KBTC040101

- ① ドア P. 114
 - 施錠／解錠 P. 101, 111, 114
 - ドアガラスの開閉 P. 136
 - キーでの施錠／解錠★ P. 114, 372
 - 警告灯★・警告メッセージ★ P. 340, 346
- ② バックドア P. 119
 - 施錠／解錠 P. 119, 101
 - 警告灯★・警告メッセージ★ P. 340, 346
- ③ ドアミラー P. 133
 - 鏡面の角度調整 P. 133
 - ミラーの格納 P. 134
 - 曇りを取る (ミラーヒーター)★ P. 135
- ④ ワイパー P. 171, 173
 - 冬季の注意 P. 245
 - ワイパーゴムの交換 P. 306

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

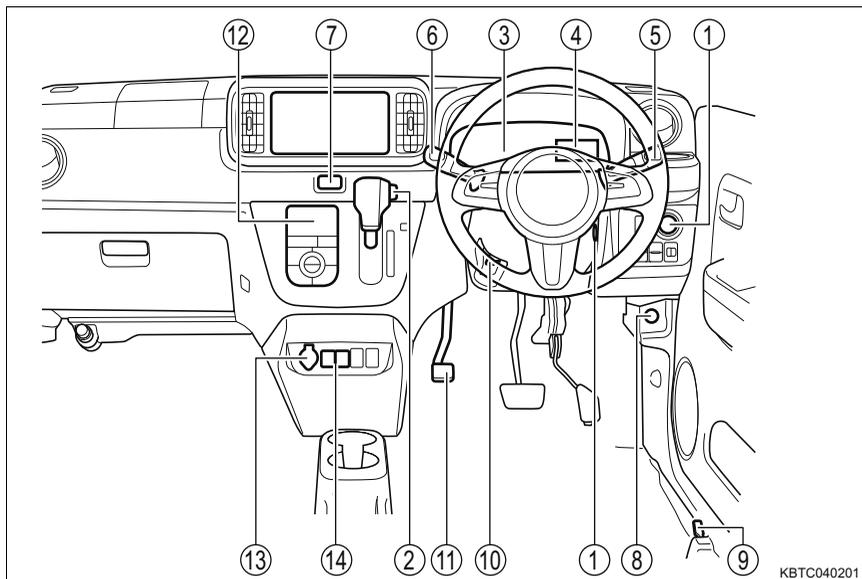
⑤ 給油口	P. 175
給油方法	P. 175
燃料の種類・燃料タンク容量	P. 382
⑥ タイヤ	P. 291
サイズ・空気圧	P. 386
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P. 245
点検・ローテーション	P. 291
パンク時の対処	P. 358
⑦ ボンネット	P. 285
開け方	P. 285
エンジンオイル	P. 382
オーバーヒート時の対処	P. 377

走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領：P. 316, ワット数：P. 386)

⑧ ヘッドランプ	P. 163
⑨ 方向指示灯	P. 161
⑩ 車幅灯	P. 163
⑪ 後退灯	
シフトポジションをRにする	P. 158
⑫ 尾灯	P. 163
⑬ 番号灯	P. 163

▶ インストルメントパネル



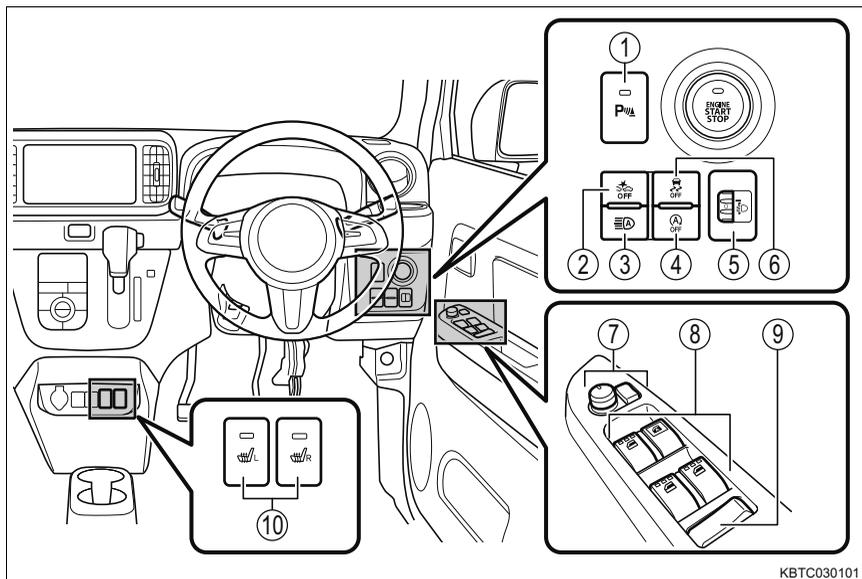
KBTC040201

- ① エンジンスイッチ P. 150, 153
 エンジンの始動・モード切りかえ P. 150, 153
 エンジンの緊急停止 P. 330
 エンジンが始動できないときの対処 P. 371
 警告灯★・警告メッセージ★ P. 340, 346
- ② シフトレバー P. 158
 シフトポジションの切りかえ P. 158
 けん引時の注意 P. 333
 シフトレバーが動かないときの対処 P. 159
- ③ メーター P. 68, 69
 見方・明るさの調整 P. 73, 86
 警告灯／表示灯 P. 62
 警告灯点灯時の対処 P. 340

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ④ マルチインフォメーションディスプレイ★P. 71
 - TFT マルチインフォメーションディスプレイ★P. 77
 - 表示内容 P. 71, 77
 - 警告メッセージ表示時の対処★ P. 346
- ⑤ 方向指示レバー P. 161
 - ランプスイッチ P. 163
 - ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 P. 163
- ⑥ ワイパー&ウォッシャースイッチ P. 171, 173
 - 使い方 P. 171, 173
 - ウォッシャー液の補充 P. 290
- ⑦ 非常点滅灯スイッチ P. 327
- ⑧ ボンネット解除レバー P. 285
- ⑨ 給油口オープナー P. 175
- ⑩ チルトステアリング P. 130
- ⑪ パーキングブレーキ P. 162
 - かける・解除する P. 162
 - 冬季の注意 P. 245
 - 警告ブザー・警告メッセージ★ P. 343, 350
- ⑫ エアコン P. 250, 255
 - 操作方法 P. 250, 255
 - リヤウインドウの曇り取り
(リヤウインドウデフォッガー) P. 251, 257
- ⑬ アクセサリーソケット P. 273
- ⑭ USB 電源ソケット★ P. 274

▶ スイッチ類

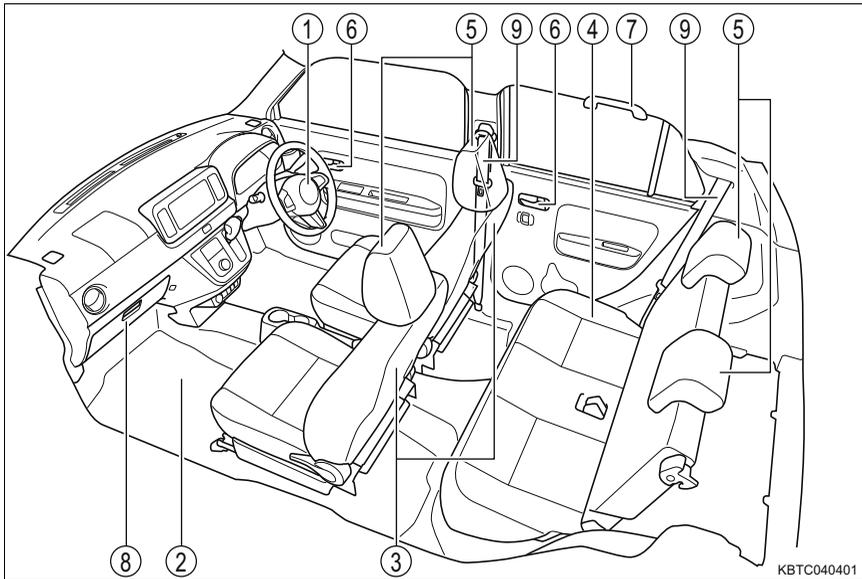


KBTC030101

- ① コーナーセンサースイッチ P. 223
- ② スマートアシスト OFF スイッチ P. 182
- ③ オートハイビームスイッチ P. 167
- ④ eco IDLE OFF スイッチ P. 214
- ⑤ 手動光軸調整ダイヤル P. 164
- ⑥ VSC・TRC OFF スイッチ P. 240, 241
- ⑦ ドアミラースイッチ★ P. 133
- ⑧ パワーウィンドウスイッチ P. 136
- ⑨ ウィンドウロックスイッチ P. 137
- ⑩ シートヒータースイッチ★ P. 261

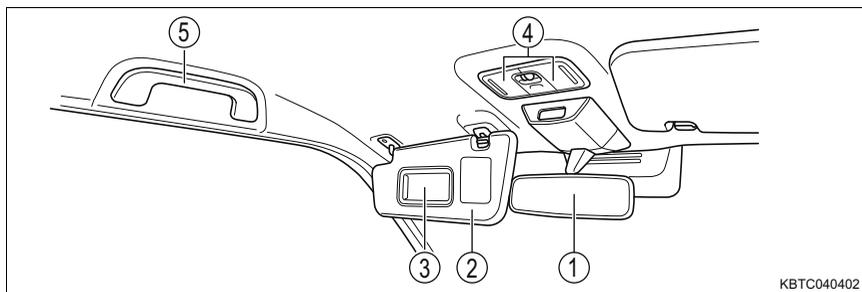
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 室内



KBTC040401

- ① SRS エアバッグ P. 28
- ② フロアマット P. 20
- ③ フロントシート P. 124
- ④ リヤシート P. 125
- ⑤ ヘッドレスト P. 127
- ⑥ ロックレバー P. 114
- ⑦ 格納式アシストグリップ P. 276
- ⑧ グローブボックス P. 267
- ⑨ シートベルト P. 24



KBTC040402

- ① インナーミラー P. 132
- ② サンバイザー※ P. 272
- ③ バニティミラー★ P. 272
- ④ フロントパーソナルランプ P. 264
- ⑤ 格納式アシストグリップ P. 276

※ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 43)



KBRO040403N

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

- 1-1. 安全にお使いいただくために
 - 運転する前に …………… 20
 - 安全なドライブのために …… 22
 - シートベルト …………… 24
 - SRS エアバッグ …………… 28
 - 排気ガスに対する注意 …… 36
- 1-2. お子さまの安全
 - お子さまを乗せるときは …… 37
 - チャイルドシート …………… 38
- 1-3. 盗難防止装置
 - エンジンイモビライザー
 - システム …………… 57
 - セキュリティアラーム …… 58

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

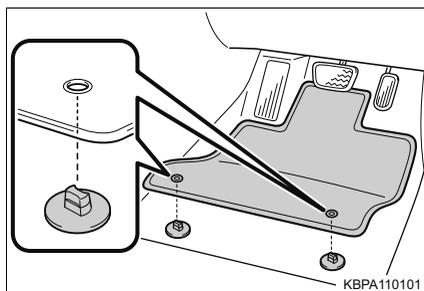
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、ダイハツサービス工場ですべて点検整備を受けてください。

フロアマット

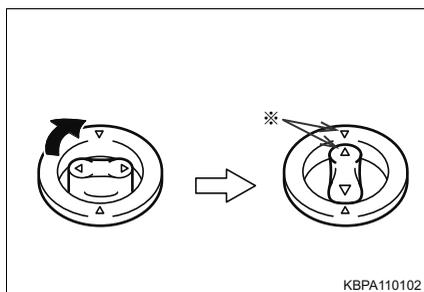
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかり固定してお使いください。

- ① 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- ② 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

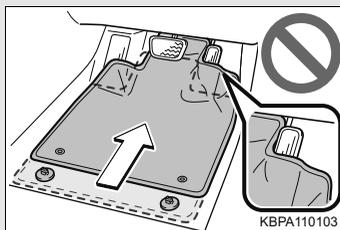
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- ダイハツ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかり固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかり固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

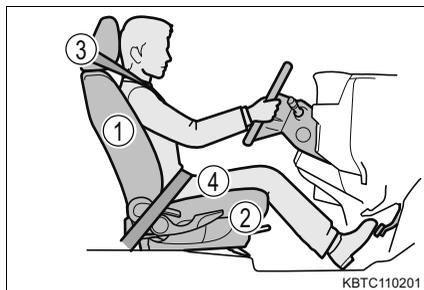


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 124）
- ② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 124）
- ③ 調整式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 127）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 24）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 24）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 38）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 132, 133）

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

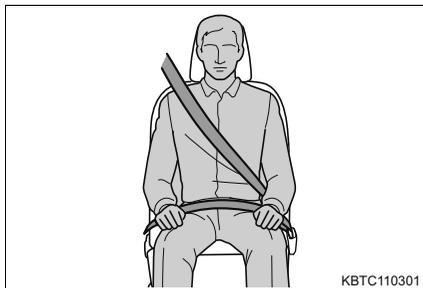
- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

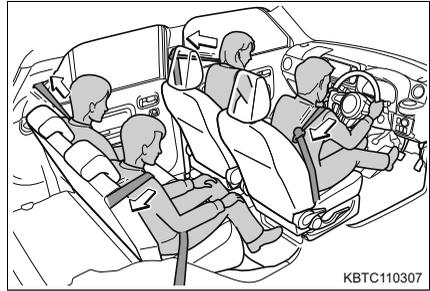
- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトプリテンショナー

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 38)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 24)

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがをさけるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

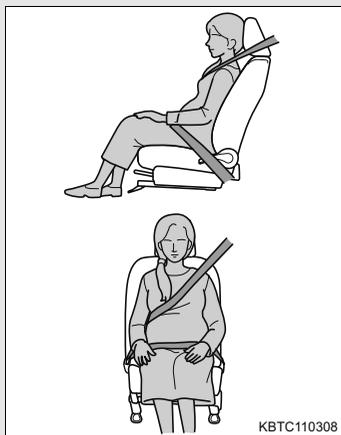
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまは後席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 24)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるとお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみをさけて胸部にかかると着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ 疾患のあるかたの場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告**■ プリテンショナー付きシートベルトについて**

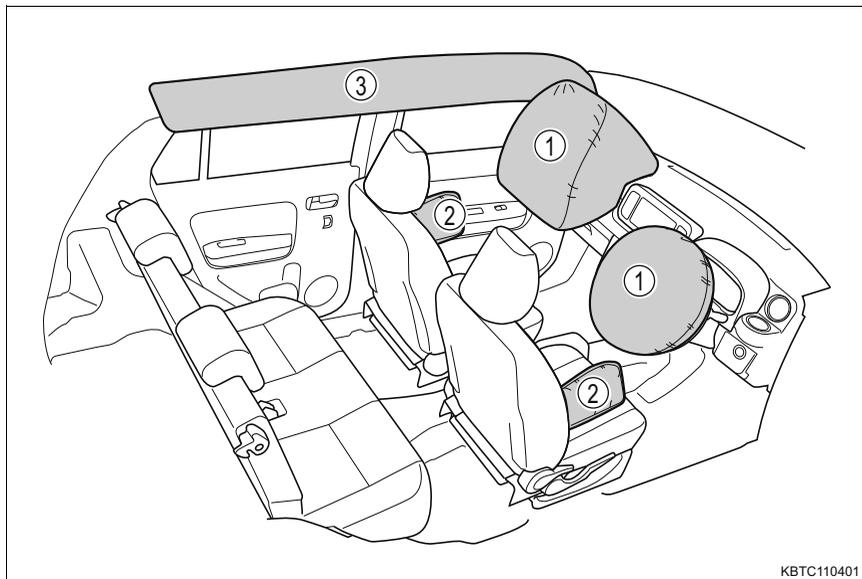
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずダイハツサービス工場で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにダイハツサービス工場に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、ダイハツサービス工場以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



KBTC110401

◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

◆ SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ

- ② SRS サイドエアバッグ
(前席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ③ SRS カーテンシールドエアバッグ
(前席と後席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

警告

■ SRS エアバッグについて

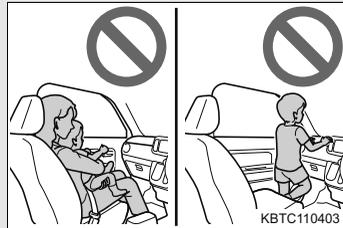
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまは後席に寄せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 38)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



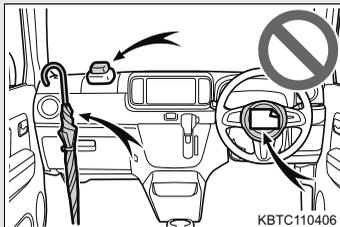
警告

- 助手席や後席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



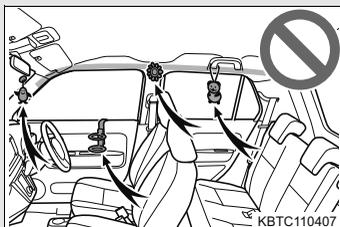
KBTC110405

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



KBTC110406

- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限シールを除く：→ P. 365)



KBTC110407

- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場に交換してください。

 **警告****■ 改造・廃棄について**

ダイハツサービス工場への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■ SRS エアバッグが作動するとき

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロントシート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール的一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

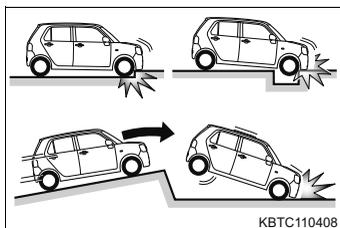
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 25km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■ 衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



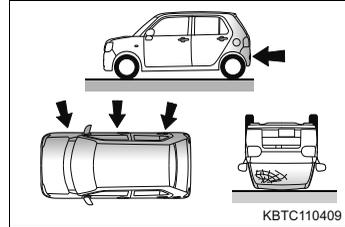
KBTC110408

知識

■ SRS エアバッグが作動しないとき (フロント SRS エアバッグ)

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

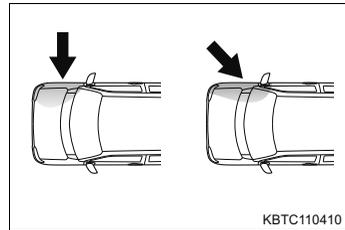
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRSエアバッグが作動しないとき (SRSサイド&カーテンシールドエアバッグ)

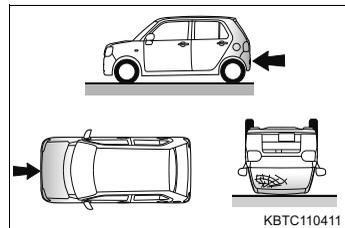
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



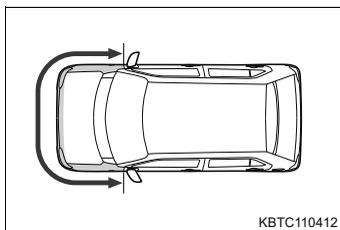
知識

■ ダイハツサービス工場に連絡が必要な場合

次のような場合には、修理・点検などが必要になります。できるだけ早くダイハツサービス工場へご連絡ください。

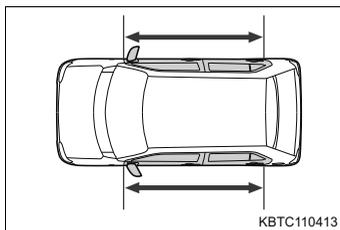
● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

● フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



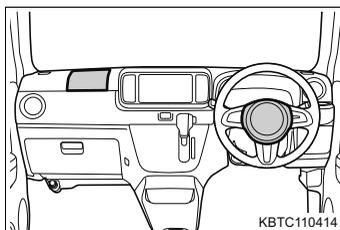
KBTC110412

● SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



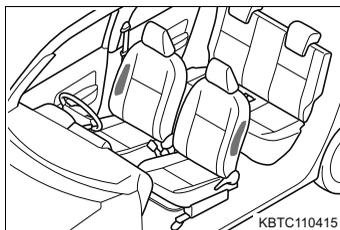
KBTC110413

● ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



KBTC110414

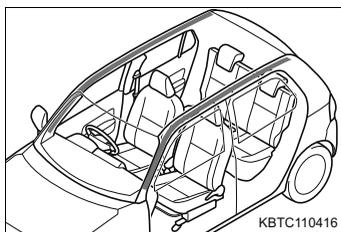
● SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



KBTC110415

 知識

- SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにダイハツサービス工場で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→ P. 38)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまは後席に乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 115)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 137)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 38 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法を記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

- ダイハツでは、より安全にお使いいただくために、ダイハツ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

ダイハツ純正チャイルドシートは、ダイハツ車のために作られたチャイルドシートです。ダイハツサービス工場で購入することができます。

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けのシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 45)

チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN (ECE) R44^{*} の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0： 10kg まで

グループ0⁺： 13kg まで

グループI： 9～18kg

グループII： 15～25kg

グループIII： 22～36kg

^{*} UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

チャイルドシートの種類

▶ベビーシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0、
0+ に相当



▶チャイルドシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0+、
I に相当



▶ジュニアシート

UN (ECE) R44 基準のグループ II、
III に相当



 **警告****■ お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ダイハツでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 45）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかり取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

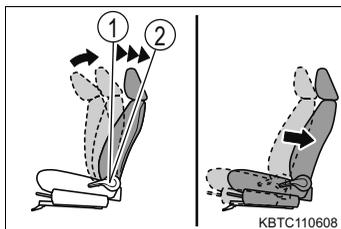
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれをいったん前に倒し、1段目の固定位置(①)まで起こし、4段目の固定位置(②)まで調整する
- 調整式ヘッドレスト装着車で、ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取りはずす(→ P. 127)
- シートをいちばんうしろに下げる



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告**■チャイルドシートを使用するとき**

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 46）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 49）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

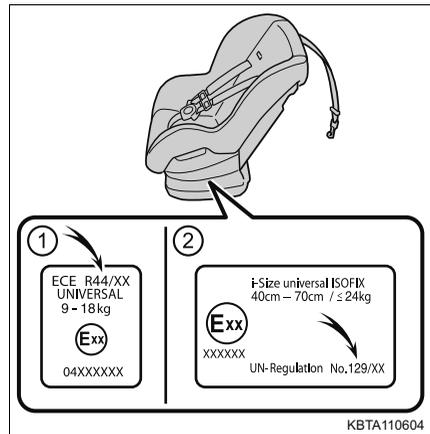
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

① チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹ または、UN (ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

▶ 法規番号の表示例

- ① UN(ECE)R44 認可マーク※²
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。
- ② UN(ECE)R129認可マーク※²
対象となるお子さまの身長
の範囲および使用可能な体重が
記載されています。



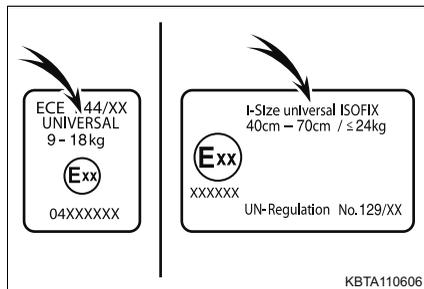
※¹ UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※² 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル
「universal (汎用)」
- セミユニバーサル
「semiuniversal (準汎用)」
- リストリクティッド
「restricted (限定)」
- ビークルスペシフィック
「vehicle specific (特定車両)」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性

<p style="text-align: right;">KBTC110801</p>	<p>① ※1,2,3</p> <p style="text-align: center;">U ※5</p>
	<p>② ※4</p> <p style="text-align: center;">U L </p>
	<p>③ ※4</p> <p style="text-align: center;">U L </p>

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

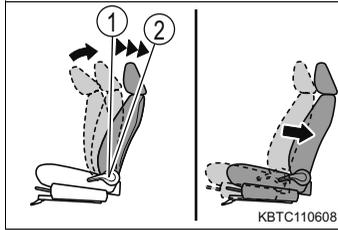
L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 49）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカーが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

- ※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。
- ※2 背もたれをいったん前に倒し、1 段目の固定位置 (①) まで起こし、4 段目の固定位置 (②) まで調整してください。



- ※3 調整式ヘッドレスト装着車で、ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取りはずしてください。
- ※4 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取りはずしてください。
- ※5 チャイルドシートは必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
i-Size 着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 / L2）	×	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向き幼児用チャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+ (13kg まで)	ダイハツ純正チャイルドシート (ISOFIX 固定専用)	×	○	○
	ダイハツ純正チャイルドシート (i-Size) (ISOFIX 固定専用)	×	○	○
I (9 ~ 18kg)	ダイハツ純正チャイルドシート (ISOFIX 固定専用)	×	○	○
	ダイハツ純正チャイルドシート (i-Size) (ISOFIX 固定専用)	×	○	○

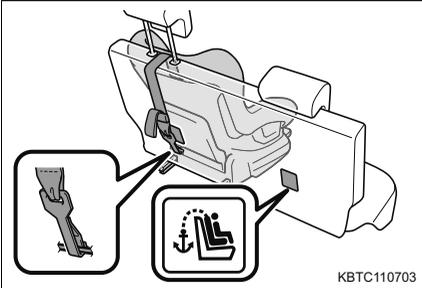
リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

警告

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 51
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 53
テザーベルトを固定する		P. 55

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

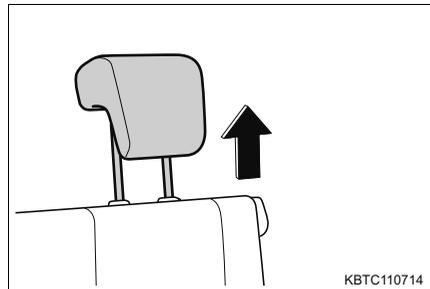
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 46）

① やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整する（→ P. 42）

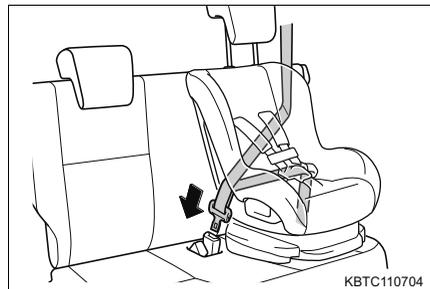
② 調整式ヘッドレスト装着車は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取りはずしてください。（→ P. 127）



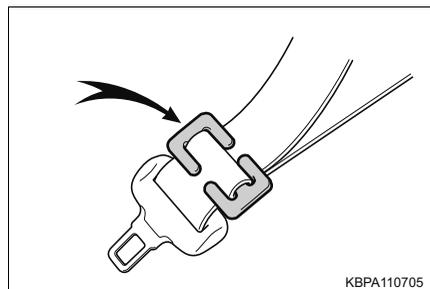
③ チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込み、ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。



④ チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、ダイハツサービス工場にご相談ください。



⑤ 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

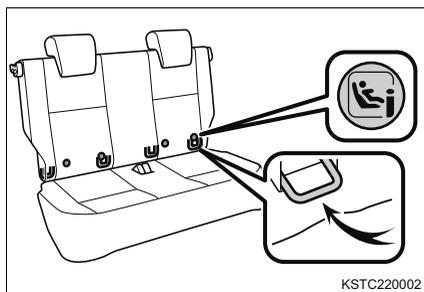
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はリヤシートに ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)



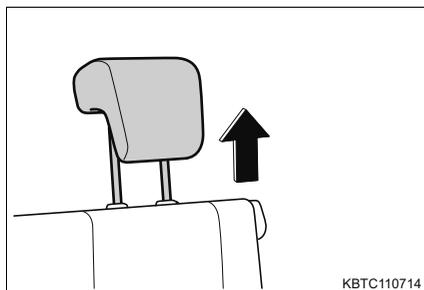
■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 46)

1 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

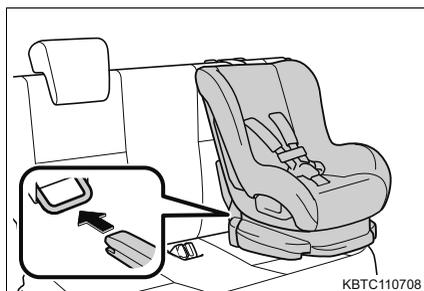
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取りはずしてください。(→ P. 127)



2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

 **警告****■チャイルドシートを取り付けるとき**

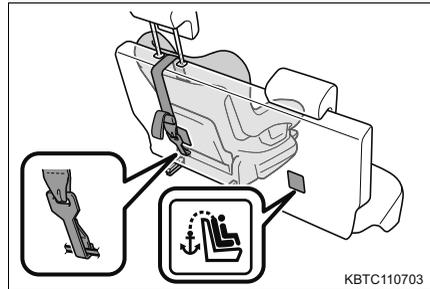
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

■ トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

この車はリヤシートにトップテザーアンカーが装備されています。
テザーベルトを固定するときに使います。



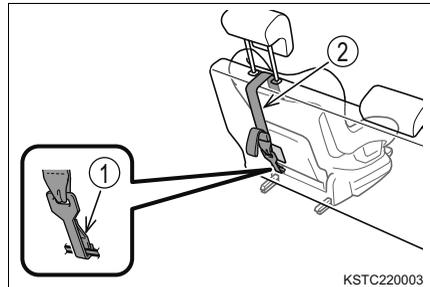
■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

- ① フック
- ② テザーベルト



⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外にかけないでください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

 **警告****■ リヤヘッドレストについて**

- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上に掛けると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ヘッドレストの取りはずしが必要な場合は、安全な場所にしっかり固定しておいてください。

エンジンイモビライザーシステム★

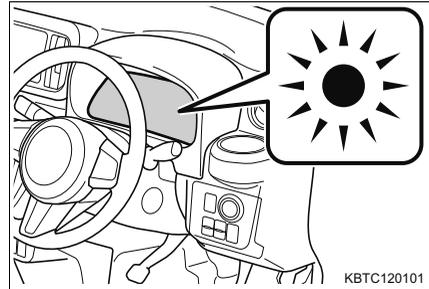
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを“OFF”にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にするとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。

システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

セキュリティアラーム

セキュリティアラームとは

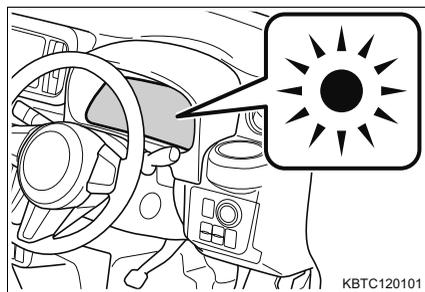
セキュリティアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。セキュリティアラームを設定すると、施錠されたドアが、キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠して、開けられたときにセキュリティアラームが作動します。

セキュリティアラームを設定する

すべてのドアを閉め、キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

セキュリティアラームが設定されると表示灯は点灯から点滅にかわります。



セキュリティアラームの設定を解除する

次のいずれかを行ってください。

- キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”にする

セキュリティアラームの作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

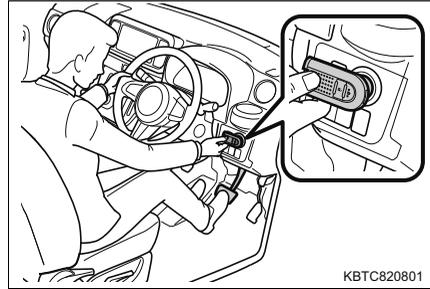
- ワイヤレスリモコンのロック・アンロックボタンを押す
- キーフリーシステム★で施錠・解錠する
- 電子カードキー★を携帯して乗車する
- エンジンスイッチを“ON”にする

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 電子カードキーが正常に働かないとき（キーフリーシステム装着車）

電池の消耗などで電子カードキーが正常に働かないときは、次の手順でセキュリティアラームの作動を停止してください。

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 電子カードキーのダイハツエンブレム面でエンジンスイッチにふれる



知識

■ メンテナンスについて

セキュリティアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

セキュリティアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ セキュリティアラームの設定が中断される場合

セキュリティ表示灯が点灯してから約 30 秒以内に次の操作をしたときは、セキュリティアラームの設定が中断されます。

- 運転席ドアを解錠したとき
- ドアを開けたとき
- キーフリーシステム非装着車で、キーがエンジンスイッチに挿し込まれたとき
- キーフリーシステム装着車で、エンジンスイッチを“ON”にしたとき

■ セキュリティ表示灯について（キーフリーシステム装着車）

エンジンイモビライザーシステムの表示灯を兼ねているため、セキュリティアラームの設定を解除しても、エンジンスイッチを“ACC”にするまで消灯しません。

また、エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

 知識**■ セキュリティアラームの作動について**

- セキュリティアラームは 2 段階で作動します。1 次作動の間に作動が停止されなかった場合、2 次作動に入ります。
 - ▶ 1 次作動
 - ・ セキュリティ表示灯が点滅
 - ・ 非常点滅灯が 10 秒間点滅
 - ・ 室内ブザーが 10 秒間断続的に鳴る
 - ▶ 2 次作動
 - ・ セキュリティ表示灯が点滅
 - ・ 非常点滅灯が 30 秒間点滅
 - ・ 室内ブザーが 30 秒間断続的に鳴る
 - ・ ホーンが 30 秒間断続的に鳴る
- セキュリティアラーム作動後にドアを閉めると、セキュリティアラームが再び設定状態になりますが、施錠はされません。お車から離れる際は確実に施錠してください。

■ セキュリティアラームの作動履歴について

- エンジンスイッチの操作で、セキュリティアラームが作動したことをブザーで確認することができます。(2 次作動までした場合のみ)
- エンジンスイッチを“ON”にしたときに、「ピーッピッ」とブザーが鳴ります。
 - 作動履歴の確認は、2 次作動後、1 回のみ確認することができます。

 注意**■ セキュリティアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

計器の見方

2

2-1. 計器の見方

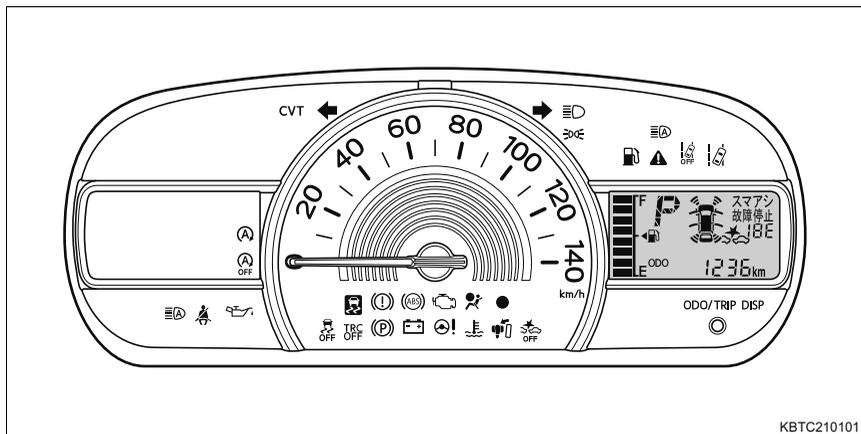
警告灯／表示灯	62
計器類	68
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	71
TFT マルチインフォメーション	
ディスプレイ	77

警告灯／表示灯

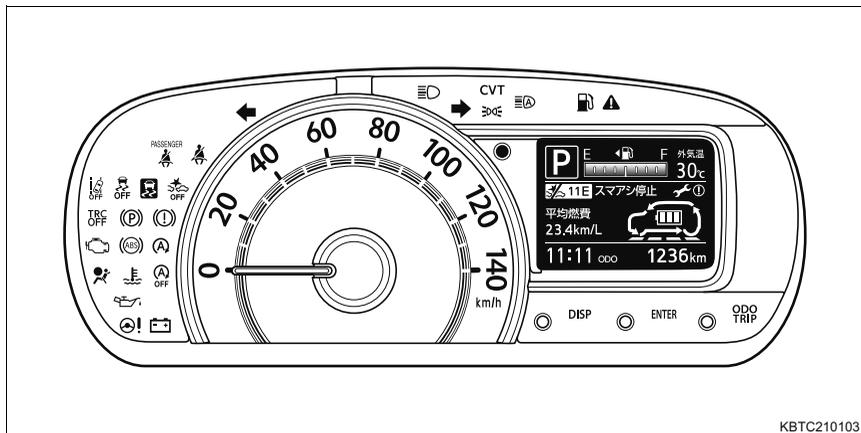
メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター

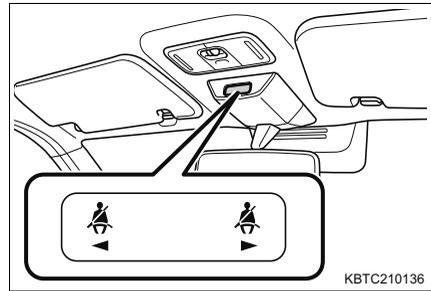
▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



▶ TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車



◆ 後席シートベルトリマインダ



警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

警告灯		参照先
※1		ブレーキ警告灯 340
※1		充電警告灯 340
※1		油圧警告灯 340
※1		高水温警告灯 (赤色) 340
※1		エンジン警告灯 340
※1	CVT	CVT 警告灯 (点滅) 340
※1		SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 341
※1		ABS 警告灯 341
※1		パワーステアリング警告灯 (赤色/黄色) 341
※1		オートハイビーム警告灯 (黄色)★ 341

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
※1,2		スマートアシスト OFF 表示灯	341
※1,3		車線逸脱警報 OFF 表示灯	341
※1,4		マスターウォーニング	341
		スマートアシスト故障警告灯	341
		スマートアシスト停止警告灯	355
※5		コーナーセンサー表示灯	341
※1,6		スリップ表示灯	342
※7		eco IDLE OFF 表示灯 (点滅)	342
※1		eco IDLE 表示灯 (高速点滅)	345
※1		ブレーキオーバーライドシステム警告灯★	342
		半ドア警告灯★	342
		燃料残量警告灯	342
		シートベルト締め忘れ警告灯 (点滅)	342
		助手席シートベルト締め忘れ警告灯 (点滅)★	343
※8		後席シートベルト締め忘れ警告灯	343
		パーキングブレーキ未解除警告灯	343

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※2 スマートアシストⅢの機能を停止にしたときも点灯します。
- ※3 車線逸脱警報機能を停止にしたときも点灯します。
- ※4 スマートアシストⅢが作動したときも点灯します。
- ※5 コーナーセンサーが作動したときも点灯します。
- ※6 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。
- ※7 eco IDLE を非作動にしたときは点灯します。
- ※8 インナーミラー上部に点灯します。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

表示灯		参照先	
		方向指示表示灯	161
		ハイビーム表示灯	164
※1		低水温表示灯（青色）	—
		セキュリティ表示灯	57, 58
		尾灯表示灯	163
※2		スリップ表示灯（点滅）	240
※2		VSC OFF 表示灯	241
※2		TRC OFF 表示灯	240
※2		eco IDLE 表示灯	213

表示灯		参照先
※3		eco IDLE OFF 表示灯 214
※2		スマートアシスト作動灯 183, 184
※2、4		スマートアシスト OFF 表示灯 182
※2		車線逸脱警報作動灯（点滅） 184
※2、4		車線逸脱警報 OFF 表示灯 182
		オートハイビーム作動灯（緑色） 167
※5		コーナーセンサー表示灯 223

- ※1 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。
- ※2 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※3 eco IDLE システムに異常があるときは点滅します。
- ※4 スマートアシストⅢに異常があるときも点灯します。
- ※5 コーナーセンサーに異常があるときも点灯します。

警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や、数秒後またはエンジンを始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

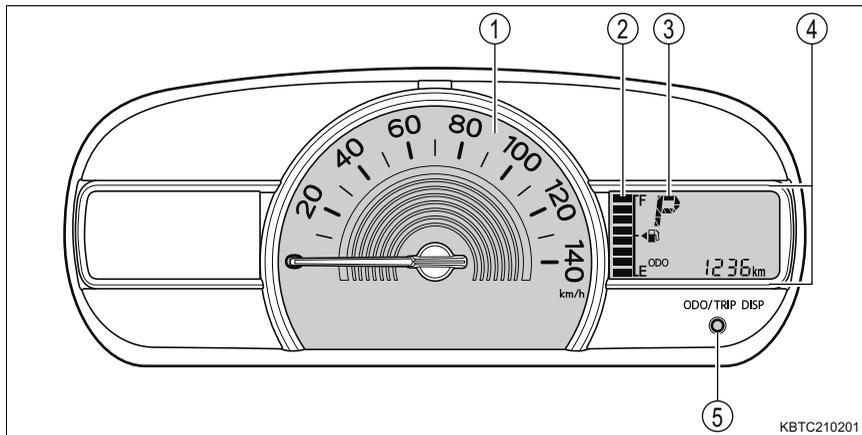
ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

 **注意****■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 340）が装備されています。高水温警告灯が赤色点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 377）

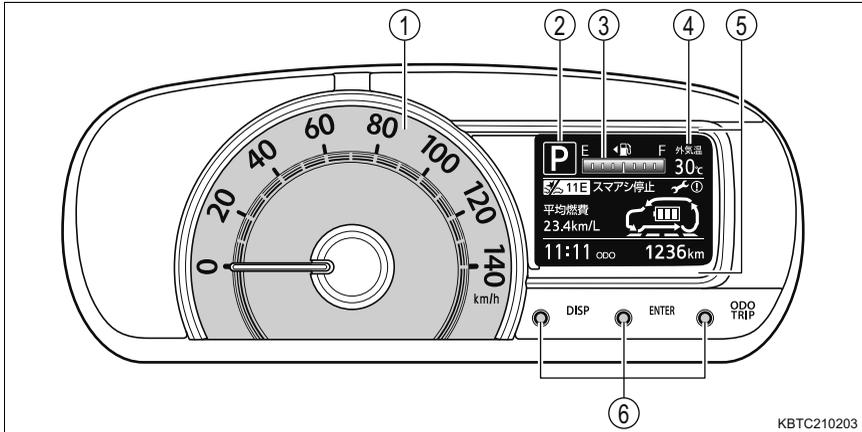
計器類

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



- ① スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ② 燃料計
燃料残量を示します。
- ③ シフトポジション表示
選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 158)
- ④ マルチインフォメーションディスプレイ
車両に関するさまざまな情報を表示・設定します。(→ P. 71)
- ⑤ 表示切りかえスイッチ
トリップインフォメーションの表示を切りかえます。(→ P. 72)

▶ TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車



① スピードメーター

車両の走行速度を示します。

② シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 158)

③ 燃料計

燃料残量を示します。

④ 外気温

外気温を表示します。(→ P. 81)

⑤ TFT マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示・設定します。(→ P. 77)

⑥ 操作スイッチ

TFT マルチインフォメーションディスプレイの画面の表示・設定を切りかえます。(→ P. 78)

 知識■ **メーター・ディスプレイの作動条件**

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ **液晶ディスプレイについて(TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車)**

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

 **注意**■ **エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 340）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 377）

- TFTマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、警告メッセージ（→ P. 347）も同時に表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ★

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。

●トリップインフォメーション (→ P. 72)

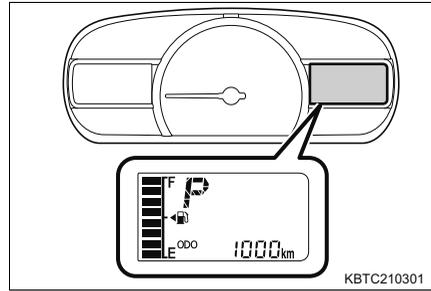
表示される項目は次のとおりです。

- ・ オドメーター
- ・ トリップメーター A / B
- ・ 平均燃費
- ・ 航続可能距離
- ・ 外気温
- ・ アイドリングストップ時間
- ・ アイドリングストップ積算時間
- ・ メーター照度調整

●シフトポジション表示 (→ P. 158)

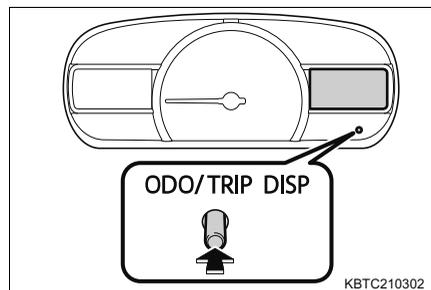
●スマートアシストⅢ機能停止コード表示 (→ P. 355)

●コーナーセンサー作動表示 (→ P. 223)



表示切りかえ

トリップインフォメーションの表示を切りかえるには、表示切りかえスイッチを押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーション

■ オドメーター



走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A※ / トリップメーター B※



リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーター A またはトリップメーター B の表示中に表示切りかえスイッチを押し続けます。

※ 区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 平均燃費



リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に表示切りかえスイッチを押し続けます。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離



現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ 外気温



- 外気温を表示します。

外気温：-30℃～50℃の間で表示します。

- 外気温が 3℃以下になると路面凍結警告を表示します。

温度表示が点滅し、路面凍結の可能性あることを表示します。

■ アイドリングストップ時間



エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にするまでのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジン停止時間）を通算で表示します。

■ アイドリングストップ積算時間



リセットしてからのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジンの停止時間）を通算で表示します。

リセットするには、アイドリングストップ積算時間表示中にメーター内の表示切りかえスイッチを押し続けます。

■ 照度調整



メーターの照度が夜照度（→ P. 75）のときに表示します。

- 照度調整表示が表示中に表示切りかえボタンを長押しすることで、メーターの照度を 4 段階で調整できます。
- 周囲が暗いときに車幅灯を点灯して調整します。

ユーザーカスタマイズ画面

ユーザーカスタマイズ画面に切りかえることで、アイドリングストップ時間割り込み表示の ON / OFF を変更することができます。

■ 設定変更のしかた

- 1 表示切りかえスイッチを押して、アイドリングストップ時間を表示する
- 2 アイドリングストップ時間表示中に表示切りかえスイッチを押し続け、表示設定の画面に切りかえる
- 3 表示設定の画面で表示切りかえスイッチを押し続けると ON / OFF が切りかわる

① 表示

② 非表示



 知識**■ 平均燃費について**

- エンジンスイッチを“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

■ 航続可能距離について

- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。

■ 外気温について

- 外気温の測定が正しく行われないときは「—℃」と表示されます。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

■ 路面凍結警告表示について

- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。
- エンジンスイッチを“ON”にしたとき、外気温がすでに 3℃以下の場合、警告表示されません。
- 路面凍結警告がいったん表示されると、外気温が 4℃以上に上がってから、3℃以下に下がらないと再び警告表示されません。

■ メーター照度について（昼照度と夜照度）

- メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切り替わります。
 - ・ 昼照度：周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき
 - ・ 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき
- 夜照度になると、メーター照明は次のように変化します。
 - ・ 指針と文字盤の照明が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイの照明が減光されます。ただし、夜照度の設定をいちばん明るくした状態では、マルチインフォメーションディスプレイの照明が減光しません。

 **警告****■ 走行中の警告**

表示切りかえスイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ 設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

■ 航続可能距離について

航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら、早めに燃料を補給してください。

TFT マルチインフォメーションディスプレイ★

TFT マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。

表示内容

●トリップインフォメーション

表示される項目は次のとおりです。

- ・ オドメーター
- ・ トリップメーター A / B

●ドライブインフォメーション

表示される項目は次のとおりです。

- ・ 平均燃費
- ・ 発電状態表示
- ・ エコリーフゲージ
- ・ 航続可能距離
- ・ 今回燃費
- ・ アイドリングストップ積算時間
- ・ 節約燃料
- ・ メッセージ確認

●外気温（→ P. 81）

外気温を表示します。

●アイドリングストップ時間／節約燃料（自動表示）（→ P. 81）

●シフトポジション表示（→ P. 158）

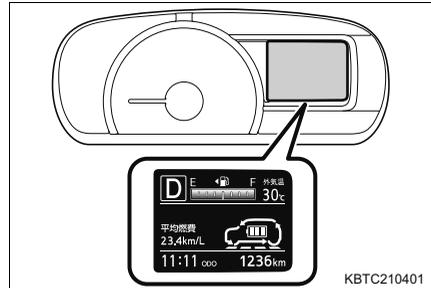
●設定（→ P. 84）

日時の修正や、画面の設定・変更を行います。

●警告メッセージ（→ P. 346）

各システムに異常が発生すると、自動で表示されます。

●スマートアシストⅢ機能停止表示（→ P. 355）



表示切りかえ

操作スイッチを押して、画面の表示切りかえ、設定をします。

① DISP スイッチ

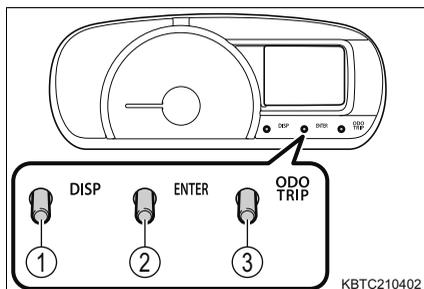
- ドライブインフォメーションの表示を切りかえます。(→ P. 79)
- 画面設定・変更時の下送りをします。(→ P. 84)

② ENTER スイッチ

画面設定・変更時の決定・選択をします。(→ P. 84)

③ ODO/TRIP スイッチ

- トリップインフォメーションの表示を切りかえます。(→ P. 78)
- 画面設定・変更時の上送りをします。(→ P. 84)



トリップインフォメーション

ODO/TRIP スイッチを押すごとに次のように切りかわります。

① オドメーター

走行した総距離を表示します。

② トリップメーター A*

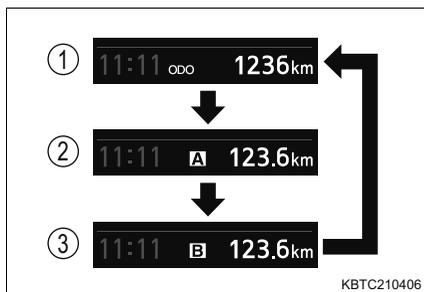
リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするには、トリップメーターAの表示中に ODO/TRIP スイッチを押し続けます。

③ トリップメーター B*

リセットしてからの走行距離を表示します。

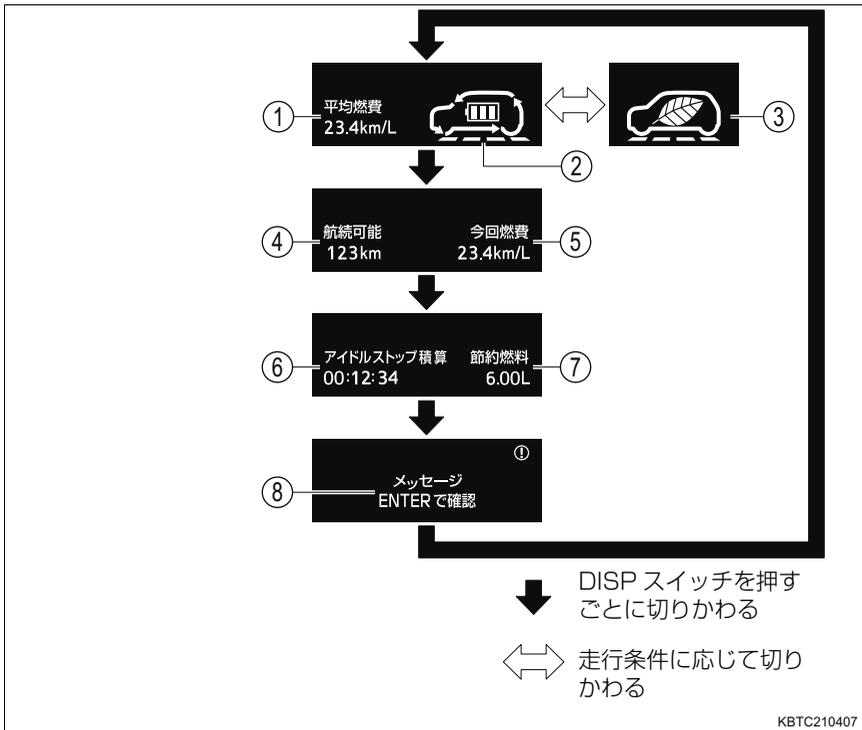
リセットするには、トリップメーターBの表示中に ODO/TRIP スイッチを押し続けます。



* 区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

ドライブインフォメーション

DISP スイッチを押すごとに、または走行条件に応じて次のように切りかわります。



① 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを押し続けます。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

② 発電状態表示※

アクセルペダルから足を離して減速しているときの発電状態を表示します。

③ エコリーフゲージ※

エコリーフゲージの設定が ON でアクセルペダルを踏んでいるとき、環境に配慮した運転の度合を判定し、エコリーフゲージの目盛りが 3 段階で増減します。(→ P. 142)

④ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

⑤ 今回燃費

エンジンスイッチを“ON”にしてからの平均燃費を約 10 秒ごとに更新して表示します。

⑥ アイドリングストップ積算時間

リセットしてからのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジンの停止時間）を通算で表示します。

リセットするには、アイドリングストップ積算時間表示中に DISP スイッチを押し続けます。（節約燃料もリセットされます）

⑦ 節約燃料

リセットしてからのアイドリングストップによる燃料の節約量を通算で表示します。

リセットするには、節約燃料表示中に DISP スイッチを押し続けます。（アイドリングストップ積算時間もリセットされます）

⑧ メッセージ確認

次のとき、「ENTER で確認」と表示されますので、ENTER スイッチを押してメッセージを確認してください。

メッセージを複数記憶している場合は、DISP スイッチを押すと表示が切りかわります。

- 警告メッセージを記憶しているとき（→ P. 346）
 - 「スマアシ停止」と表示されているとき（→ P. 355）
- メッセージを記憶していないときは「メッセージなし」と表示されます。

※ 発電状態表示とエコリーフゲージは、走行条件に応じて表示が切りかわります。

外気温

- 外気温 (①) を表示します。

外気温： - 30℃～ 50℃の間で表示します。

- 外気温が 3℃以下になると路面凍結警告を表示します。

温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることを表示します。



KBTC210408

アイドリングストップ時間／節約燃料 (自動表示)

アイドリングストップ (eco IDLE によるエンジン停止) したときに自動で表示します。

- アイドリングストップ時間の表示自動切りかえの設定が“ON”のときに表示されます。
- 表示中に DISP スイッチを押すと、前の表示画面にもどります。

- ① アイドリングストップ時間

エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にするまでのアイドリングストップ時間を通算で表示します。

- ② 節約燃料

エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にするまでのアイドリングストップによる燃料の節約量を表示します。



KBTC210409

メッセージアイコン／メンテナンスアイコン

エンジンスイッチが“ON”でお知らせがあるときに点灯します。

① メッセージアイコン

点灯しているときは、DISPスイッチを押してメッセージの内容を確認し、ただちに適切な処置を行ってください。(→ P. 80)

② メンテナンスアイコン

点灯しているときは、設定を確認し、メンテナンスを行ったあとに再度設定をしてください。(→ P. 83)



オープニング画面

エンジンスイッチを“ON”にしたとき、演出画面を表示したあとに日付とお知らせ画面を数秒間表示します。



次のお知らせ画面を表示することができます。

- 新年のごあいさつ
- 誕生日
- 記念日
- 車検日
- 点検日
- エンジンオイル交換
- オイルフィルター交換
- タイヤローテーション

■ 新年のごあいさつ

1月1日に表示します。

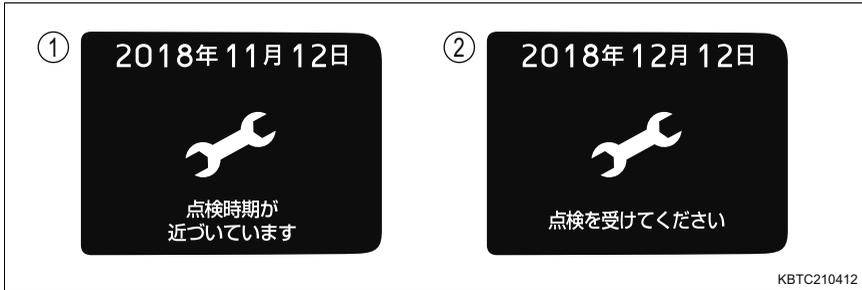
■ 誕生日、記念日

設定した日付に表示します。

■ 車検日、点検日

設定日まで残り 1 か月を切ったとき、設定日以降に 1 日 1 回表示します。

▶ 例：点検日



① 設定日まで残り 1 か月を切ったとき

② 設定日以降

■ エンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーション

設定距離まで残り 500 km を切ったとき、設定距離に到達したときに 1 日 1 回表示します。

▶ 例：エンジンオイル交換



① 設定距離まで残り 500 km を切ったとき

② 設定距離に到達したとき

エンディング画面

エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にするまでの走行の記録を表示します。

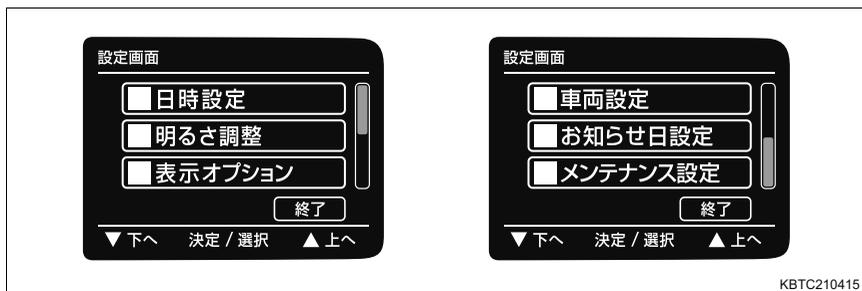


■ スコア（燃費）

エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にするまでの環境に配慮した運転の度合いを点数で表示します。

設定

エンジンスイッチが“ON”で停車時に、ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示し、表示の設定や調整、機能の ON/OFF の設定をすることができます。



車両走行中は操作できません。必ず安全な場所に停車して操作してください。



次の内容を設定、調整ができます。

- 日時 (→ P. 85)
- メーターの照度 (→ P. 86)
- オープニング画面、エンディング画面 (→ P. 87)
- エコリーフゲージの表示 (→ P. 87)
- 平均燃費の給油時リセット (→ P. 87)
- アイドルストップ時間の表示自動切り替え (→ P. 87)
- ハンドルポジションモニター (→ P. 87)
- 先行車発進、車線逸脱警報のブザー音量 (→ P. 88)
- 設定初期化 (→ P. 89)
- 誕生日・記念日・車検日・点検日 (→ P. 90)
- エンジンオイル交換・オイルフィルター交換・タイヤローテーション (→ P. 92)

■ 日時

日時を設定できます。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して「日時設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

- ・「日時設定」を表示しているとき、時計機能は作動を停止します。「戻る」または「終了」を選択すると、0 秒にリセットされた状態から作動を始めます。

- 3 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して「時」・「分」・「12H/24H」を選択し、ENTER スイッチを押す

- ・時・分は  が表示されたあと、

ODO/TRIP、DISP スイッチで数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。

- ・12H/24H は ENTER スイッチを押すたびに「12H」（12 時間表示）と「24H」（24 時間表示）が切りかわります。
- ・12H/24H の設定に関わらず時刻調整時は 24 時間表示になります。



- 4 ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押して「年」・「月」・「日」の画面に切りかえる
- 5 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して「年」・「月」・「日」を選択し、ENTER スイッチを押す



が表示されたあと、ODO/TRIP、DISP スイッチで数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。



KBTC210418

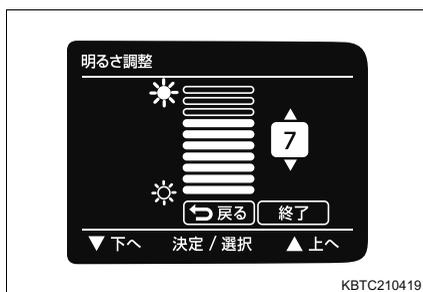
■ メーターの照度

メーターの昼照度または夜照度を調整できます。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する。
- 2 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して「明るさ調整」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 数値を選択し、ENTER スイッチを押す



- が表示されたあと、ODO/TRIP、DISP スイッチで照度を調整し、再度 ENTER スイッチを押します。
- 昼照度は周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているときに調整します。
- 夜照度は周囲が暗いときに車幅灯を点灯して調整します。
- 10段階で調整できます。



KBTC210419

■ その他の表示オプション設定

次の機能の ON/OFF を設定することができます。

- オープニング画面、エンディング画面の表示
- エコリーフゲージの表示
- 平均燃費の給油時リセット
- アイドリングストップ時間の表示自動切りかえ
- ハンドルポジションモニター（ハンドル位置の警告メッセージの表示）
（→ P. 351）

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して「表示オプション」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押して「表示オプション」の画面を切りかえる



- 4 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して各機能の「ON」、または「OFF」を選択し、ENTER スイッチを押す
ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切りかわります。

■ 先行車発進、車線逸脱警報ブザー音量設定

スマートアシストⅢの先行車発進お知らせ機能、車線逸脱警報機能作動時のブザー音量を変更することができます。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押して「設定画面」の画面を切りかえ、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して各機能の「大」、または「小」を選択し、ENTER スイッチを押す
ENTER スイッチを押すごとに「大」、「小」が切りかわります。



■ 表示設定初期化

表示の設定を初期化（出荷時の状態）することができます。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する。
- 2 ODO/TRIP、TRIP スイッチを押し続けるか、数回押して「設定画面」の画面を切りかえ、「車両設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 ODO/TRIP、TRIP スイッチを押し続けるか、数回押して「設定画面」の画面を切りかえ、「表示設定初期化」を選択し、ENTER スイッチを押す



- 4 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して、「はい」を選択し、ENTER スイッチを押す



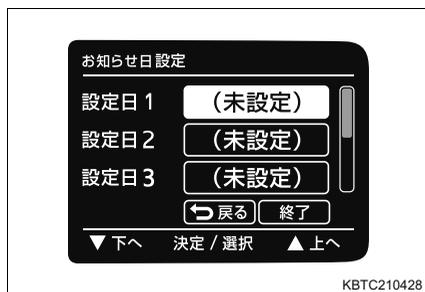
■ 初期設定一覧

項目		初期設定
明るさ調整	昼間用	レベル 10
	夜間用	レベル 6
表示オプション	オープニング、エンディング表示	ON
	エコリーフゲージ	ON
	平均燃費給油リセット	OFF
	アイドルストップ表示自動切替	ON
	ハンドルポジションモニター	ON
車両設定	先行車発進ブザー音量	大
	車線逸脱警告ブザー音量	大
お知らせ日設定	設定日 1 ~ 6	未設定
メンテナンス設定	オイル交換お知らせ	OFF
	オイルフィルター交換お知らせ	OFF
	タイヤローテーションお知らせ	OFF

■ お知らせ日設定

オープニング画面で表示される誕生日、記念日、車検日、点検日の通知日を設定できます。

- 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- ODO/TRIP、TRIP スイッチを押し続けるか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「お知らせ日設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- ODO/TRIP、DISP スイッチを押して 1 ~ 6 の「設定日」を選択し、ENTER スイッチを押す
4 ~ 6 の設定日は ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押すと表示できます。



- 4 カテゴリで ENTER スイッチを押

して  が表示されたあと、

ODO/TRIP、DISP スイッチで項目を選択する

誕生日、記念日、車検日、点検日のいずれかを選択し、再度 ENTER スイッチを押します。

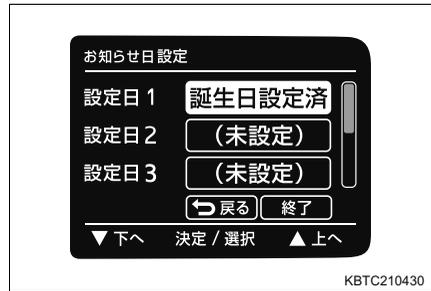


- 5 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して日付の「年」・「月」・「日」を選択し、ENTER スイッチを押す

•  が表示されたあと、ODO/TRIP、DISP スイッチで数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。

• 誕生日、記念日は、「年」の設定はありません。

- 6 設定完了後、ODO/TRIP、DISP スイッチを押して「戻る」を選択し、ENTER スイッチを押す
選択したカテゴリと「設定済」が表示されます。



■ メンテナンス設定

オープニング画面で表示されるエンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションの時期を距離で設定できます。

- 1 基本画面表示中に ENTER スイッチを押して「設定画面」を表示する
- 2 ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押して「設定画面」の画面を切りかえ、「メンテナンス設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
- 3 ON/OFF を設定する場合は、ODO/TRIP、DISP スイッチを押して各メンテナンス項目の「ON」、または「OFF」を選択し、ENTER スイッチを押す

オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押すと表示できます。

▶表示が「OFF」で距離が設定されていない場合は

「設定」の項目が表示されず、「ON」に切りかえると、「設定」の項目が表示されます。



▶すでに距離が設定されている場合は

ENTER スイッチを押すごとに「ON」、
「OFF」が切りかわります。



- 4 距離を設定、リセットする場合は、ODO/TRIP、DISP スイッチを押して各メンテナンス項目の「設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、ODO/TRIP、DISP スイッチを押し続けるか、数回押すと表示できます。



- 5 「リセット」が選択されている画面が表示されたら、ENTER スイッチを押す

すでに距離が設定されている場合は、次回お知らせまでの距離が表示されています。



- 6 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して距離を選択し、ENTER スイッチを押す



が表示されたあと、ODO/TRIP、DISP スイッチで距離を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。



- 7 ODO/TRIP、DISP スイッチを押して「決定」を選択し、ENTER スイッチを押す



次回お知らせまでの距離が表示されます。



知識

■ 平均燃費について

→ P. 75

■ 航続可能距離について

→ P. 75

■ 外気温について

→ P. 75

■ 路面凍結警告表示について

→ P. 75

■ メーター照度について（昼照度と夜照度）

- メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切り替わります。
 - ・ 昼照度：周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき
 - ・ 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき
- 夜照度になるとメーター照明が減光されます。ただし、夜照度の設定をいちばん明るくした状態では、照明が減光しません。

 知識

■「設定画面」の操作について

- ドライブインフォメーションがメッセージ確認を選択しているときは、「設定画面」を表示できません。(→ P. 79)
- 「設定画面」操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。
 - ・ 警告メッセージが表示されたとき
 - ・ 走行し始めたとき
- 一つ前の「設定画面」にもどるときは、ODO/TRIP、DISP スイッチを押して「戻る」を選択し、ENTER スイッチを押します。
- 「設定画面」を終了するときには、ODO/TRIP、DISP スイッチを押して「終了」を選択し、ENTER スイッチを押します。



■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

■ 液晶ディスプレイについて

→ P. 70

■ お知らせ画面について

- お知らせ画面は、1日に1回表示されます。
- 誕生日、記念日は、設定日2月29日にしている場合、うるう年以外の年は3月1日に表示します。

■ 発電制御（発電状態表示）について

減速時の発電によってバッテリーを集中充電することにより、走行中（加速やクルージングなど）の発電を抑制、燃料消費量を低減させ、燃費を向上させる効果があります。

 **警告****■ 走行中の警告**

操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ 設定を変更するとき

→ P. 76

 **注意****■ 低温時の画面表示について**

→ P. 76

■ ディスプレイの設定を変更するとき

→ P. 76

■ 航続可能距離について

航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、次の場合は早めに燃料を補給してください。

- 燃料計が“E”に近付いた
- 燃料残量警告灯が点灯した
- TFT マルチインフォメーションディスプレイに「給油してください」が表示された

各部の操作**3**

3-1. キー	
キー	98
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
キーフリーシステム	101
ワイヤレスリモコン	111
ドア（フロントドア、 リヤドア）	114
バックドア	119
3-3. シートの調整	
フロントシート	124
リヤシート	125
ヘッドレスト	127
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	130
インナーミラー	132
ドアミラー	133
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	136

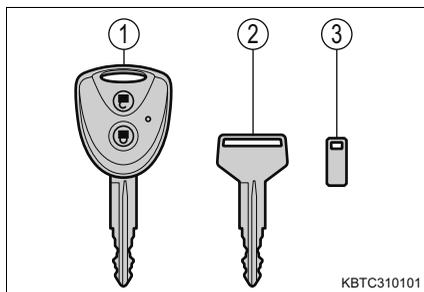
キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

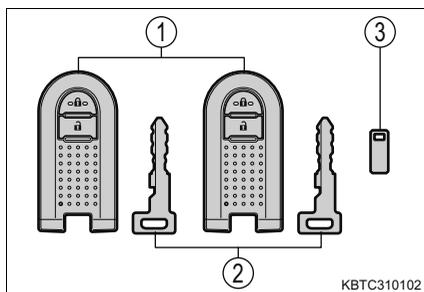
▶キーフリーシステム非装着車

- ① キー（ワイヤレスキー）
ワイヤレス機能の作動（→ P. 111）
- ② キー（スペアキー）
- ③ キーナンバープレート



▶キーフリーシステム装着車

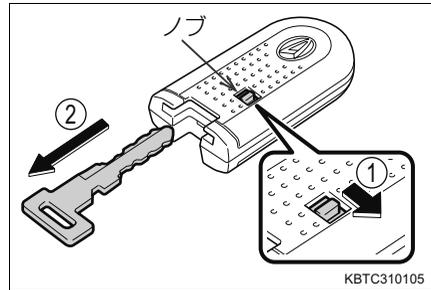
- ① 電子カードキー
キーフリーシステムの作動（→ P. 101）
ワイヤレス機能の作動（→ P. 111）
- ② エマージェンシーキー
- ③ キーナンバープレート



エマージェンシーキーを使うには（キーフリーシステム装着車）

- ① ノブをスライドする
- ② エマージェンシーキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子カードキーと一緒に携帯してください。電子カードキーの電池が切れたときやキーフリーシステムが正常に作動しないとき、エマージェンシーキーが必要になります。（→ P. 372）



知識

■ キー（キーフリーシステム非装着車）またはエマージェンシーキー（キーフリーシステム装着車）を紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、ダイハツサービス工場でダイハツ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

→ P. 109, 113

■ 電子カードキー（キーフリーシステム装着車）の状態や、エンジンスイッチモードに関する警告メッセージが表示されたときは

車内への電子カードキーの閉じ込みや、同乗者による電子カードキーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子カードキーやエンジンスイッチなどの状態の確認を促すメッセージがTFTマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示内容に従ってすみやかに対処してください。（→ P. 352）

■ TFTマルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が残りわずかです」が表示されたときは（キーフリーシステム装着車）

電子カードキーの電池残量が残りわずかです。新しい電池と交換してください。（→ P. 312）

■ 電池の交換方法

→ P. 310

 知識

■ キーのご購入について

ワイヤレスキー★・電子カードキー★は最大 4 個まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キー取り扱いの注意

ワイヤレスキー★・電子カードキー★は電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ キーフリーシステム★の故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子カードキーをお持ちください。

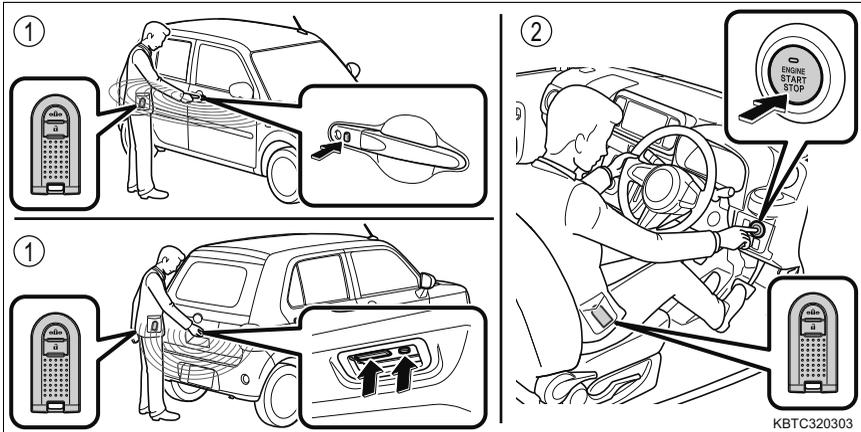
■ 電子カードキー★を紛失したとき

電子カードキーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子カードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにダイハツサービス工場にご相談ください。

キーフリーシステム★

機能概要

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。(必ず運転者が携帯してください)



- ① 全ドアを施錠・解錠する (→ P. 102)
- ② エンジンを始動する (→ P. 150)

知識

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ カスタマイズ機能

作動の合図を変更することができます。(カスタマイズ一覧: → P. 388)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

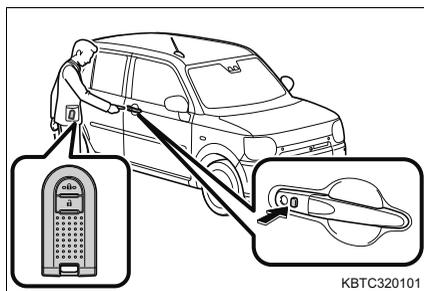
→ P. 112

ドアの施錠・解錠

▶ フロントドアハンドル

リクエストスイッチを押して解錠する

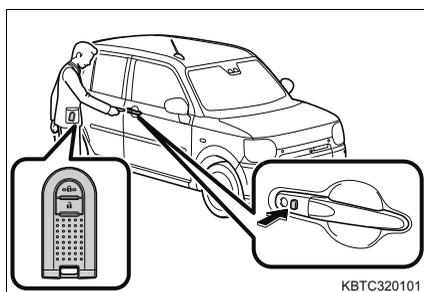
スイッチを確実に押してください。



リクエストスイッチを押して施錠する

スイッチを確実に押してください。

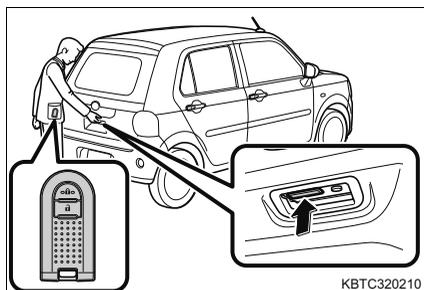
必ず施錠されたことを確認してください。



▶ バックドア

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

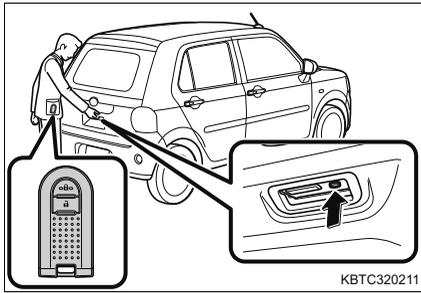
スイッチを確実に押してください。



リクエストスイッチを押して施錠する

スイッチを確実に押してください。

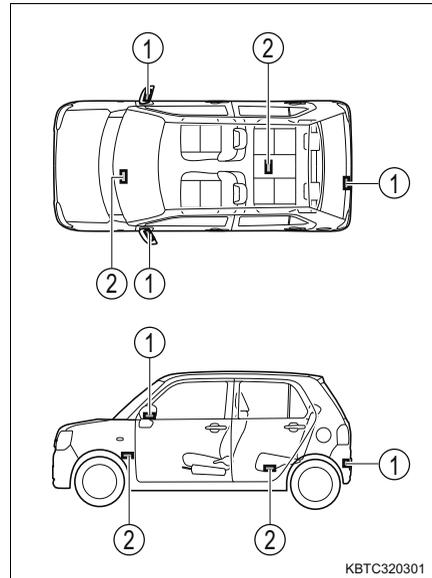
必ず施錠されたことを確認してください。



発信機の位置と作動範囲

■ 発信機の位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車室内アンテナ



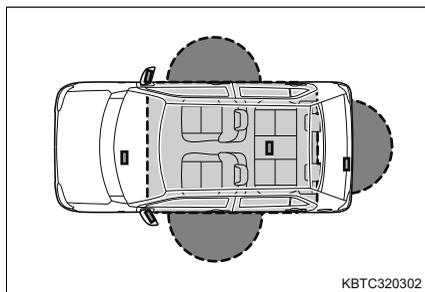
■ 作動範囲（電子カードキーの検知エリア）

- ：ドアの施錠・解錠時
ドアハンドルから周囲約 80cm 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。
(電子カードキーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

- ：エンジン始動時またはモード切

りかえ時

車内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。



知識

■ 警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴って、警告灯が点灯したり、警告メッセージが表示されることがあります。警告灯が点灯したり、メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→ P. 340、346)

警告音が鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピピピピピ”、車外から“ピッピッピッ”と鳴る	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉めた	電子カードキーを携帯して乗車してください
車内から“ピーンピーンピーン…”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを“ACC”にした(“ACC”のときに運転席ドアを開いた)	エンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを閉めてください

 知識

警告音	状況	対処方法
車外から“ピーツ”と鳴る	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	エンジンスイッチを“OFF”にして施錠してください
	車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	電子カードキーを携帯して施錠してください
	いずれかのドアが開いているときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチやワイヤレスリモコンで施錠しようとした	すべてのドアを閉めて施錠してください
車外から“ピーツ”と鳴って、すべてのドアが解除した	車内に電子カードキーを置いたまま、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にして運転席のドアハンドルを引いたままドアを閉めた	電子カードキーを携帯して施錠してください
車外から“ピーツ”と鳴って、すべてのドアが解錠した（エンジンスイッチが“ACC”のときは鳴りません）	エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときに、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた	電子カードキーを携帯して施錠してください
車内から“ピッピッピ”と鳴る	電子カードキーの電池切れが近いときに、エンジンスイッチを“OFF”にした※	新しい電池に交換してください
車内から“ピーンピーン…”と鳴り続ける	運転席ドアが開いているときに、エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にした	運転席ドアを閉めてください

※ 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも警告ブザーが鳴ります。

 知識

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子カードキーと車両間の通信をさまたげ、キーフリーシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法: → P. 372)

- 電子カードキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・コインパーキング・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子カードキーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子カードキーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の車の電子カードキーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（電子手帳）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子カードキーを置いた場合

 知識

■ ご注意いただきたいこと

- 電子カードキーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子カードキーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ エンジン始動時またはモード切りかえ時に電子カードキーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれていた場合
- 電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。（作動範囲：→ P. 103）
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子カードキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外発信機に検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子カードキーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子カードキーが作動範囲内にあれば、電子カードキーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子カードキーを検知しているドア以外では、解錠できません。
場合によっては、解錠操作を行ったドアと反対側のドア付近に電子カードキーがある場合でも、電子カードキーを検知し、解錠されることがあります。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子カードキーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子カードキーが作動範囲内にある場合、洗浄などで水圧にてドアハンドルにあるスイッチが押され、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）
- 車室内または車両に近い位置に電子カードキーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、キーフリーシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）
- ドアハンドルにあるスイッチは確実に押して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチを早押しした場合、施錠・解錠されないことがあります。
- ドアハンドルにあるスイッチは強い力で押ししたり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

 知識**■ 施錠時の留意事項**

- 電子カードキーを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、施錠・解錠作動を繰り返すことがあります。その場合はキーを車両から2m以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。(キーの盗難に注意してください)
- 車内に電子カードキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして高圧な水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、車内のブザーが鳴ることがあります。
- ドアハンドルにあるスイッチに氷や雪、泥が付着した場合、スイッチが押せない場合があります。押せない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- ドアハンドルにあるスイッチを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。

■ 解錠時の留意事項

- ドアハンドルにあるスイッチを押しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどしてから再度(バックドアを除く)スイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 電子カードキーを携帯して洗車などで高圧な水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、施錠・解錠作動を繰り返すことがあります。その場合はキーを車両から2m以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。(キーの盗難に注意してください)
- 作動範囲内に他の電子カードキーがあるときは、ドアハンドルにあるスイッチを押してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。
- ドアハンドルにあるスイッチを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子カードキーを車両から2m以上離しておいてください。
- あらかじめキーフリーシステムを非作動にすることができます。
詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

■ システムを正しく作動させるために

電子カードキーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子カードキーを車両に近付けすぎないようにしてください。作動時の電子カードキーの位置や持ち方によっては、電子カードキーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。 : → P. 112)

 知識**■ キーフリーシステムが正常に作動しないとき**

- ドアの施錠・解錠：→ P. 372
- エンジンの始動：→ P. 372

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。また、電子カードキーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ キーフリーシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子カードキーの LED が点灯しない
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。(→ P. 353)
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子カードキーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ オーディオ
 - ・ パソコン
 - ・ AC アダプター
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 低周波治療器などの医療用電気機器
 - ・ 液晶表示器
 - ・ モーター類
 - ・ 電磁調理器

■ 電池が切れたとき

→ P. 310

■ 販売店で設定可能な機能

キーフリーシステムを非作動にすることができます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 388)

■ 販売店でキーフリーシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 111, 372)
- エンジンの始動・エンジンスイッチモードの切りかえ：→ P. 372
- エンジンの停止：→ P. 154

 **警告****■ 電波がおよぼす影響について**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されているかたは、アンテナ（→ P. 103）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

キーフリーシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

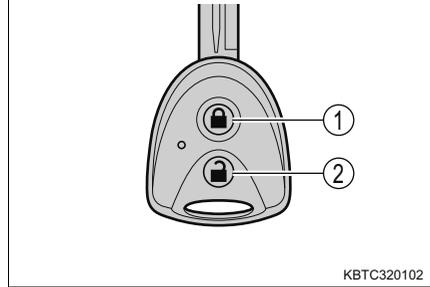
ワイヤレスリモコン

機能概要

ドアを施錠・解錠できます。

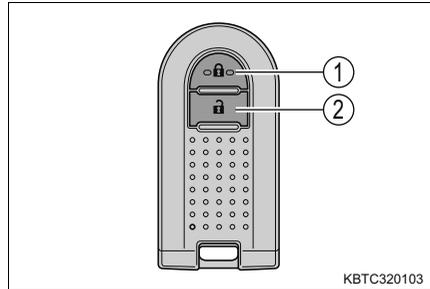
▶キーフリーシステム非装着車

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する



▶キーフリーシステム装着車

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する



 知識

■ 作動の合図

- ▶ キーフリーシステム非装着車
非常点滅灯の点滅でお知らせします。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)
- ▶ キーフリーシステム装着車
ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ カスタマイズ機能

作動の合図を変更することができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 388)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

- 施錠後、30 秒以上経過すると、セキュリティアラームが設定されます。
(→ P. 58)

■ キー閉じ込み防止機能

- キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。次の状態で作動します。
 - ▶ キーフリーシステム非装着車
エンジンスイッチにキーが挿し込まれているとき
 - ▶ キーフリーシステム装着車
 - ・ エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき
 - ・ 車内に電子カードキーがあるとき
- 次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。
 - ・ 車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にし、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
 - ・ すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

 知識

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

▶ キーフリーシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれがあります。

- ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

▶ キーフリーシステム装着車

→ P. 106

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

▶ キーフリーシステム非装着車

ドアの施錠・解錠 → P. 114

▶ キーフリーシステム装着車

ドアの施錠・解錠 → P. 372

■ 電池の消耗について

▶ キーフリーシステム非装着車

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。

次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

- ・ ワイヤレスリモコンが作動しない
- ・ 作動範囲が狭くなった

▶ キーフリーシステム装着車

→ P. 109

■ 電池が切れたとき

→ P. 310

■ キーのご購入について

→ P. 100

ドア（フロントドア、リヤドア）

ドアの施錠／解錠

キーフリーシステムやワイヤレス機能、キー、ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

■ キーフリーシステム★

→ P. 101

■ ワイヤレス機能

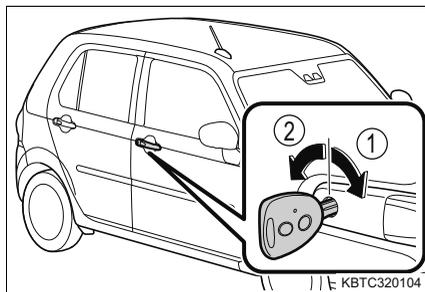
→ P. 111

■ キー

キーを操作すると、ドアが次のように作動します。

▶ キーフリーシステム非装着車

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



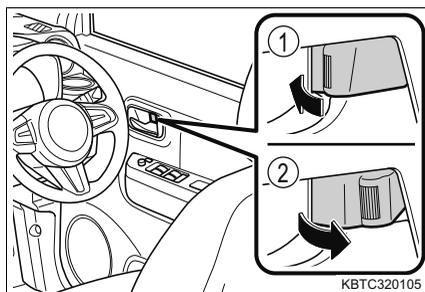
▶ キーフリーシステム装着車

エマージェンシーキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→ P. 372）

■ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席のドアを解錠（または施錠）すると、すべてのドアが解錠（または施錠）されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キーを使わずに外側から運転席を施錠するとき

- ① ロックレバーを施錠側にする
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶キーフリーシステム非装着車

キーがエンジンスイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

▶キーフリーシステム装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときや車内に電子カードキーが放置されているときは施錠されません。

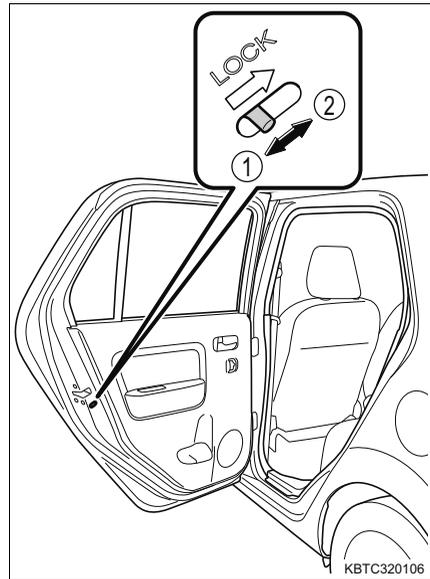
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側になると、リヤドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤドアを開けられないようにできます。両側のリヤドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能

車両の状況に応じて、すべてのドアを自動的に施錠・解錠する機能です。次の機能を設定・解除することができます。

▶ オートドアロック機能

機能	作動内容
車速感応オートドアロック (初期設定)	車速が約 20km/h 以上になると、全ドアが施錠されます。
シフト操作連動オートドアロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。

▶ オートドアアンロック機能

機能	作動内容
シフト操作連動オートドアアンロック (初期設定)	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
エンジンスイッチ "OFF" 連動オートドアアンロック	エンジンスイッチを "ACC" または "OFF" にすると全ドアが解錠されます。

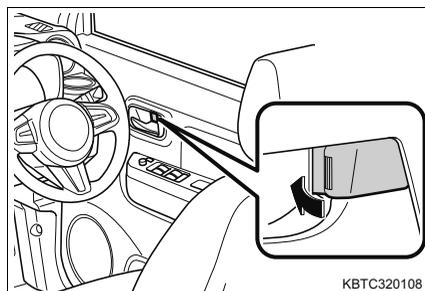
■ オートドアロック機能の切りかえ方法

次の手順を完了するごとに、オートドアロック機能が①、②、③の順で切りかわります。

- ① 車速感応オートドアロック機能
- ② シフト操作連動オートドアロック機能
- ③ 機能停止

1 車両を次の状態にする

- ランプスイッチを **AUTO** の位置にする
- エンジンスイッチを "OFF" にする
- 全ドアを閉める
- 運転席ドアのロックレバーを施錠側にする



2 エンジンスイッチを "ACC" にする (その後 5 秒以内に 3 を行う)

- 3 ランプスイッチを ○ の位置に操作して手を離す (その後 5 秒以内に 4 を行う)

④ 運転席ドアのロックレバーを解錠側にする

切りかえ操作が完了すると、運転席ドアのロックレバーを解錠側にしたあと、約3秒以内に全ドアが施錠されます。

操作を途中で中断したときは、もう一度はじめからやり直してください。

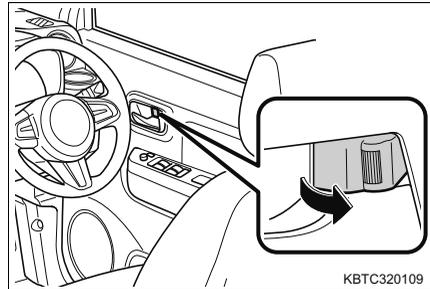
■ オートドアアンロック機能の切りかえ方法

次の手順を完了するごとに、オートドアアンロック機能が①、②、③の順で切りかわります。

- ① シフト連動オートドアアンロック
- ② エンジンスイッチ“OFF”連動オートドアアンロック
- ③ 機能停止

① 車両を次の状態にする

- ・ ランプスイッチを **AUTO** の位置にする
- ・ エンジンスイッチを“OFF”にする
- ・ 全ドアを閉める
- ・ 運転席ドアのロックレバーを解錠側にする



② エンジンスイッチを“ACC”にする（その後5秒以内に③を行う）

③ ランプスイッチを ○ の位置に操作して手を離す（その後5秒以内に④を行う）

④ 運転席ドアのロックレバーを施錠側にする

切りかえ操作が完了すると、運転席ドアのロックレバーを施錠側にしたあと、約3秒以内に全ドアが解錠されます。

操作を途中で中断したときは、もう一度はじめからやり直してください。

📖 知識

■ セキュリティアラームがセットされている場合

キーフリーシステム★やワイヤレスリモコンを使わずに解錠しドアを開けるとセキュリティアラームが作動します。作動した場合は、ただちにセキュリティアラームを停止してください。（→ P. 58）

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。

衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ キー閉じ込み防止機能

→ P. 112

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 113

■ カスタマイズ機能

キーフリーシステムの機能の一部、オートドアロック・アンロック機能の一部を変更することができます

(カスタマイズ一覧：→ P. 388)

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ オートドアロック・アンロック機能について

オートドアロック機能で施錠されたあとに解錠すると、再度施錠はされません。ただし、次のいずれかの状態になると再作動します。

- 停車中にいずれかのドアを開けた
- エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にした
- オートドアアンロック機能で解錠された

 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
- お子さまを後席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

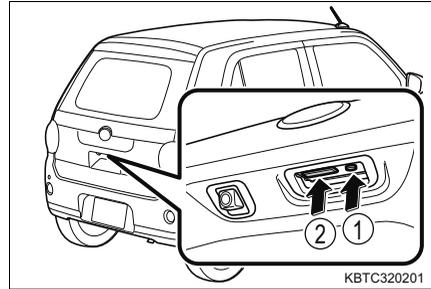
バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠／解錠

■ キーフリーシステム★

電子カードキーを携帯して操作します。

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する
バックドアが半ドア状態になります。



3

各部の操作

■ ワイヤレスリモコン

→ P. 111

■ キー

→ P. 114

車内からの施錠／解錠

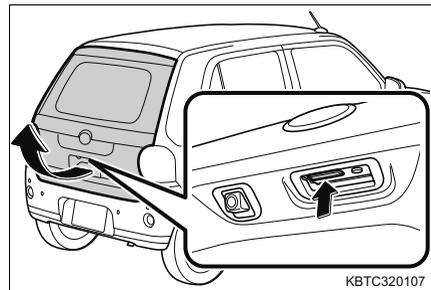
■ ロックレバー

→ P. 114

バックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押し
たまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押し
たあと、約 1 秒間はバックドアを閉める
ことができません。

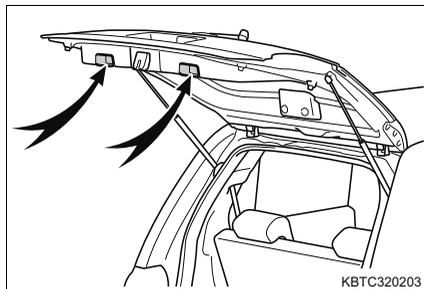


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドアを閉めるとき

バックドアインナーハンドルを持ってバックドアを引き下げる

必ず外から押して閉めてください。



知識

■ カスタマイズ機能

バックドアのスイッチ操作による作動を変更することができます。

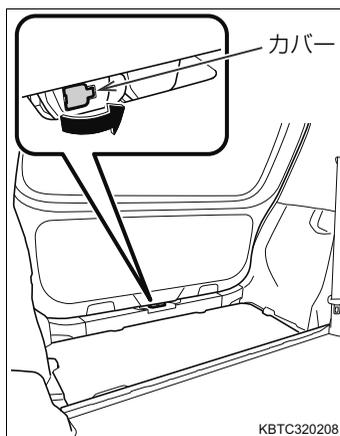
(カスタマイズ一覧：→ P. 388)

■ バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

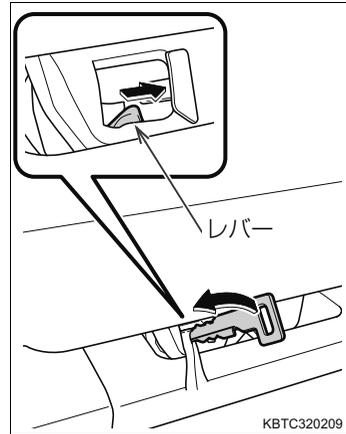
① リヤシートの背もたれを前に倒す (→ P. 125)

② カバーを開ける



知識

- 3 キー、またはエマージェンシーキーなどを使ってレバーを矢印の方向に動かす (→ P. 98)
傷が付くのを防ぐため、キーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



警告

■ 走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

- お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
 - お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

■ バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。

バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアインナーハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。

手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、ダイハツ純正品を使用することをおすすめします。

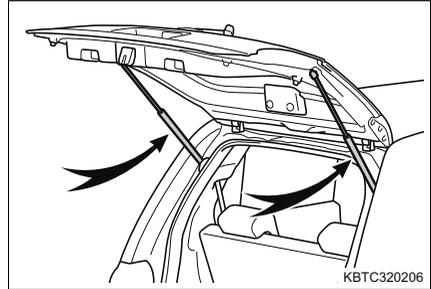
⚠ 注意**■ バックドアハンドルのスイッチについて**

バックドアハンドルのスイッチは強い力で押ししたり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

■ ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

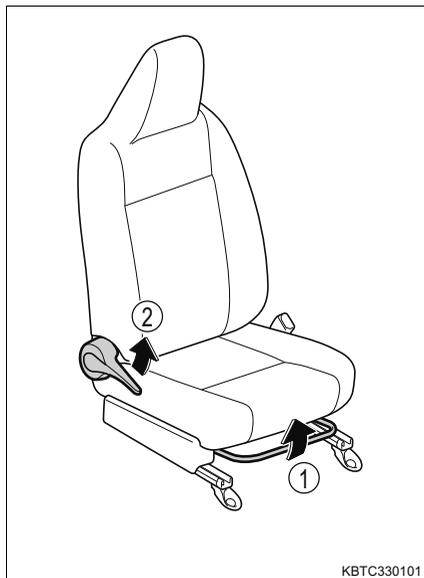
- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにダイハツ純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



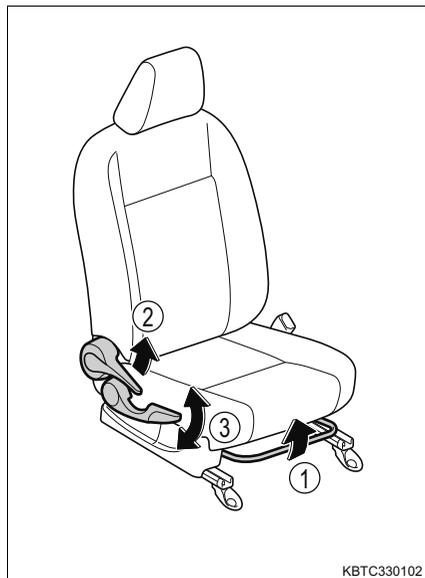
フロントシート

調整のしかた

▶調整式ヘッドレスト非装着車



▶調整式ヘッドレスト装着車



- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整★（運転席のみ）

⚠ 警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

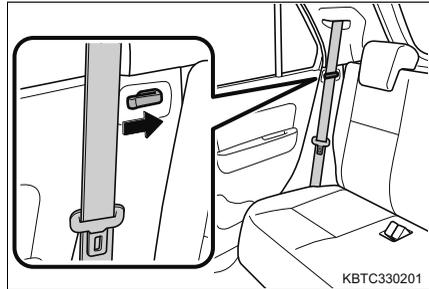
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤシート

前倒しのしかた

■ 前倒しする前に

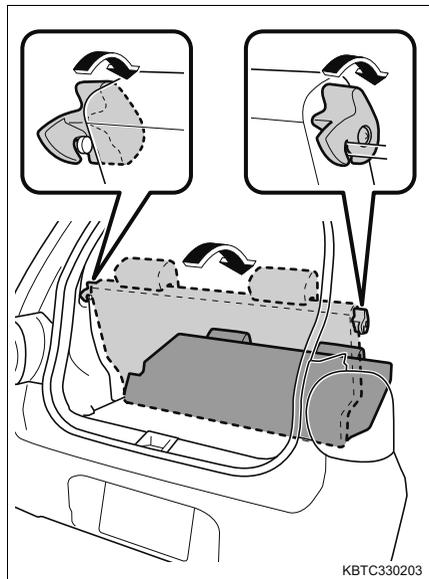
- ① シートベルトをベルトハンガーにかける

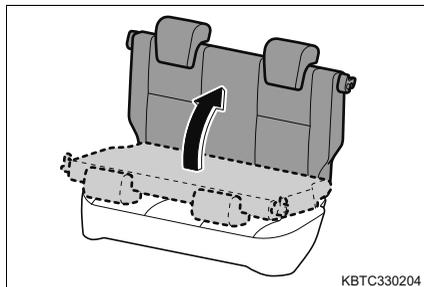


- ② ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→ P. 127)

■ リヤシートを前に倒すときは

両手で同時にシートバックフックを押し、背もたれを前方に倒す



■ リヤシートをもとにもどすときは**1** 背もたれを起こし、固定する**2** 後席シートベルトをベルトハンガーからはずす**⚠ 警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 背もたれを前に倒すときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ 背もたれをもとにもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
- シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認する

⚠ 注意**■ 背もたれを前に倒すときは**

背もたれを倒す前に、必ずシートベルトをベルトハンガーにかけてください。

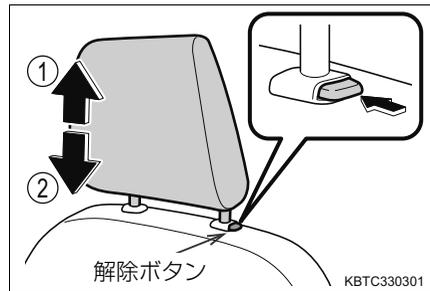
ヘッドレスト

フロントシート★

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

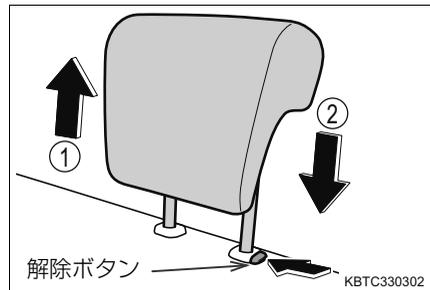


リヤシート

① 上げる

② 下げる

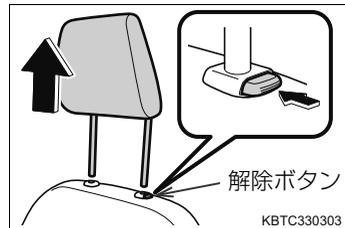
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



知識

■ フロントシートヘッドレストを取りはずすとき

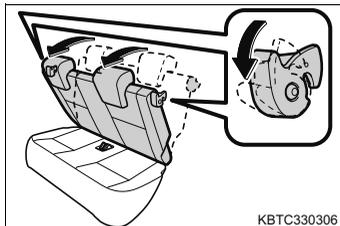
解除ボタンを押しながら取りはずします。



知識

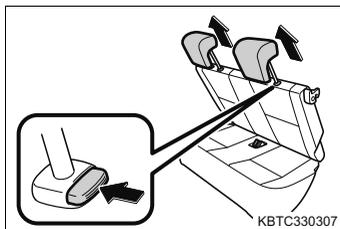
■ リヤシートヘッドレストを取りはずすとき

- 1 シートバックフックを引いて、背もたれを前に倒す
ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



KBTC330306

- 2 解除ボタンを押しながら、ヘッドレストをはずす



KBTC330307

■ ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。*

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

- * 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

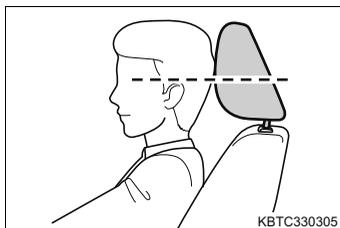


解除ボタン

KBTC330304

■ フロントシートヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



KBTC330305

■ リヤシートヘッドレストの使用について

使用するときには、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

 **警告****■ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

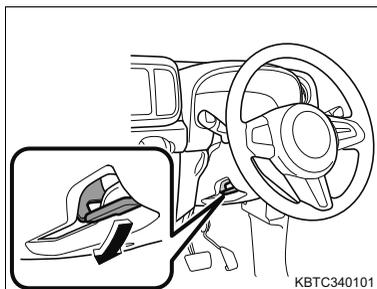
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

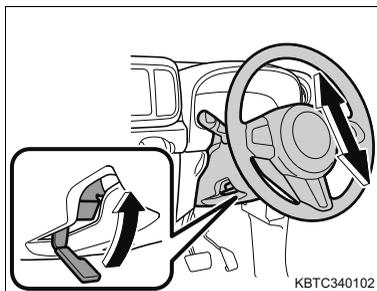
ハンドル

調整のしかた

- ① ハンドルを持ち、レバーを下げる

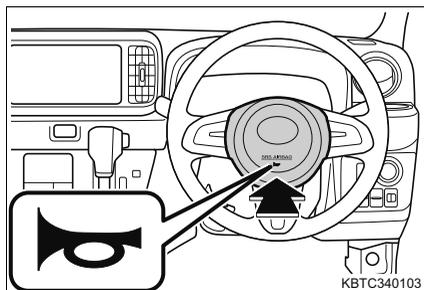


- ② ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 130）

 **警告****■ 走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

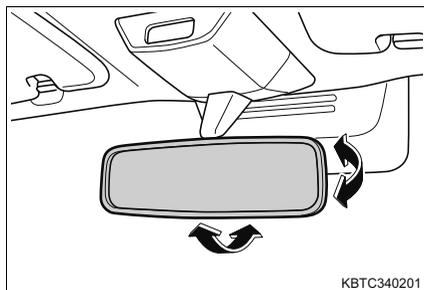
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの角度を調整することができます。

調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの角度を調整することができます。

インナーミラー本体を持って調整する



⚠ 警告

■ 走行中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

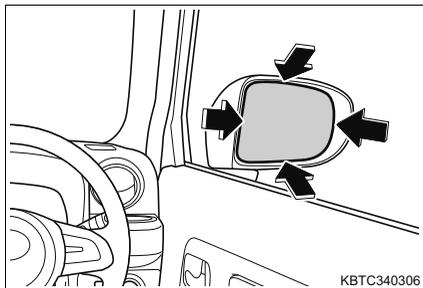
ドアミラー

調整のしかた

▶手動タイプ

ミラー鏡面を手で押して角度を調整する

調整後は運転席に座って、後方確認が十分であることを確認してください。

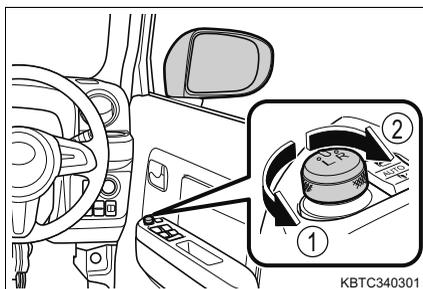


▶電動タイプ

スイッチで鏡面の角度調整をします。

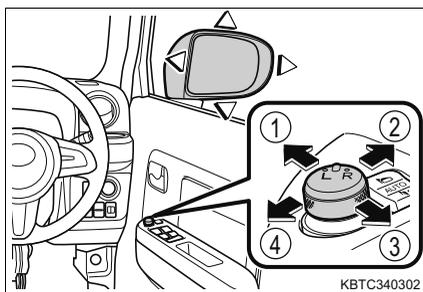
1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

- ① 左
- ② 右



2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

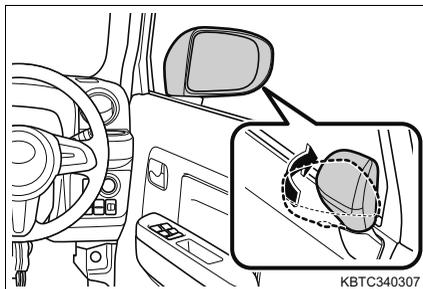
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する（手動タイプ）

ドアミラーを手で後方に押し格納する

手で前方に押し戻して元の位置にもどします。

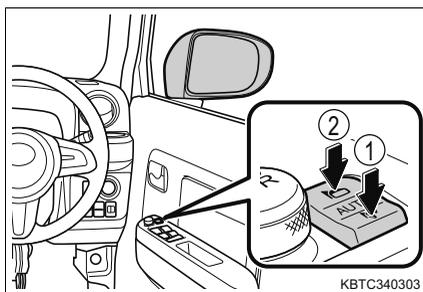


ドアミラーを格納する（電動タイプ）

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

スイッチを押す

- ① 格納する
- ② 復帰する



■ オート作動

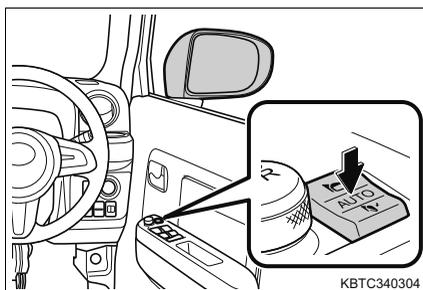
キーフリーシステムによるドアの施錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納します。

▶ 格納のしかた

- ① スイッチを“AUTO”（中立）の位置にする
- ② リクエストスイッチ操作、またはワイヤレスリモコン操作でドアを施錠する

▶ 復帰のしかた

エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にする



 知識**■ 作動条件（電動タイプ）**

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 251, 257）

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■ オート作動での格納（または復帰）をさせたくないとき

スイッチを復帰（または格納）の位置にしてください。

■ カスタマイズ機能

オート作動の作動内容などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 388）

 警告**■ 走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき（電動タイプ）

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

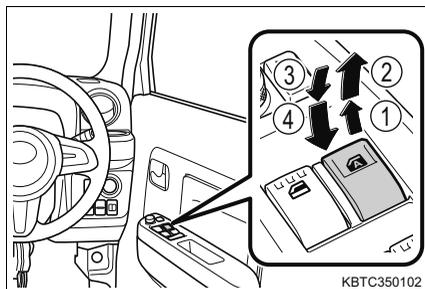
パワーウィンドウ

開閉のしかた

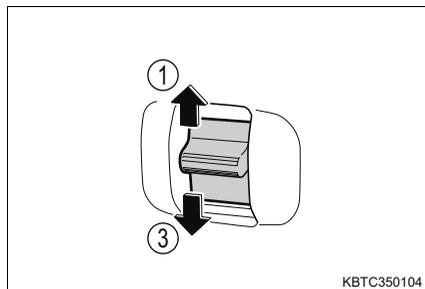
スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

▶ 運転席 / 助手席



▶ 後席



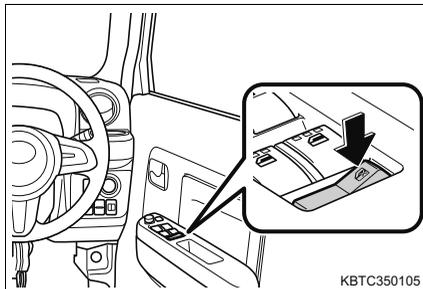
- ① 閉める
- ② 自動全閉（運転席のみ）※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開（運転席のみ）※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ エンジン停止後の作動（運転席のみ）

エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にしたあとでも、約 40 秒間はドアガラスを開閉できます。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 運転席ドアガラスを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、運転席ドアガラスを全閉できないときは、運転席ドアウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 1 車を停止し、エンジンスイッチを“ON”にする
- 2 運転席ドアウインドウスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉にしたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、ダイハツサービス工場での点検を受けてください。

■ バッテリーを再接続したときは

パワーウィンドウを適切に作動させるために、初期設定を次の手順で行ってください。

- ① エンジンスイッチを“ON”にする
 - ② 運転席ドアウインドウスイッチを下に押し続け、全開にする
 - ③ 運転席ドアウインドウスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉したあと、さらにスイッチを2秒間引き続ける
- ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

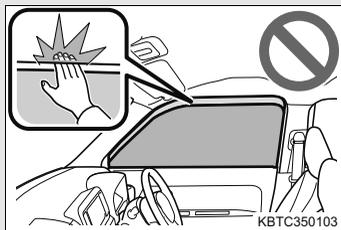
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 137)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを“OFF”にし、キーを携帯してお子さまも一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転

4

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 4-1. 運転にあたって | 4-4. 給油のしかた |
| 運転にあたって …………… 140 | 給油口の開け方 …………… 175 |
| 荷物を積むときの注意 …… 149 | 4-5. 運転支援装置について |
| 4-2. 運転のしかた | スマートアシストⅢ …………… 178 |
| エンジン（イグニッション） | 衝突警報機能（対車両・ |
| スイッチ（キーフリー | 対歩行者）、衝突回避支援 |
| システム非装着車）………… 150 | ブレーキ機能（対車両・ |
| エンジン（イグニッション） | 対歩行者）………… 189 |
| スイッチ（キーフリー | 誤発進抑制制御機能 |
| システム装着車）………… 153 | （前方・後方）………… 199 |
| CVT 車の運転………… 158 | 車線逸脱警報機能 …………… 208 |
| 方向指示レバー …………… 161 | 先行車発進お知らせ機能 …… 211 |
| パーキングブレーキ …………… 162 | アイドリングストップ |
| 4-3. ランプのつけ方・ | システム（eco IDLE）… 213 |
| ワイパーの使い方 | コーナーセンサー …………… 223 |
| ランプスイッチ …………… 163 | バックカメラ …………… 229 |
| オートハイビーム …………… 167 | パノラマモニター …………… 232 |
| ワイパー & ウォッシャー | 運転を補助する装置 …………… 239 |
| （フロント）………… 171 | 4-6. 運転のアドバイス |
| ワイパー&ウォッシャー | 寒冷時の運転 …………… 245 |
| （リヤ）………… 173 | |

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 150, 153

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 158)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 162)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 158)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかける
- 3 シフトレバーを P にする (→ P. 158)
- 4 エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止する
- 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはダイハツサービス工場で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ 上り坂発進について

ヒルホールドシステムが作動します。(→ P. 239)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離れたとき

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告灯が点灯します。(→ P. 342)

▶ TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車

- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告メッセージが表示されます。(→ P. 349)

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂部品（バンパー、バックドアなど）に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する

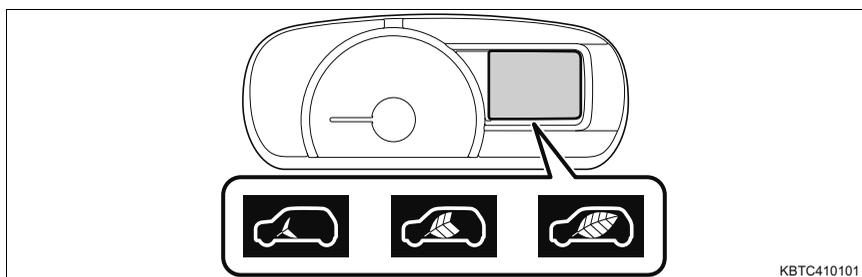
 知識

- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■ 環境に配慮した運転★

エコリーフゲージの設定が ON でアクセルペダルを踏んでいるとき、環境に配慮した運転の度合を判定し、エコリーフゲージの目盛りが 3 段階で増減します。

- シフトレバーが D のとき、環境に配慮した運転をすると目盛りが増えます。
- eco IDLE によるアイドリングストップ中はエコリーフゲージの目盛りがすべて表示されます。(→ P. 213)
- 車速によっては、表示されないことがあります。
- エコリーフゲージ表示の ON / OFF を設定できます。(→ P. 87)



KBTC410101

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いをさけるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 330を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 158)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。

運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

警告

- オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
また、フルタイム 4WD 車はオンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。
- 河を渡るなどの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員にあたり、荷物を破損したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

警告

- 走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くダイハツサービス工場にて点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

 **警告****■ 駐車するとき**

- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストールメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **警告****■ ブレーキをかけるとき**

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブをさけてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまうます。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは（4WD車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

脱出できないときは、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

 **注意****■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 358 を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んだエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずダイハツサービス工場で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・トランスファー (4WD 車)・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト (4WD 車)・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ フタのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかり安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- リヤシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ （キーフリーシステム非装着車）

エンジンのかけ方

- 1 正しい運転姿勢（→ P. 22）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーが P にあることを確認する
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 5 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

エンジンスイッチの位置の切りかえ

① “LOCK”（“OFF”）

シフトレバーが P のとき、キーを抜き挿しできます。

ハンドルロックがかかります。

非常点滅灯が使用できます。

② “ACC”

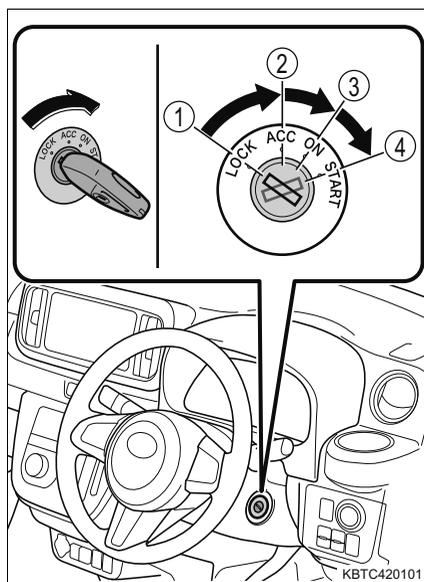
アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

③ “ON”

すべての電装品が使用できます。

④ “START”

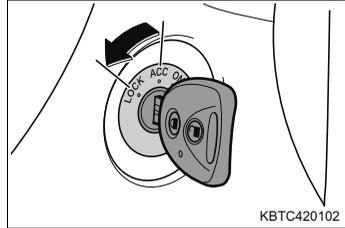
エンジンが始動できます。



 知識

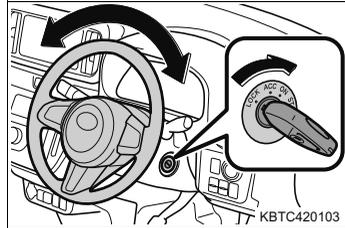
■ キーを“ACC”から“LOCK”(“OFF”)にまわすには

- 1 シフトレバーがPにあることを確認する
- 2 キーを“LOCK”(“OFF”)までまわす



■ ハンドルロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

 **警告****■ エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“OFF”にしないでください。

走行中にエンジンを停止すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”にしてエンジンを停止してください。(→ P. 330) 緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。

走行中にエンジンを停止するとハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにダイハツサービス工場にて点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ （キーフリーシステム装着車）

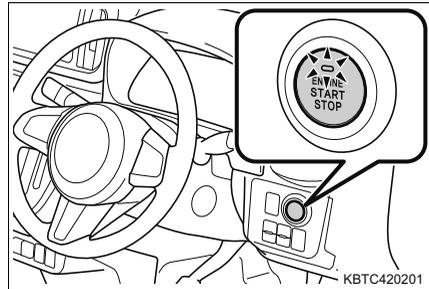
電子カードキーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

- 1 正しい運転姿勢（→ P. 22）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがPにあることを確認する
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏む

エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



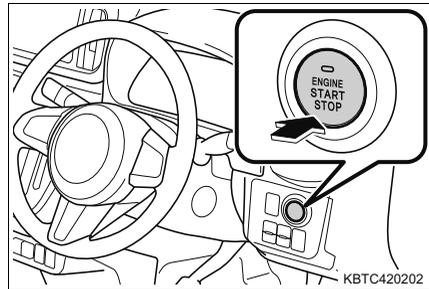
- 5 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大30秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモード（→ P. 154）からでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 162)、シフトレバーをPにする
- 3 エンジンスイッチを押す
- 4 ブレーキペダルから足を離して、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

“OFF”※

非常点滅灯が使用できます。

“ACC”

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

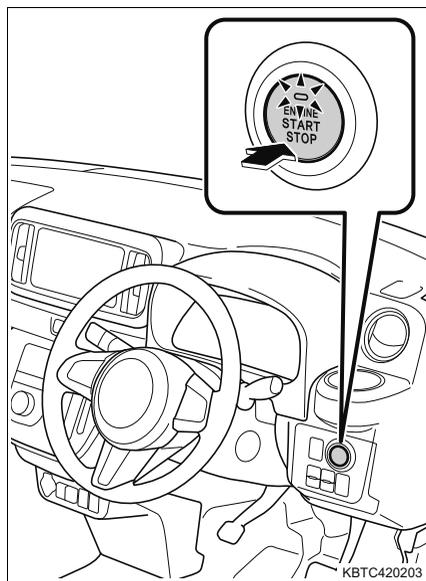
エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

“ON”

すべての電装品が使用できます。

エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※シフトレバーがP以外のときは“ACC”になり、“OFF”になりません。



シフトレバーがP以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチモードは“OFF”になりません。次の手順でOFFにしてください。

- ① パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- ② シフトレバーをPにする
- ③ エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを2回押す
- ④ エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーがPにあるとき、20分以上“ON”（エンジンがかかっていない状態）か1時間以上“ACC”にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で“OFF”になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”、または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ 電子カードキーの電池の消耗について

→ P. 109

■ キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 106

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 107

■ エンジンが始動しないとき

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 57）

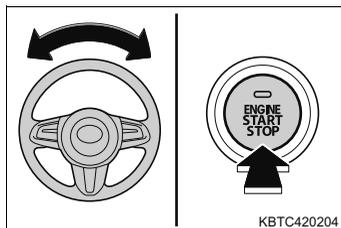
ダイハツサービス工場へご連絡ください。

■ ハンドルロックについて

エンジンスイッチを“OFF”にしたあとにバックドアを除くいずれかのドアを開閉すると、ハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ハンドルロックは自動で解除されます。

 知識**■ ハンドルロックが解除できないときは**

エンジンスイッチの表示灯がしばらく緑色に速く点滅します。



シフトレバーが P にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ ハンドルロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10秒程度でもとの状態にもどります。

■ エンジンスイッチの表示灯が黄色に点滅したとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ 電子カードキーの電池が切れたときは

→ P. 310

■ エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合や速く連続して押した場合は、モードの切り替えやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ “OFF” 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ “OFF” 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ カスタマイズ機能でキーフリーシステムを非作動にしたときは

→ P. 372

 **警告****■ エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ハンドルロックが作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 330)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンスイッチの表示灯が消灯していない場合エンジンスイッチが“OFF”になっていません。エンジンスイッチを“OFF”にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチが“ACC”となるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを始動するとき

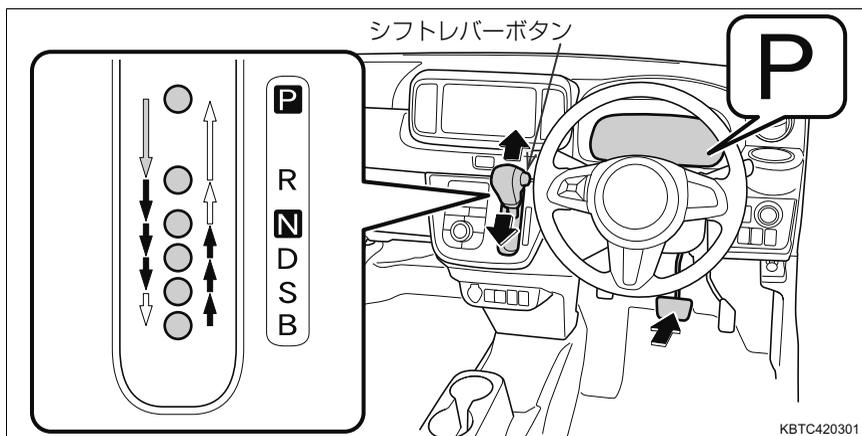
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにダイハツサービス工場にて点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにダイハツサービス工場にご連絡ください。

CVT 車の運転

シフトレバーの動かし方



- ← : エンジンスイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。
- ↔ : シフトレバーボタンを押して操作します。
- ← : シフトレバーボタンを押さずに操作します。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行*
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

* 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

知識

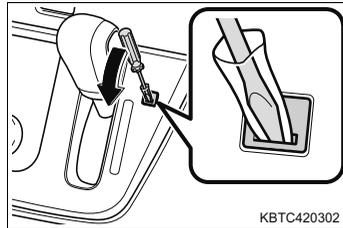
■ シフトレバーをPからシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

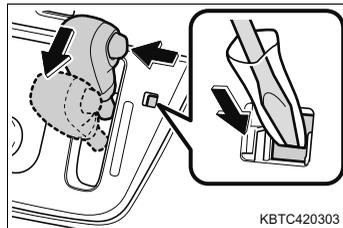
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにダイハツサービス工場での点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを“OFF”にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが“ON”でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

 **警告****■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

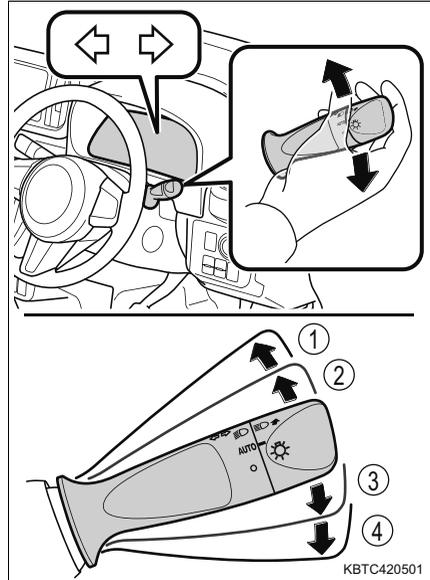
操作のしかた

レバー操作したあと、すぐにもとの位置にもどります。

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

- ④ 右折

※ ② または ③ の位置にレバー操作し、すぐに離れたときは方向指示灯が 3 回点滅します。



■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の ② または ③ の位置に操作してください。レバーを ① または ④ の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

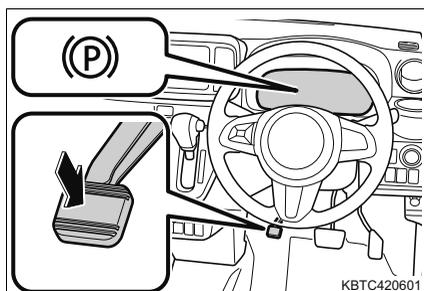
■ カスタマイズ機能

方向指示灯の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：P. 388）

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む(再度踏み込むと解除される)



知識

- 冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 246
- パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 343

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

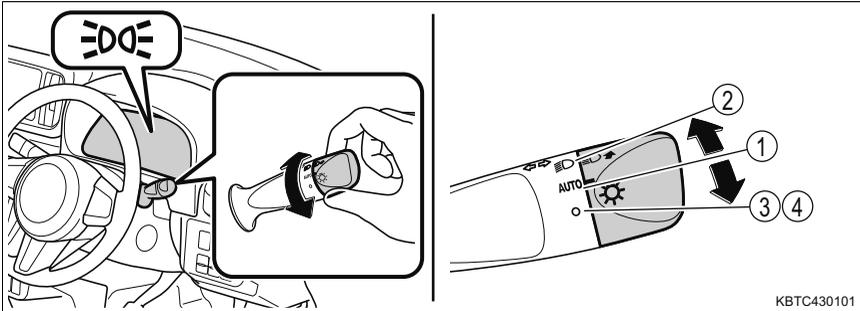
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

エンジンスイッチが“ON” のとき、次のように  スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯・消灯します。



KBTC430101

スイッチ位置		点灯・消灯するランプ	
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯
①	AUTO	自動点灯・消灯	
②		点灯※1	
③※2、3	○	消灯	点灯
④※2、4		消灯	

※1 エンジンスイッチが“ACC”または“OFF” のときも点灯します。

※2  スイッチを ○ の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。

※3 車速が約 3km/h 以下で自動点灯しているとき

※4 車速が約 3km/h 以下で  スイッチを約 1 秒以上操作したとき

■ ランプ類の再点灯について

☼ スイッチを ○ の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

- 車速が約 3km/h を超えたとき
- 再度 ☼ スイッチを ○ の位置に操作したとき
- エンジンスイッチを再度“ON”にしたとき
- 車速が約 3km/h 以下(停車時を除く)の状態のまま約 30 秒経過したとき

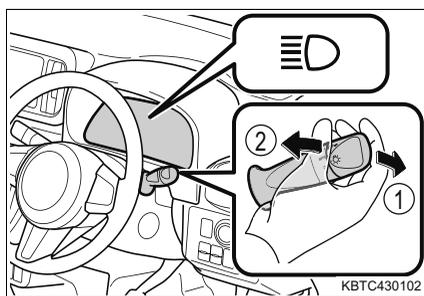
ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

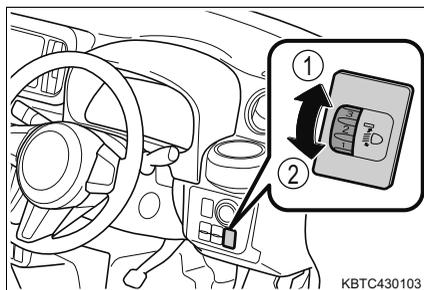
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



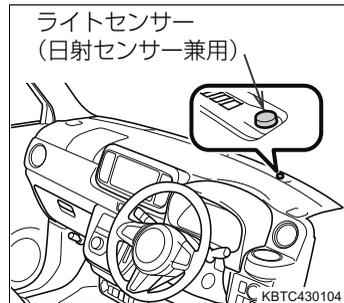
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	2
運転者	ラゲージルーム満載時	3

📖 知識

■ ライトセンサー

- 次のことをお守りください。
お守りいただかないと自動点灯・消灯機能が正常に動かなくなります。
 - ・ センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らない
 - ・ ガラスクリーナーなどを吹きかけない



■ ランプ消し忘れ防止機能

- ランプ類が点灯している状態で、エンジンスイッチを“ON”から“ACC”または“OFF”にすると、点灯していたランプ類が自動で消灯します。
- 再度ランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、再度  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

- エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”の状態、ヘッドランプ・尾灯を点灯して運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。
- TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車は、ブザーと共に警告メッセージが表示されます。(→ P. 351)

 知識

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”の状態、ヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後にすべてのランプが自動消灯します。

自動消灯したあと、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ランプ類が点灯します。

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき（ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します）
- いずれかのドアを開閉したとき（ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します）

 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。また、お車から離れるときは、必ずランプ類を消灯してください。

オートハイビーム

オートハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

オートハイビームを過信しないでください。オートハイビームは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切りかわらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

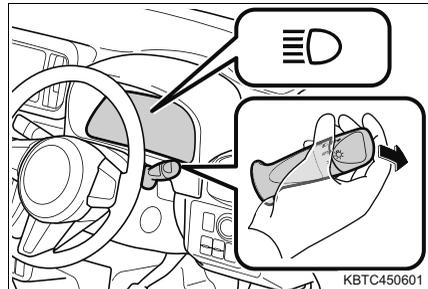
注意

■オートハイビームを正しく作動させるために

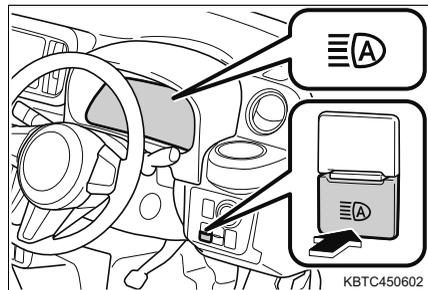
- 荷物を積み過ぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

オートハイビームの使い方

- 1 エンジンスイッチが“ON”で、ランプスイッチが**AUTO**または  の位置のときレバーを前方へ押す
ハイビーム表示灯が点灯します。



- 2 オートハイビームスイッチを押す
オートハイビームが作動すると、オートハイビーム作動灯が点灯します。



ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の街路灯が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 20km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の街路灯が明るい

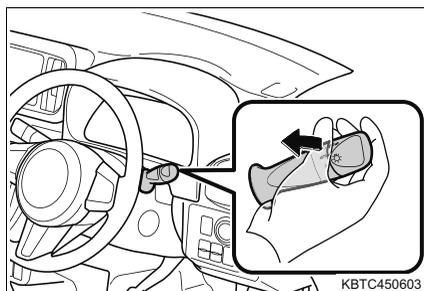
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートハイビーム作動灯が消灯します。

オートハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

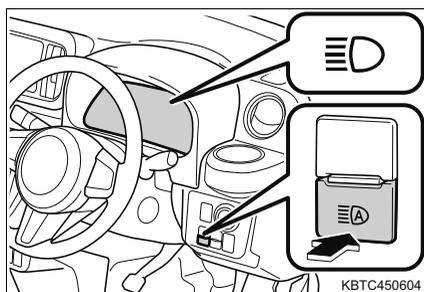


■ ハイビームへの切りかえ

オートハイビームスイッチを押す

オートハイビーム作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ オートハイビームについて

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- オートハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

 知識

- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
 - ・ ステレオカメラの温度が高いとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変形があったり光軸がずれているとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - ・ 著しくぬれた路面か圧雪路など、光を強く反射する路面のとき
- オートハイビーム警告灯★が点灯、または TFT マルチインフォメーションディスプレイ★に「オートハイビーム故障」の警告メッセージが表示されたときシステムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場にて点検を受けてください。

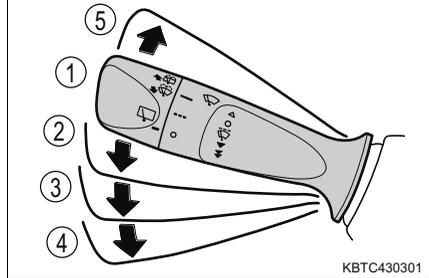
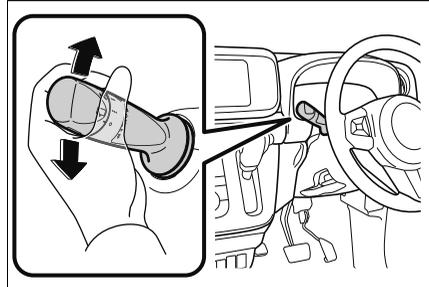
ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

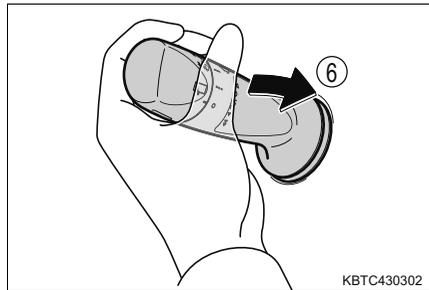
車速感应式間欠ワイパー装着車は  を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間がかわります。

- ① ○ : 停止
- ②  : 間欠作動
車速感应式間欠ワイパー装着車は、車速が高くなると、作動頻度が増えます。
- ③ ▼ : 低速作動
- ④ ▼▼ : 高速作動
- ⑤ ▲ : 一時作動



KBTC430301

- ⑥ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



KBTC430302

 **知識****■ 作動条件**

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ カスタマイズ機能

車速感応機能の設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：P. 388)

 **警告****■ ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはダイハツサービス工場へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

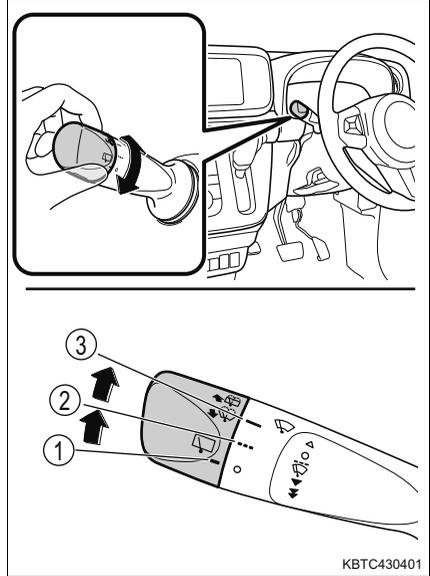
エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー&ウォッシャー (リヤ)★

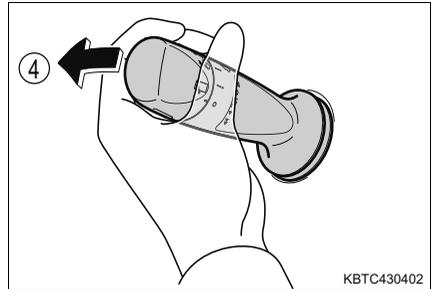
操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

- ① ○ : 停止
- ② --- : 約4秒間低速作動したあと、
間欠作動
- ③ — : 通常作動



- ④ ウォッシャー液を出す



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトレバーを R にするとリヤワイパーが数回作動します。

■ カスタマイズ機能

作動の間隔などの設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧 → P. 388)

 注意

■ リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはダイハツサービス工場へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを開めて、エンジンスイッチを“OFF”にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

無鉛レギュラーガソリンまたは無鉛プレミアムガソリン

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはつまみ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

- 喫煙しないでください。
- 携帯電話などを使用しないでください。
- ふきこぼれを防ぐため次の点に注意してください。

- ・ 給油口にノズルを確実に挿入する
- ・ 継ぎ足し給油をしない

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意**■ 給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

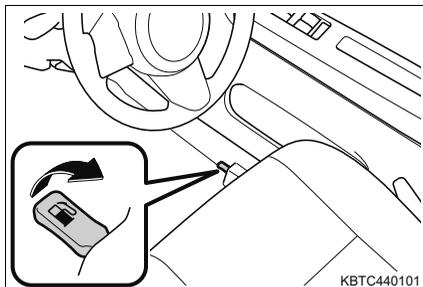
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

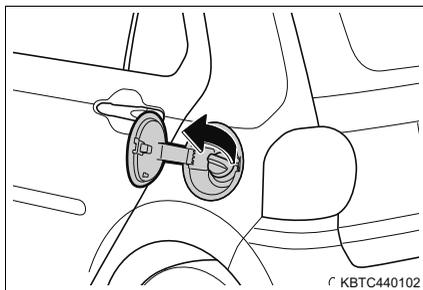
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジンの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

給油口の開け方

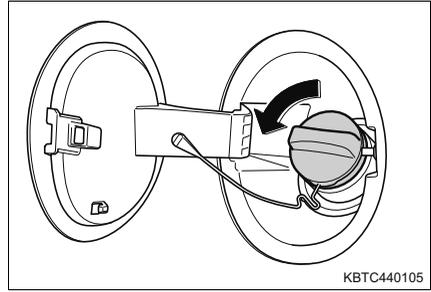
- 1 オープナーを引き上げて、給油口を開ける



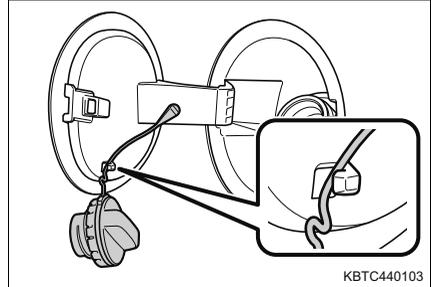
- 2 給油口を止まる位置まで開ける
給油口がもどらないことを確認する。



- 3 キャップをゆっくりまわして開ける

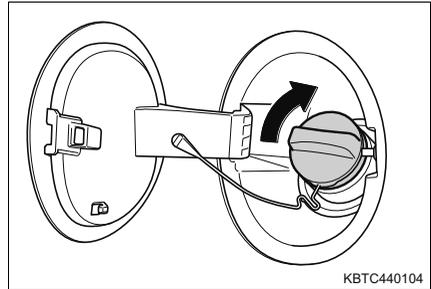


- 4 キャップをハンガーにかける



給油口を閉める

- 1 キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める
手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



- 2 給油口を閉める

警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずダイハツサービス工場へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スマートアシストⅢ

スマートアシストⅢは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

→ P. 189

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

→ P. 189

◆ 誤発進抑制制御機能（前方・後方）

→ P. 199

◆ 車線逸脱警報機能

→ P. 208

◆ 先行車発進お知らせ機能

→ P. 211

◆ オートハイビーム

→ P. 167

⚠ 警告

■ スマートアシストⅢについて

- スマートアシストⅢは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストⅢは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- 次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストⅢの機能を停止してください。（→ P. 182）
 - ・ タイヤの空気圧が適正でないとき
 - ・ スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
 - ・ 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
 - ・ メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
 - ・ タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
 - ・ サスペンションを改造したとき
 - ・ ステレオカメラの視界をさまたげるようなものを車両に取り付けたとき

 **警告**

- ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
- 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- 車両を改造・架装したとき
- けん引される時
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させたいとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
- 冠水した道を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯が点灯しているとき

車両データの記録について

スマートアシストⅢには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ハンドルおよびシフトレバーの操作状況
- 車速などの車両情報
- スマートアシストⅢの各機能の作動状況
- 先行車や障害物との距離、相対速度などの情報
- ステレオカメラの画像情報（2次ブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

■ データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ダイハツが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

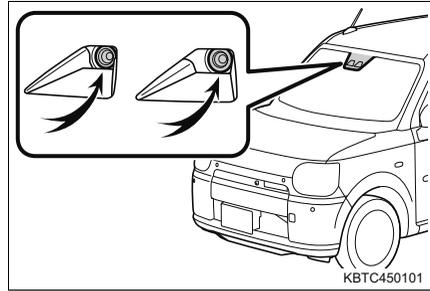
記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能に必要な情報を認識します。

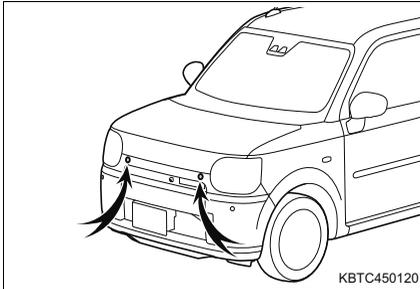
- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方）
- 車線逸脱警報機能
- 先行車発進お知らせ機能
- オートハイビーム



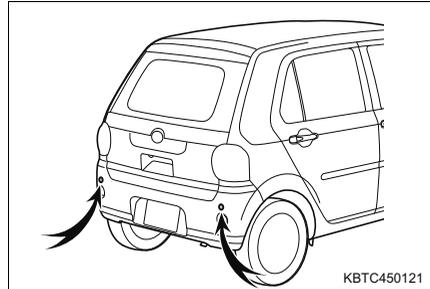
ソナー

ソナーは、誤発進抑制制御機能（前方・後方）に必要な情報を認識します。

▶ フロントソナー



▶ リヤソナー



スマートアシストⅢの機能を停止するには

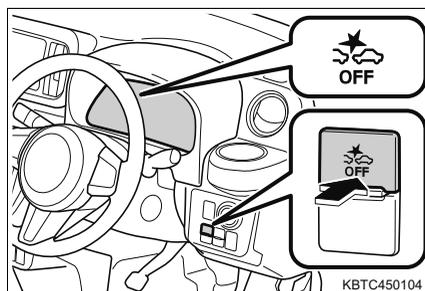
スマートアシスト OFF スイッチを押すことにより、スマートアシストⅢの機能を停止することができます。

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・誤発進抑制制御機能（前方・後方）・先行車発進お知らせ機能を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを2秒以上押し続ける

“ピピッ”とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。

もう一度2秒以上押し続けると、“ピピッ”とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態にもどります。



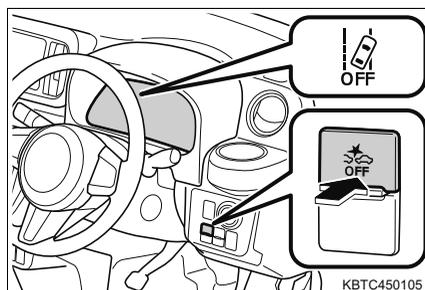
KBTC450104

■ 車線逸脱警報機能を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ”とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

もう一度押すと、“ピピッ”とブザーが鳴り車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態にもどります。



KBTC450105

知識

■ スマートアシストⅢの自動復帰について

次の機能は機能を停止した場合でも、エンジンスイッチを“ON”にすると自動的に作動可能状態にもどります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能

■ 車線逸脱警報機能について

車線逸脱警報機能の作動可能状態または停止状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

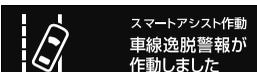
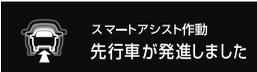
 知識

■ スマートアシストⅢの作動状態について

ブザーとメーター、ディスプレイの表示でスマートアシストⅢの作動状態をお知らせします。

ブザー	メーター	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピ ピッ”	—	<div style="text-align: right;">※1</div>  (点滅) <div style="text-align: right;">※2</div> 	衝突警報機能が作動
“ピピピピピ”と 鳴り続ける		<div style="text-align: right;">※1</div>  (点滅) <div style="text-align: right;">※2</div> 	衝突回避支援ブレーキ 機能の1次ブレーキ、 または2次ブレーキが 作動
“ピピピッ”と鳴 り続ける	—	<div style="text-align: right;">※1</div>  (点滅) <div style="text-align: right;">※2</div> 	衝突回避支援ブレーキ 機能の2次ブレーキが 作動したあと、車両が 停止 運転者の操作でブザー とディスプレイの表示 が終了します。
“ピピピピピ ピッ”	—	<div style="text-align: right;">※1</div>  (点滅) <div style="text-align: right;">※2</div> 	誤発進抑制制御機能 (前方)の警報が作動

 知識

ブザー	メーター	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピ”と鳴り続ける		※1  (点滅) ※2 	誤発進抑制制御機能(前方)の警報が作動するとともにエンジン出力を抑制
“ピピピピピッ”	—	※1  (点滅) ※2 	誤発進抑制制御機能(後方)の警報が作動
“ピピピピピ”と鳴り続ける		※1  (点滅) ※2 	誤発進抑制制御機能(後方)の警報が作動するとともにエンジン出力を抑制
“ピピピピッピピピッ”	※1  (点滅)	※2 	車線逸脱警報機能が作動
“ピピピッ”	—	※1  (点滅) ※2 	先行車発進お知らせ機能が作動
—		—	オートハイビームが作動

知識

※1 マルチインフォメーションディスプレイ装着車

※2 TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車

■ スマートアシストⅢが作動しない場合

次のいずれかの場合、スマートアシストⅢの機能は作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯しているとき
- 「スマアシ故障」が表示されているとき（システム異常）
- 「スマアシ停止」が表示されているとき※（機能停止）

※ 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識による誤発進抑制制御機能（前方）は作動します。

警告

■ ステレオカメラについて

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

■ ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ステレオカメラ前面のフロントウインドウガラスは常にきれいにしてください。
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにダイハツが指定したガラスコーティング剤以外は使用しないでください。フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

警告

- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。
- フロントウインドウガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 251, 257）
- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。（→ P. 306）
 - ・ ワイパーブレードの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ダイハツ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しないで下さい。
- ステレオカメラに液体をかけないでください。
- ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けしないでください。
- インナーミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インstrumentパネル上部に物を置かないでください。フロントウインドウガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- Instrumentパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウインドウガラスへの映りこみにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。

警告

- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けしないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- ダイハツ純正品以外のインナーミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

■ソナーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ソナーは常にきれいにしてください。
 - ・雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。
 - ・お手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、すみやかにふき取ってください。
- ソナーにワックスや撥水剤などを塗らないでください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水をあてないでください。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ソナーを取りはずしたり、分解したりしないでください。
- ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
- ソナー、およびその周辺部分にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。
- バンパー部分に腰掛けたり、寄りかかったりしないでください。
- バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■汚れ検知機能について

- ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。汚れを検知した場合は、スマートアシストⅢの機能が自動的に停止します。

 **注意****■ スマートアシストⅢの機能停止について**

次のようなときは、状況によってはスマートアシストⅢの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。(→ P. 355)

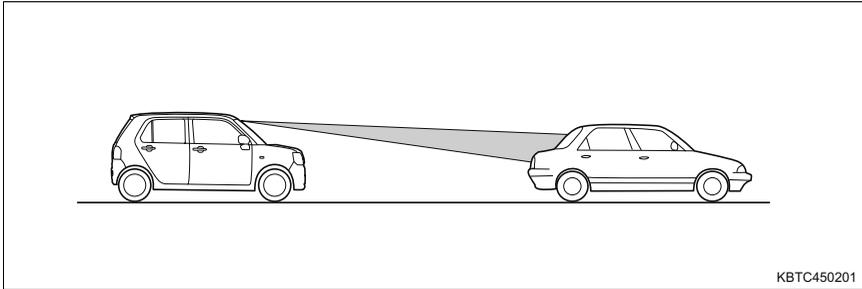
状況が改善されれば再び機能は作動します。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
- エンジン始動直後
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
- ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両、歩行者を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。



◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

次の場合にブザーとディスプレイの表示（→ P. 183）で注意をうながします。

- 車速約 4 ～ 100km/h で走行中、前方車両に対し自車との速度差が約 4 ～ 100km/h で衝突のおそれがあるとき
状況によっては、二輪車、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。

- 車速約 4 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 4 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

次の場合にブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 183）で注意をうながし、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

- 車速約 4 ～ 80km/h で走行中、前方車両に対し自車との速度差が約 4 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約 4 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 4 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、次の場合にブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

- 車速約 30 ～ 80km/h で走行中、前方車両に対し自車との速度差が約 30 ～ 80km/h で衝突のおそれがあるとき
- 車速約 30 ～ 50km/h で走行中、前方の歩行者に対し自車との速度差が約 30 ～ 50km/h で衝突のおそれがあるとき

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果はさまざまな条件によりかわるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 197
 - ・ 機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 195, 197

- 安全のため、お客様ご自身で衝突回避支援ブレーキ機能の作動テストを行わないでください。止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 **警告****■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について**

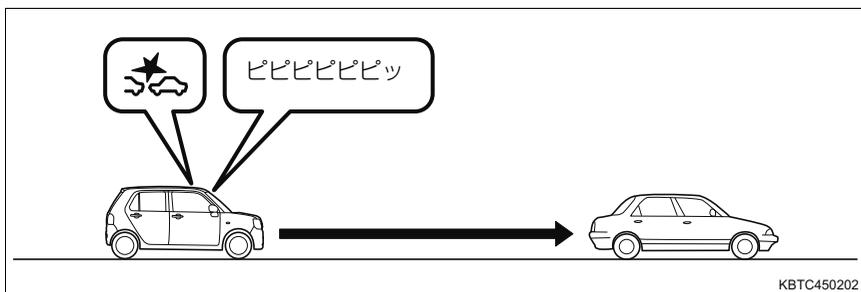
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両や歩行者に作動します。二輪車や電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 緊急ブレーキが作動したとき、アクセル操作をしても、緊急ブレーキを継続します。ただし、アクセルを全開に踏み込むと衝突回避支援ブレーキを解除します。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない場合があります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、作動車速内であっても、前方車両との速度差が約 30km/h を超える場合、スマートアシストⅢの性能限界から衝突を回避することはできません。また、前方車両との速度差が約 80km/h（対歩行者の場合は速度差が約 50km/h）を超える場合は、衝突回避支援ブレーキ機能は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。（→ P. 24）

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

①～④の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

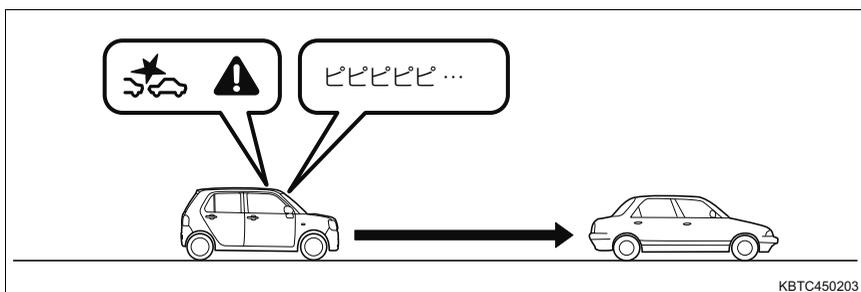
- システム作動中は、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示で運転者に注意をうながします。
- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

① 衝突警報



前方車両・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 183）で運転者に注意喚起して衝突回避操作をうながします。

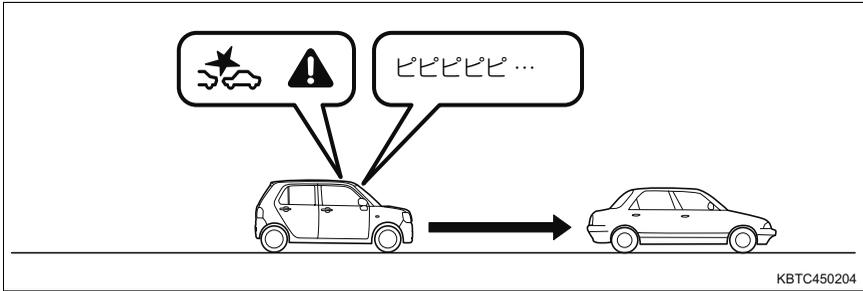
② 1次ブレーキ



前方車両・歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

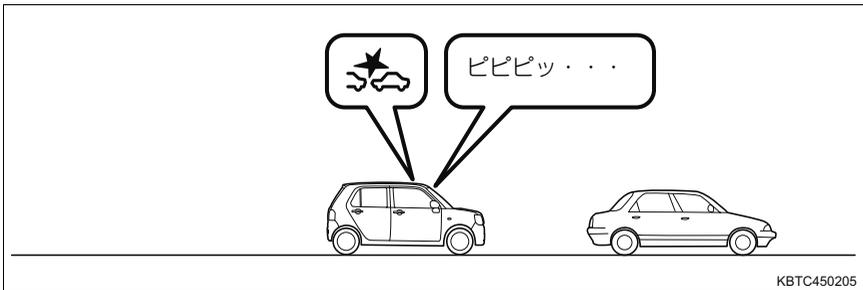
- ・前方車両・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとった場合は、ブレーキ制御を行いません。
- ・運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル・ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

3 2次ブレーキ



前方車両・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

4 停止保持



停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。

停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

知識

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシストの作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- 「スマアシ停止」が表示されていない
- 「スマアシ故障」が表示されていない
- シフトポジションが P・R 以外
- 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき

機能	対象	作動車速、速度差※1
衝突警報機能	対車両	約 4 ~ 100km/h
	対歩行者	約 4 ~ 50km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約 4 ~ 80km/h
	対歩行者	約 4 ~ 50km/h
被害軽減ブレーキアシスト※2	対車両	約 30 ~ 80km/h
	対歩行者	約 30 ~ 50km/h

※1 自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

※2 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を停止するには

→ P. 182

■ 衝突回避支援ブレーキについて

- 状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

⚠ 注意

■ ステレオカメラについて

ステレオカメラは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車両や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 車両の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- 運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ・ ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
 - ・ フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
 - ・ フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用後または使用中で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・ フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）

 注意

- ・ 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ・ ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ・ ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれやゆがみが生じたとき
- ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- ・ 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両、歩行者に接近するとき
- ・ トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ・ ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているとき
- ・ 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- ・ カーブ、うねった道路、坂道のとき
- ・ 路面に水たまりや水膜があるとき
- ・ 雪道や未舗装路など、凸凹やわだちのある道路のとき
- ・ 前方車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- ・ 自車の前方に車両や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- ・ 急加速やハンドル操作をしながら、前方車両、歩行者に接近したとき
- ・ 前方車両の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき
- ・ 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- ・ 前方車両や対向車両による水しぶきや雪などの巻き上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどがあるとき
- ・ 自車が車線変更を行い、前方車両のすぐうしろに接近したとき
- ・ 前方車両が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- ・ 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- ・ 前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- ・ 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
- ・ 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
- ・ 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- ・ 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ・ 対向車やバックしてくる車両などのとき
- ・ 車高の低い車両などのとき
- ・ 停車している車両の前に壁などがあるとき
- ・ 重い荷物を積むなど、前方車両が傾いているとき
- ・ 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- ・ 歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが歩行者を認識できないとき

 **注意**

- ・歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- ・身長の高い子供や高身長の歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- ・歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- ・歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- ・集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
- ・ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
- ・周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
- ・対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者など）

■衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪だまりなど、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車両に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両の寸前まで接近して停止するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車両および対向車両の排気ガスや水、雪などの巻き上げ、排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどで前方の視界が悪いとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車両があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき

 **注意**

- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあつた場合
- 複数台の前方車両などが重なつて見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 先行車両の方向指示／非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、濡れた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両と車両、車両と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさの物が並んでいるとき
- すれ違う歩行者、先行車両の二車線変更など、二つの物が交差して入れかわるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両のとき
- 横断歩行者が自車正面に差し掛かる前に立ち止まったとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

■ 衝突回避支援ブレーキについて

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

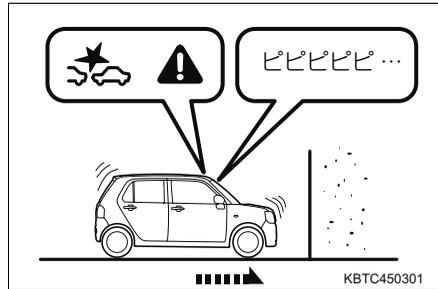
誤発進抑制制御機能（前方・後方）

誤発進抑制制御機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、ブザーとメーター、ディスプレイの表示（→ P. 183）による運転者への警報とエンジン出力の抑制制御を行い、発進をゆるやかにすることで、衝突時の被害を軽減します。

◆ 前方

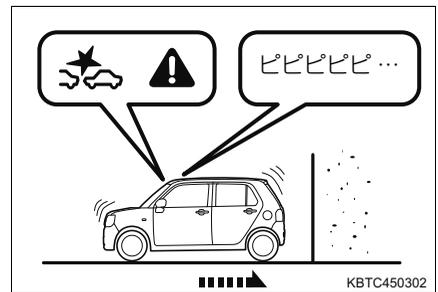
次の場合に作動します。

- ステレオカメラが前方約 4m 以内に障害物を認識している場合
- フロントソナーが前方約 2～3m 先までの壁などの障害物を認識している場合



◆ 後方

リヤソナーが後方約 2～3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



 **警告****■ 誤発進抑制制御機能について**

- 誤発進抑制制御機能を過信しないでください。誤発進抑制制御機能は衝突を回避するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 誤発進抑制制御機能は停止状態を保つものではありません。
- 誤発進抑制制御機能はあらゆる状況で発進をゆるやかにするものではありません。
- 誤発進抑制制御機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進をゆるやかにするものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を誤発進抑制制御機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- 誤発進抑制制御機能とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていても誤発進抑制制御機能が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていても、誤発進抑制制御機能が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、誤発進抑制制御機能が作動することがあります。遮断機を押しつけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストⅢを停止してください。(→ P. 182)
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、誤発進抑制制御機能が作動しない場合があります。
- TRC を停止、または VSC・TRC を停止にした場合、誤発進抑制制御機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏みなおすと、誤発進抑制制御機能は作動しません。

誤発進抑制制御機能の作動

■ 警報

車速が約 4km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 183）で警報し、運転者に衝突回避操作をうながします。

- 後方で作動したとき、ブザーはリバース警告ブザーよりも早い間隔で鳴ります。（→ P. 183）

■ エンジン出力の抑制制御

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルをすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 183）で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

- エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約 8 秒間継続します。
- エンジン出力の抑制制御中は、メーター内のマスターウォーニングが点灯します。

□ 知識

■ 誤発進抑制制御機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- 「スマアシ停止」が表示されていない※¹
- 「スマアシ故障」が表示されていない
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 車速が 0 ～ 約 10km/h
- 方向指示表示灯が消灯
- メーター内の TRC OFF 表示灯・VSC OFF 表示灯が消灯
- 前方の場合は、シフトポジションが D・S・B
- 後方の場合は、シフトポジションが R
- フロントワイパーを“高速”で作動させていない※²

※¹ 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識による誤発進抑制制御機能（前方）は作動します。

※² フロントワイパーを“高速”で作動させていても、ステレオカメラの認識による誤発進抑制制御機能（前方）は作動します。

 知識

■ 誤発進抑制制御機能（前方・後方）を停止するには

→ P. 182

 注意

■ 誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないおそれのある状況

次の条件の違いにより、誤発進抑制制御機能（前方）が作動しないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・スペアタイヤなど）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 前方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - ・ フロントウインドウガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
 - ・ ステレオカメラの温度が極端に高いとき
 - ・ 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
 - ・ 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
 - ・ ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
 - ・ 雨滴やウインドウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、障害物の認識が不完全になったとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき

 注意

- ・ 前方車両などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
 - ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
 - ・ 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
 - ・ 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
 - ・ 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
 - ・ 自車が進路変更して障害物のすぐうしろに接近したとき
 - ・ 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
 - ・ ステレオカメラの認識エリア外に障害物が存在するとき
 - ・ 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
 - ・ しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
 - ・ 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
 - ・ 障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近しすぎたとき（自車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）
 - ・ 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
 - ・ 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
 - ・ 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- ソナーが認識できない障害物（特に次のようなもの）
- ・ 背の低い障害物
 - ・ 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
 - ・ 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
 - ・ 急に前方に現れたもの
 - ・ 車両前方を横切るもの
 - ・ 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
 - ・ 地面に対して垂直でない壁、車両前面に対して斜めの壁
 - ・ 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
 - ・ ソナーの認識エリア外に存在する障害物

 **注意**

- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - ・ 動いているもの
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - ・ 障害物の面が車両の前方に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
 - ・ 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
 - ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - ・ 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
 - ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
 - ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ 衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（前方）が作動することがあります。

- 前方車両に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 前方車両および対向車両の排気ガスや水、雪などの巻上げ、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなどを通過するとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車両が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントや段差、縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車両があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき

 **注意**

- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきるまえのとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
- 縦列駐車をするとき
- 前方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐など悪天候の状況
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

■ 誤発進抑制制御機能（後方）が作動しない場合

次のような障害物に対しては、誤発進抑制制御機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識エリア外に存在する障害物

 **注意****■ 誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないおそれのある状況**

次のような場合は、誤発進抑制制御機能（後方）が作動しないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配・凹凸など）
- 車両の状態（積載・乗員など）
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧など）
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - ・ 動いているもの
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - ・ 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
 - ・ 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物がある場合
 - ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - ・ 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
 - ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
 - ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

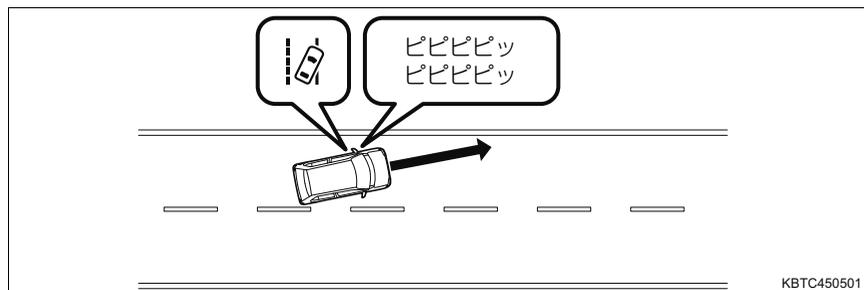
 **注意****■ 衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動する場合**

次のような場合は、衝突の可能性がなくても誤発進抑制制御機能（後方）が作動することがあります。

- 障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン・旗などをもぐって通過するとき
- 水しぶき・雪などの巻き上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐など悪天候の状況
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

車線逸脱警報機能

車線逸脱警報機能は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白線または黄線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず走行車線から逸脱する可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の表示灯★、またはディスプレイの表示★（→ P. 183）で運転者に注意をうながします。



警告

■ 車線逸脱警報機能について

- 車線逸脱警報機能は、車線逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能に頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して警報する機能ではありません。

■ 車線逸脱警報を作動させない場合

次のような条件では、車線逸脱警報を作動させない場合があります。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき
- 方向指示器を使用しているとき
- 急な操舵などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
- 車線逸脱警報が作動してから約 2 秒間

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 車線逸脱警報機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯
- 「スマアシ停止」が表示されていない
- 「スマアシ故障」が表示されていない
- 車速が約 60km/h 以上
- 方向指示表示灯が消灯（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行している

■ 車線逸脱警報機能を停止するには

→ P. 182

■ カスタマイズ機能★

ブザーの音量を変更することができます。（ブザー音量設定：→ P. 88）

注意

■ 車線逸脱警報機能が適切に作動しないおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、車線逸脱警報機能が適切に作動しないことがあります。

- 白（黄）線と道路表面の区別ができないうちや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候（豪雨・吹雪・濃霧など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車両のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
 - ・ 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
 - ・ 道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

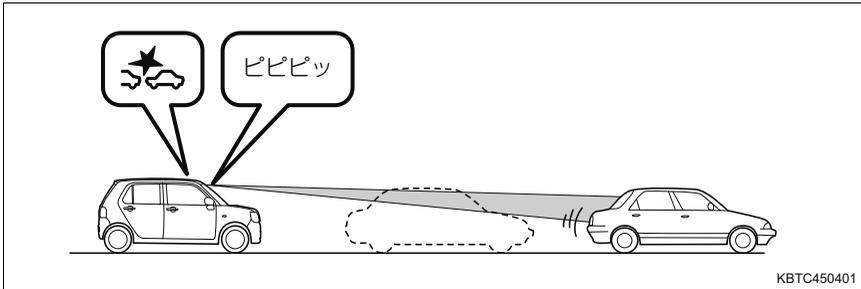
 注意

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
 - 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
 - 坂道や丘の頂上に近付いているとき
 - 段差などにより車両が大きく揺れたとき
 - 路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
 - 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
 - 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
 - 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
 - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
 - 分岐・合流路などを走行するとき
 - 急なカーブのある道路を走行するとき
 - 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
 - ガードレールの影などがあるとき
 - 区画線が二重に描かれているとき
 - 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
- フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んだりして、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
 - フロントウインドウウォッシャーの使用後、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分に拭き取れていないとき
 - 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - 先行車との車間距離が短いとき
 - 自車が白線（黄線）に対してまっすぐに走行していないとき
 - ステレオカメラが高温になったとき

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 183）で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。



警告

■ 先行車発進お知らせ機能について

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

■ 先行車発進お知らせ機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯
- 「スマアシ停止」が表示されていない
- 「スマアシ故障」が表示されていない
- シフトポジションが D・S・B でブレーキペダルを踏んでいる、またはシフトポジションが N
- 停止してから数秒経過

■ 先行車発進お知らせ機能を停止するには

→ P. 182

 知識**■ カスタマイズ機能**

- ブザーの音量を変更することができます。★（ブザー音量設定：→ P. 88）
- ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 388）

■ 先行車発進お知らせ機能が正常に作動しない場合

次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。

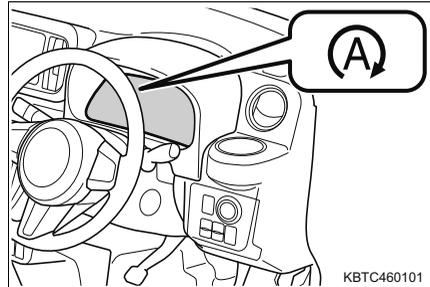
- 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
- 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
- 天候や道路形状などにより先行車を認識できないとき
- ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- 横方向のすれ具合（自車の正面にいないなど）
- 自車が停止したときに先行車が動いている場合
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が急発進や急旋回した場合
- 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
- 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- 後端から積荷が飛び出している先行車のとき
- 車高の低い先行車のとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき

アイドリングストップシステム (eco IDLE)

赤信号や交差点などで減速した際、停車前（約 11km/h）もしくは停車後に燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

エンジンが停止する

- 1 シフトレバーを D で走行中、エンジン停止が可能な状態になると、eco IDLE 表示灯が点灯する（→ P. 215）



- 2 ブレーキペダルを踏み減速すると、停車前もしくは停車後にエンジンが自動的に停止する
eco IDLE 表示灯は点灯したままです。

エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

eco IDLE 表示灯が消灯します。

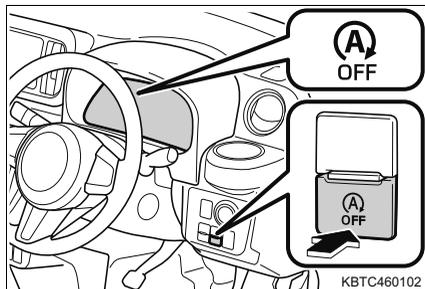
しばらく走行して、再びエンジン停止が可能な状態になると、eco IDLE 表示灯が点灯します。

eco IDLE を非作動にするには

eco IDLE を非作動にするには eco IDLE OFF スイッチを押す

eco IDLE OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、作動可能状態にもどり、eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。



■ eco IDLE OFF スイッチを押したとき

- eco IDLE によるエンジン停止中、eco IDLE OFF スイッチを押すとエンジンが再始動します。
- eco IDLE が非作動のとき、もう一度 eco IDLE OFF スイッチを押すと、eco IDLE が作動可能状態にもどりますが、エンジンは停止しません。次に車両が停止したときに (eco IDLE が作動可能状態にもどる)、eco IDLE によって、エンジンが停止します。

ヒルスタートシステム

eco IDLE によって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ油圧 (ブレーキの効き) を最長約 2 秒間保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧 (ブレーキの効き) を自動的に解除します。

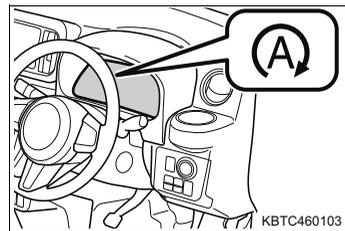
知識

■ eco IDLE の作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、eco IDLE 表示灯が点灯し、エンジン停止が可能な状態になります。
 - ・ エンジンが十分温まっているとき
 - ・ トランスミッションオイルが十分に温まっているとき
 - ・ エンジン冷却水温が高すぎないとき
 - ・ エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと（走行せずにアイドリング状態を続けていても、エンジンは停止しません）
 - ・ バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき
 - ・ 外気温が約 0℃ 以上のとき（メーター内に表示されている外気温と異なる場合があります）
 - ・ シフトレバーが D のとき
 - ・  が OFF のとき（オートエアコン装着車）
 - ・ 車内温度が快適なとき（オートエアコン装着車の冷房時）
 - ・ システム（eco IDLE・エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・エアコン・パワーステアリング・車両通信）が正常なとき
- 次の状況では、エンジン停止が可能な状態になるまで時間がかかる場合があります。
 - ・ バッテリーが放電しているとき
 - ・ バッテリー交換などにより、バッテリー端子をはずしたあと
 - ・ 冷房初期（オートエアコン装着車）

■ eco IDLE 表示灯について

走行中に eco IDLE の作動条件が満たされると、eco IDLE 表示灯が点灯し、停止時に eco IDLE が作動可能状態であることをお知らせします。



 知識**■ 停車前のエンジン停止条件**

- eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件が満たされたとき、停車前にエンジン停止します。
 - ・ 車速が約 11 km/h 以下になったとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ 車幅灯が消灯しているとき
 - ・ フロントワイパーが作動していないとき
 - ・ ハンドルの切れ角が小さいとき
 - ・ 急減速していないとき
 - ・ ABS、VSC が作動していないとき
 - ・ 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
 - ・ ブレーキオーバーライドシステムが作動していないとき
- 次の状況では、停車前にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - ・ 勾配が急な坂道を走行しているとき
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ ゆるやかに減速しているとき

■ 停車後のエンジン停止条件

- eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件が満たされたとき、停車後にエンジン停止します。
 - ・ 停車しているとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ ハンドル操作をしていないとき
 - ・ ABS、VSC が作動していないとき
 - ・ 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- 次の状況では、停車後にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき

知識

■ エンジン停止中の操作について

- 右左折や合流時など、エンジン停止中に事前に発進準備をしたいときは、次の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む
 - ・ ハンドル操作をする
 - ・ eco IDLE OFF スイッチを押す (→ P. 214)
- エンジン停止中にシフトレバーを D から N、または S・B にしてもエンジン停止は継続します。
ただし、シフトレバーを N にしたあと他のシフトポジションにすると、エンジンが再始動します。
- 給油時はシフトレバーを P にし、エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止します。

■ エンジンの再始動について

- エンジン停止中に次のいずれかの操作を行うと、エンジンが自動的に再始動します。
 - ・ ブレーキペダルから足を離したとき
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
 - ・ アクセルペダルを踏んだとき
 - ・ ハンドル操作をしたとき
 - ・ シフトレバーを R・P にしたとき
 - ・ シフトレバーを N にしたあと、他のシフトポジションにしたとき
 - ・ eco IDLE OFF スイッチを押したとき
 - ・  を押したとき (オートエアコン装着車)
 - ・ 運転席ドアを開けたとき
 - ・ 運転席シートベルトをはずしたとき
- エンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。(eco IDLE 表示灯は点滅後、消灯します)
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ バッテリーの放電量が多いとき
 - ・ 傾斜などで車両が動き出したとき
 - ・ 停車前にエンジンを停止したあと、下り坂で加速したとき
 - ・ 警告灯が点灯 (→ P. 340)、警告メッセージ★ (→ P. 346) が表示されるなど、各システム (エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・TRC・エアコン・パワーステアリング) に異常が発生したとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

- ・ 冷房時、エアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（オートエアコン装着車）
- ・ エンジン停止してから約 3 分経過したとき
- エンジン停止中に eco IDLE システムに異常が発生したり、スターターやバッテリーが交換時期になったときは、eco IDLE OFF 表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 349）が表示され、エンジンが自動的に再始動します。
- 次の状況では、エンジン停止の時間が短くなる場合があります。
 - ・ 外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にエンジン停止をしたとき
 - ・ 電装品などの消費電力が大きいとき
- オーディオの音量が大きいなど、エンジン停止中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時にオーディオの電源が一時的に OFF になることがあります。
- エンジンが再始動すると、アクセサリースOCKETの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に OFF になることがあります。

■ eco IDLE の自動再開

eco IDLE を eco IDLE OFF スイッチによって非作動にしても、一度エンジンスイッチを“OFF”にしてから“ON”にすることによって、eco IDLE は自動的に作動可能状態にもどります。

■ ボンネットを開けたときは

エンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。エンジンスイッチでエンジンを始動させてください。

■ ヒルスタートシステムについて

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ヒルスタートシステムの作動により、次の状態になることがありますが、異常ではありません。
 - ・ ブレーキペダルの踏みこたえがかわる
 - ・ ブレーキペダルが振動する
 - ・ ブレーキから音が発生する

■ eco IDLE について

eco IDLE は赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

 知識

■ 警告ブザーについて

eco IDLE によるエンジン停止中、次のようになったときは警告ブザーが鳴ると同時に eco IDLE 表示灯が高速で点滅、および警告メッセージ★（→ P. 345）が表示されます。

- 運転席ドアが開いたとき
- 運転席シートベルトをはずしたとき
- ボンネットが開いたとき*

* ボンネットが開いたときは、警告メッセージ★が表示されません。

■ eco IDLE OFF 表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 349）が表示されたままのときは

スターターの交換時期、またはシステムに異常がある場合があります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ エンジン始動中に eco IDLE OFF 表示灯が数秒間点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 349）が数秒間表示されたときは

バッテリーの交換時期です。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ エンジン停止中のエアコンについて

- エンジン停止中はエアコン（冷房、除湿機能）がオフになり、送風になります。エアコンを作動させるときは、ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。
- AUTO を押してエアコンをオート設定にしているときは、エンジン停止中に風量が少なくなったり送風を停止することがあります。エンジンが再始動すると、風量は自動調整にもどります。（オートエアコン装着車）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ エンジン停止中にフロントウインドウガラスが曇ったとき

ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。

マニュアルエアコン装着車は  A/C を押してエアコンを作動させ、吹き出し口

を  に切りかえる、オートエアコン装着車は  を押して曇りを取ってください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、eco IDLE OFF スイッチを押し、eco IDLE を非作動にしてください。

■ アイドリングストップ時間表示とアイドリングストップ積算時間表示

→ P. 73, 79, 81

■ バッテリーを交換するとき

→ P. 375

警告

■ eco IDLE が作動しているとき

- エンジン停止中はブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。(eco IDLE 表示灯が点灯しているあいだ)
エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン停止中は車から離れないでください。(eco IDLE 表示灯が点灯しているあいだ)
次の操作を行うと、エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ ブレーキペダルから足を離す
 - ・ 運転席ドアを開ける
 - ・ 運転席シートベルトをはずす

 **警告**
■ ヒルスタートシステムについて

- ヒルスタートシステムは坂道で停車させる装置ではありません。装置が正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめると車が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進するときに車が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー・ブレーキペダル・アクセルペダル・パーキングブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- ゆるやかな上り坂で停車前にエンジン停止したあと、車が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、車が後退することがあります。車が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または勾配が急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していても車が後退することがあります。パーキングブレーキをかけたりするなどして発進してください。

 **注意**
■ eco IDLE が作動しているとき

エンジン停止中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。

■ eco IDLE を正常に作動させるために

- 次のようなときは eco IDLE が正常に作動しないおそれがあります。ダイハツサービス工場 で点検を受けてください。
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅する、および TFT マルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ★ (→ P. 349) が表示されたとき
 - ・ 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅しない、および TFT マルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ★ (→ P. 349) が表示されないとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意**

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車
 - 運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
 - 運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき
 - ▶ TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車
 - 運転席ドアを閉めているときに、TFT マルチインフォメーションディスプレイに「ドアが開いています」の警告メッセージ★（→ P. 349）が表示される、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
 - 運転席ドアを開けているときに、TFT マルチインフォメーションディスプレイに「ドアが開いています」の警告メッセージ★（→ P. 349）が表示されない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき
- バッテリーの端子から電化製品の電源をとらないでください。eco IDLE が正常に作動しなくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

コーナーセンサー

コーナーセンサーは車速が約 10km/h 以下のときに、車両と障害物とのおよその距離をソナーによって認識してブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせする装置です。

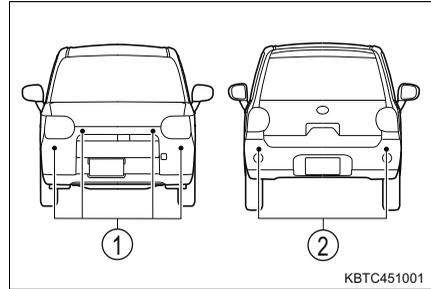
ソナーの位置・種類

① フロントソナー

フロントコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

② リヤソナー

リヤコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

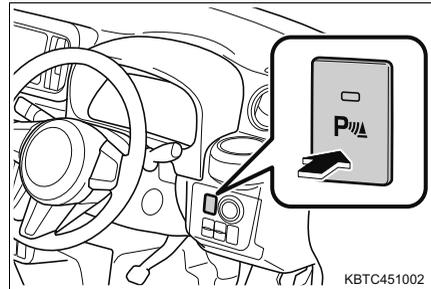


コーナーセンサーの切りかえ

スイッチを押す

スイッチを押すとコーナーセンサーは ON になり、作動灯が点灯します。

OFF にするには再びスイッチを押します。

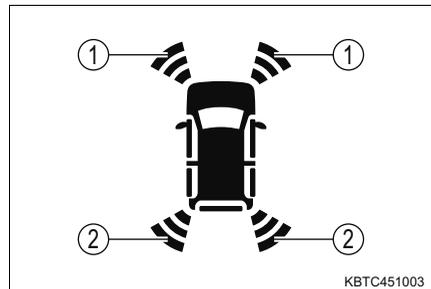


コーナーセンサーの表示のしかた

障害物を認識すると自動的に表示されます。

① フロントコーナーセンサー作動表示

② リヤコーナーセンサー作動表示



ブザーについて

作動条件をすべて満たした状態で、パーキングブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

- 障害物との距離が短くなると、ブザーが次の表のとおり変化します。

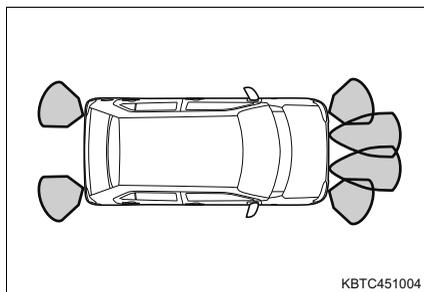
ブザー	ソナーと障害物との距離	
	フロントソナー（中央 2 個）	フロントソナー（左右 2 個）
		リヤソナー
ピッピッピッ … （断続音）	約 100 ～ 45cm	約 60 ～ 45cm
ピピピ … （断続音）	約 45 ～ 30cm	
ピー （連続音）	約 30cm 以内	

- ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、もっとも近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

ソナーが障害物を認識できる範囲

認識できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がソナーに近付きすぎると認識できません。

障害物の形状・条件によっては認識できる距離が短くなることや、認識できないことがあります。



知識

■ 作動条件

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチが“ON” のとき
 - ・ コーナーセンサースイッチが ON のとき
 - ・ シフトレバーが P 以外で、車両の速度が約 10km/h 以下のとき

 **知識**

- リヤコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチが“ON” のとき
 - ・ コーナーセンサースイッチが ON のとき
 - ・ シフトレバーが R で、車両の速度が約 10km/h 以下のとき
 - 作動条件を満たした状態で、パーキングブレーキがかかっていないときに障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。
- **ソナーの認識について**
- ソナーの認識範囲は車両前部、および後部のバンパーのソナー周辺に限られます。
 - 障害物を認識してから、コーナーセンサーが作動するまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でもブザーが鳴る前に、障害物に近付きすぎると、ブザーが鳴らない場合があります。
 - オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。
- **ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴り、コーナーセンサーの作動表示が前方 2 箇所または後方 2 箇所（もしくは 4 箇所すべて）同時に表示されたときは**
- コーナーセンサーの機能が低下しています。
コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。
 - マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 - TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車は、状態により「コーナーセンサー機能低下」、「コーナーセンサー故障」の警告メッセージが表示されます。

 **警告**

■ **コーナーセンサーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品などを取り付けしないでください。

！ 警告

- TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車は、「コーナーセンサー機能低下」の警告メッセージが表示された場合、ソナーの状態を確認してください。雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないのに警告メッセージが表示されている場合は、コーナーセンサーの異常が考えられますのでダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ コーナーセンサーについて

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
- 障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近しすぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
 - ・ 地面から高い位置に存在する障害物のとき
 - ・ 背の低い障害物のとき
 - ・ 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
 - ・ 動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
 - ・ 障害物の面が車両に対して斜めのとき
 - ・ 地面に対して垂直でない壁のとき
 - ・ 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
 - ・ 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両とのあいだに、認識できない障害物があるとき
 - ・ ソナーの認識エリア外に存在する障害物のとき
 - ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
 - ・ 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
 - ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）

警告

- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ コーナーセンサーと誤発進抑制制御機能の作動について

- コーナーセンサーと誤発進抑制制御機能では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していても誤発進抑制制御機能が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、誤発進抑制制御が作動する場合があります。

注意**■ コーナーセンサーについて**

次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。

- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 付近に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

 **注意****■ コーナーセンサーの異常について**

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。ダイハツサービス工場にて点検を受けてください。

- 障害物を認識していない状態で、コーナーセンサーが作動したとき
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき
- 事故などでソナー周辺が変形したとき
- スマートアシストⅢに異常があるとき、または「スマアシ停止」、「スマアシ故障」が表示されているとき（→ P. 341、355）

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

バックカメラ★

バックカメラは車両を後退させるとき、ナビゲーションの画面上に車両後方の映像を表示させることで、駐車時などの運転を補助する装置です。装着されているナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

バックカメラの画面表示について

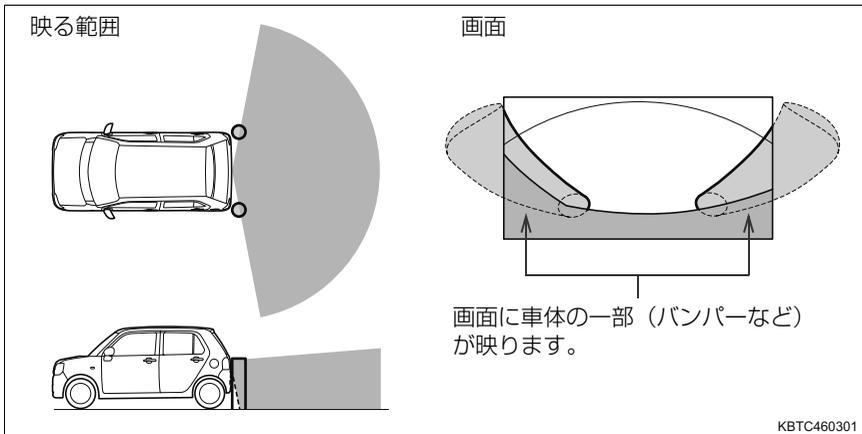
エンジンスイッチが“ON”のときに、シフトレバーをRにすると、ナビゲーションの画面に車両後方の映像を表示します。

シフトレバーをR以外にすると、元の画面にもどります。

バックカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

バックカメラの注意点について

■ 画面の映る範囲について



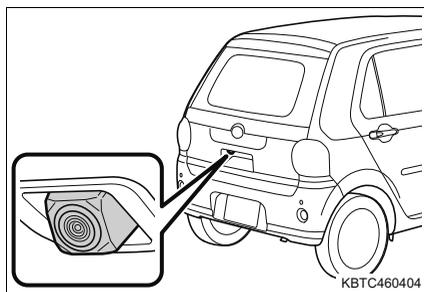
- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バックカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- バックカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- バックカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

■ カメラについて

バックカメラは次の位置にあります。



●カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

📖 知識

- 次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。
 - ・ 暗いところ（夜間など）
 - ・ レンズ付近の温度が高い、または低いとき
 - ・ バックカメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
 - ・ バックカメラ付近に異物（泥など）がついたとき
 - ・ 太陽やヘッドランプの光が直接バックカメラのレンズに当たったとき

⚠ 警告

■ バックカメラについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックカメラを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
- 後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。

警告

- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。
画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て、後退することは絶対にしないでください。車をぶつかけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意したうえで運転してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・ 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
 - ・ タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
 - ・ バックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・ 坂道など平坦でない路面
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

注意**■ カメラの取り扱いについて**

- バックカメラが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・ カメラ周辺にはカメラの視野に影響をおよぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
 - ・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・ カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
 - ・ カメラレンズを洗うときは、水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせた柔らかい布でふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
 - ・ カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
 - ・ 高圧洗車機を使用して洗車するときは、カメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

パノラマモニター★

パノラマモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成してナビゲーションの画面上に表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。

画面を左右2分割して表示し、左側にトップビュー、右側にはフロント、リヤビューが表示されます。

また、レフト&ライトサイドビューやレフトサイド&リヤビュー、フロントワイドビュー、リヤワイドビューでも、車両周辺の障害物を確認できます。

画面の映像、映る範囲はビューによって異なります。(→ P. 233)

装着されているナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

パノラマモニターの画面表示について

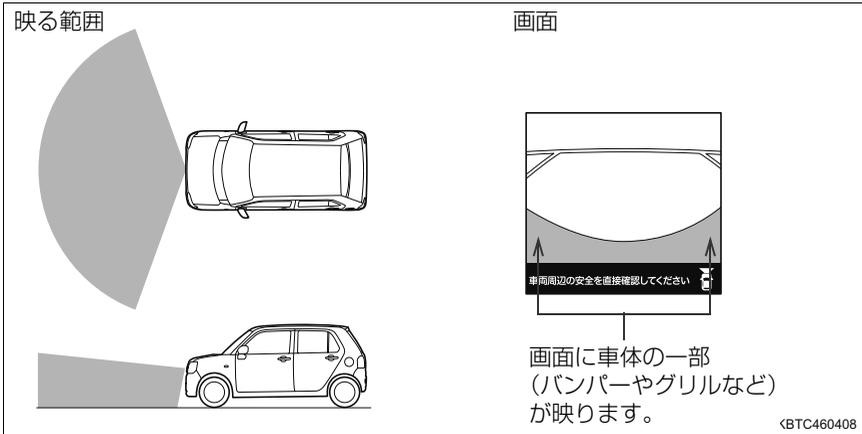
エンジンスイッチが“ON”の状態、シフトポジションの位置や車速、ナビゲーションの操作に応じたパノラマモニター画面が表示されます。

バックカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

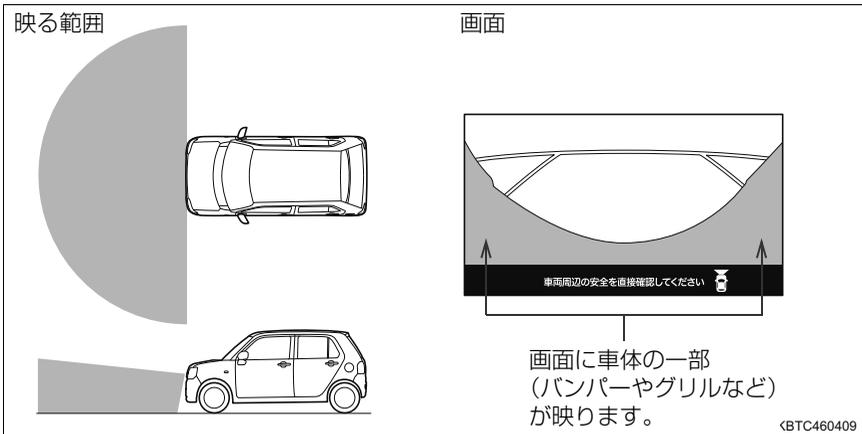
パノラマモニターの注意点について

■ 画面の映る範囲について

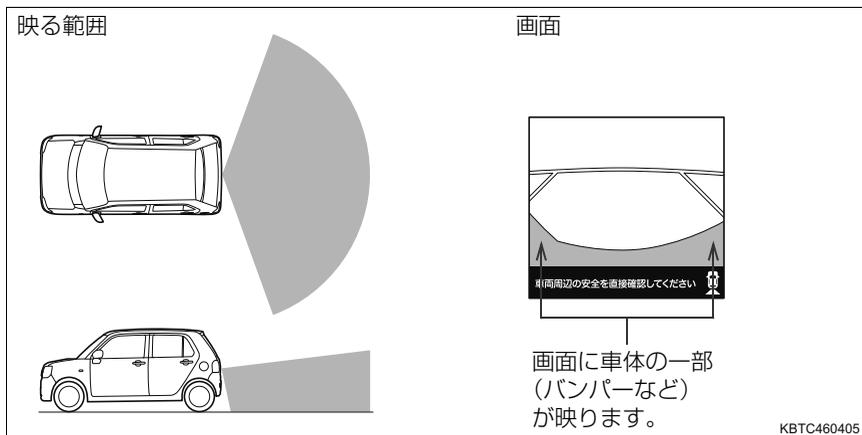
▶ フロントビュー



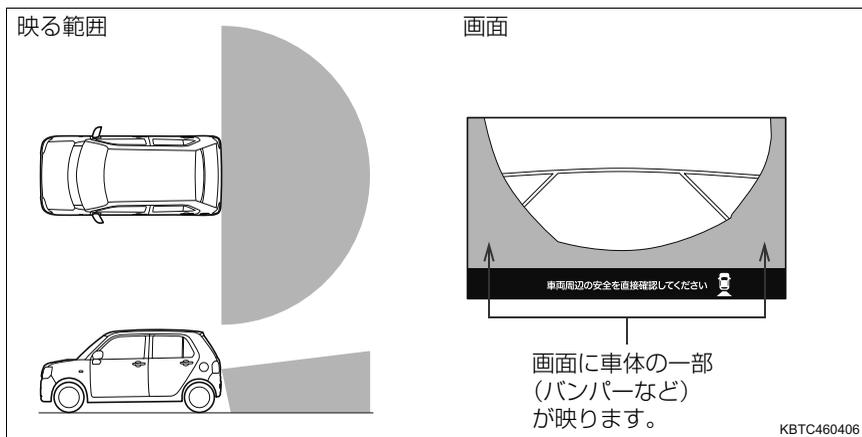
▶ フロントワイドビュー



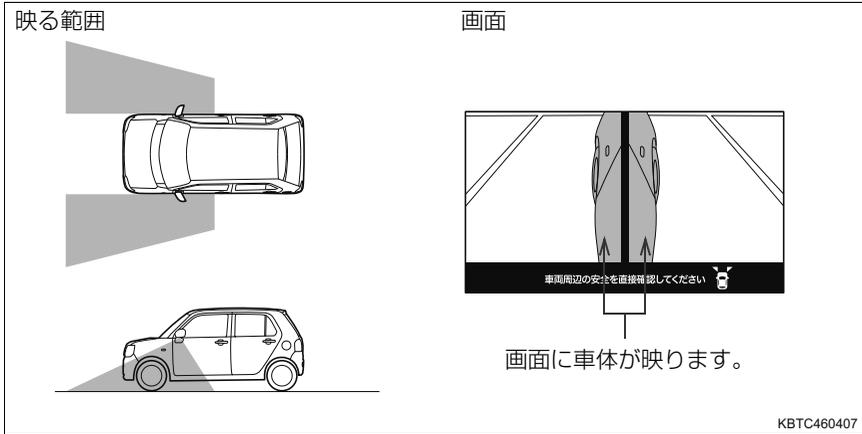
▶ リヤビュー



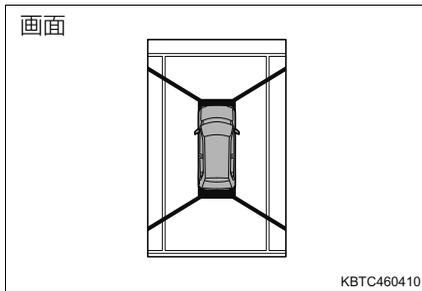
▶ リヤワイドビュー



▶ サイドビュー



▶ トップビュー

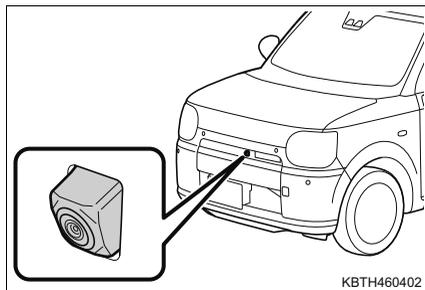


- トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。
- 乗員人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。
- パノラマモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。
- カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- パノラマモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- バックカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

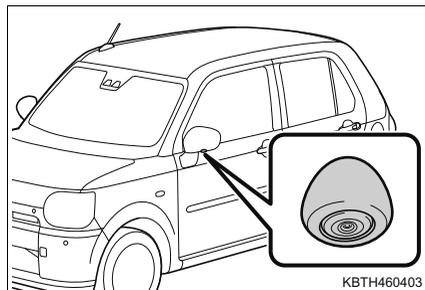
■ カメラについて

パノラマモニターの各カメラは次の位置にあります。

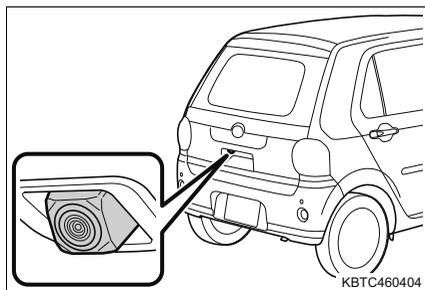
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ（左右）



▶ バックカメラ



● カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

□ 知識

- パノラマモニター対応純正ナビゲーション以外を装着した場合は、パノラマモニターが正常に作動しないことがあります。
- 次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。
 - ・ 暗いところ（夜間など）
 - ・ レンズ付近の温度が高い、または低いとき
 - ・ カメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
 - ・ カメラ付近に異物（泥など）がついたとき
 - ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズに当たったとき

 **警告****■ パノラマモニターについて**

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パノラマモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。
画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶついたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意したうえで運転してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・ 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
 - ・ タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
 - ・ フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・ 坂道など平坦でない路面
 - ・ ドアミラーを格納しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

 **注意****■ カメラの取り扱いについて**

- パノラマモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・ カメラ周辺にはカメラの視野に影響をおよぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けないでください。
 - ・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・ カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
 - ・ カメラレンズを洗うときは、水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせた柔らかい布でふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
 - ・ カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
 - ・ 高圧洗車機を使用して洗車するときは、カメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにダイハツサービス工場と点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC*

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC*

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルホールドシステム

上り坂で発進するときに車が後退するのを緩和します。

◆ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ フルタイム 4WD★

オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。すべりやすい雪道や上り坂などでスムーズな発進、加速に貢献します。

通常の直進走行では FF (前輪駆動) に近い状態で走行します。

前・後輪に回転差が生じるとビスカスカップリングにより、その回転速度の差に応じた最適なトルクを後輪へ配分します。

◆ スマートアシストⅢ

→ P. 178

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

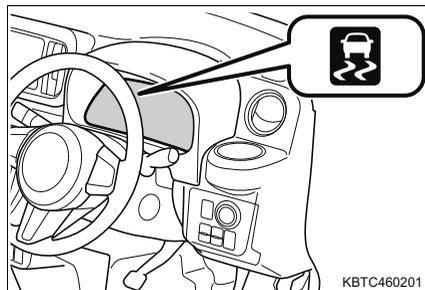
◆ エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

※“VSC”、“TRC”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

VSC・TRC が作動しているとき

VSC・TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



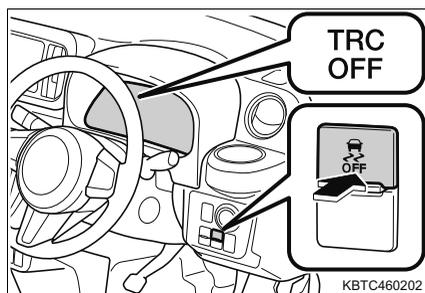
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■ VSC と TRC を停止するには

VSC と TRC を停止するには、停車時に  を 3 秒以上押し続けてください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC およびヒルホールドシステムが作動できない状態になっています。ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルホールドシステムの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ VSC や TRC の自動復帰について

VSC や TRC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを“OFF”にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートをさけるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

 知識**■ ヒルホールドシステムの作動条件**

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーが P または、N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルホールドシステムの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または、N にした
- アクセルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■ スリップ表示灯が点灯、および警告メッセージ★（→ P. 348）が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場に連絡してください。

■ エマージェンシーストップシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 60km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■ エマージェンシーストップシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告**■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩擦したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルホールドシステムの効果を発揮できないとき

- ヒルホールドシステムを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルホールドシステムが効かないことがあります。
- ヒルホールドシステムはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ VSC や TRC を OFF にするとき

VSC や TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要とき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ フルタイム 4WD について★

- この車の 4WD（フルタイム 4WD）は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。

警告

●脱輪などにより、いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン(溝模様)のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。(→ P. 386)

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC・フルタイム 4WD★が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、ダイハツサービス工場に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ(4輪)やタイヤチェーン(前部タイヤ用)を使用してください。
タイヤは4輪とも同一サイズ、同一銘柄で著しい摩耗差のないものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
(タイヤについて：→ P. 291)

運転する前に

- 状況に応じて次のことを行ってください。
- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
 - フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
 - 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
 - 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め※¹ をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※² を確認してください。

※¹ 輪止めは、ダイハツサービス工場で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。ダイハツサービス工場で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない

 **警告**

- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴をさける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用はさける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ タイヤチェーンの使用について**

ダイハツ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

ダイハツ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

■ ドアやワイパーが凍結したとき

ぬるま湯をかけるなどして氷を解かしてください。

熱湯をかけると部品が破損したり、変形するなどのおそれがあります。

室内装備・機能**5****5-1. エアコンの使い方**

マニュアルエアコン …… 250

オートエアコン …… 255

シートヒーター …… 261

5-2. オーディオの使い方

ステアリングスイッチ …… 262

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 …… 264

5-4. 収納装備

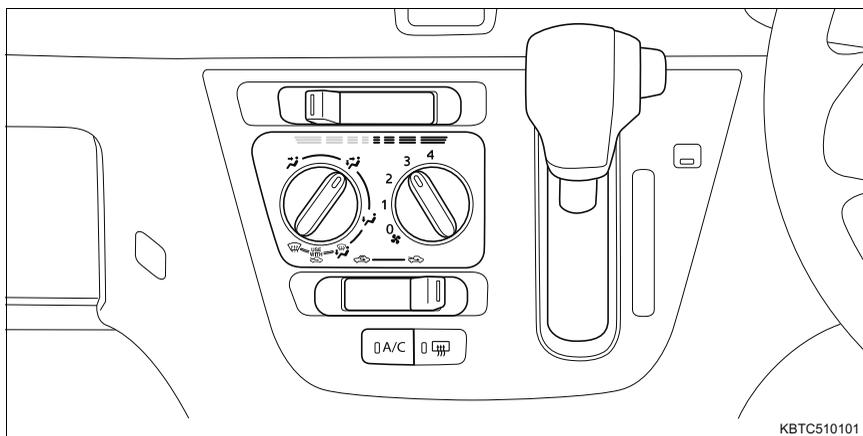
収納装備一覧 …… 266

ラゲージルーム内装備 …… 270

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 …… 272

マニュアルエアコン★



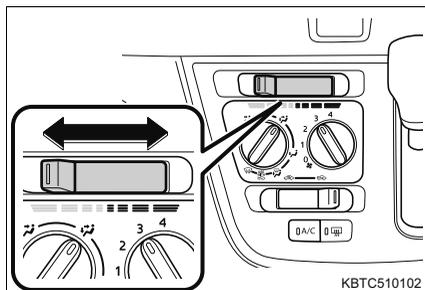
KBTC510101

エアコンの操作について

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節レバーを右に、下げるときには左に操作する

□ A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

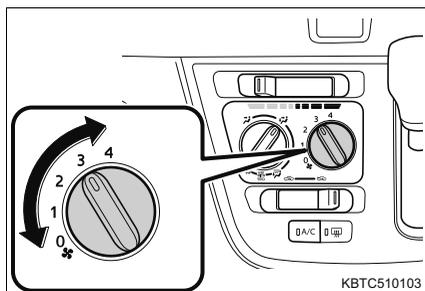


KBTC510102

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調節ダイヤルを右に、減らすときは左にまわす

送風を止めるときはダイヤルを 0 の位置に合わせる



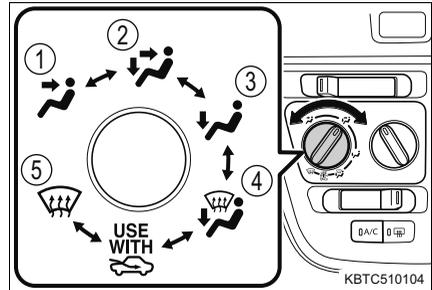
KBTC510103

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえダイヤルをまわす

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る
- ⑤ フロントウインドウガラスの曇りを取る



その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

内外気切りかえレバーを  の位置に操作すると外気導入、 の位置に操作すると内気循環に切りかわります。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

吹き出し口切りかえダイヤルを  にまわし、内外気切りかえレバーを  に操作する

□ A/C を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

■ リヤウインドウデフォグガー

リヤウインドウの曇りを取るときに使用ください。

□  を押す

吹き出し口について

■ 風が出る位置と風量

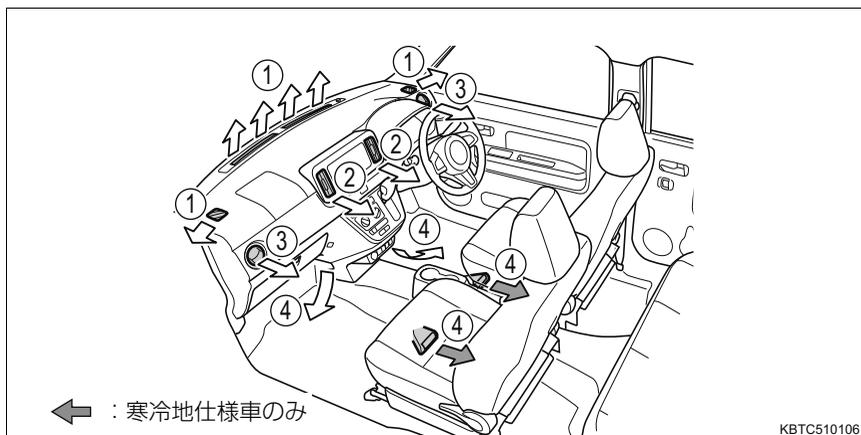
吹き出し口切りかえダイヤルの位置により、風が出る位置や風量が次の表のとおり変化します。

風量は吹き出し口によって異なります。

ダイヤル位置					
吹き出し口	② ③	② ③ ④	④ (①) (③)	① ④ (③)	① (③)

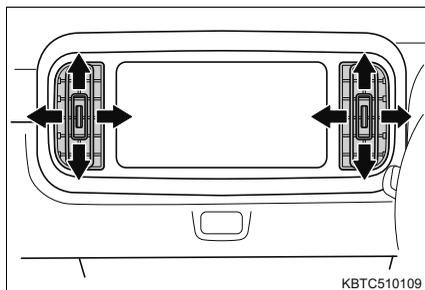
() は特に風量が少ないものを示します。

▶ 吹き出し口の位置

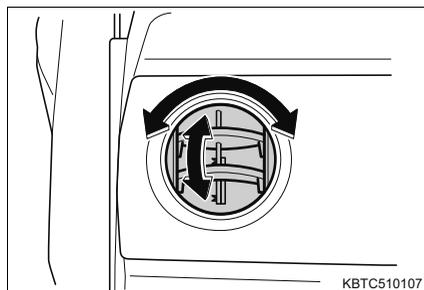


■ 風向き調整

▶ 中央吹き出し口



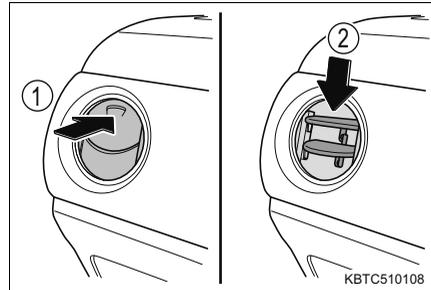
▶ 左右吹き出し口



■ 吹き出し口の開閉

- ① くぼみを押して開ける
- ② カバーを下げても閉じる

▶ 左右吹き出し口



📖 知識

■ 内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、温度調節レバーの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より温められて送風されます。

■ 外気温度が 0℃ 付近のとき

📄 A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ について

このマークは、吹き出し口切りかえダイヤルを  または  に合わせるときに内外気切りかえレバーを  にすることをおすすめするためのものです。

内外気切りかえレバーを  にすることでガラスが曇りにくくなります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

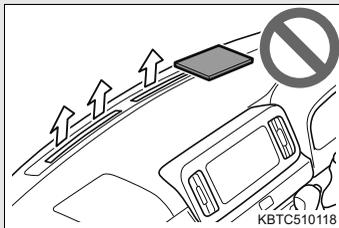
- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 304

警告**■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを  の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなる場合があります。

**注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

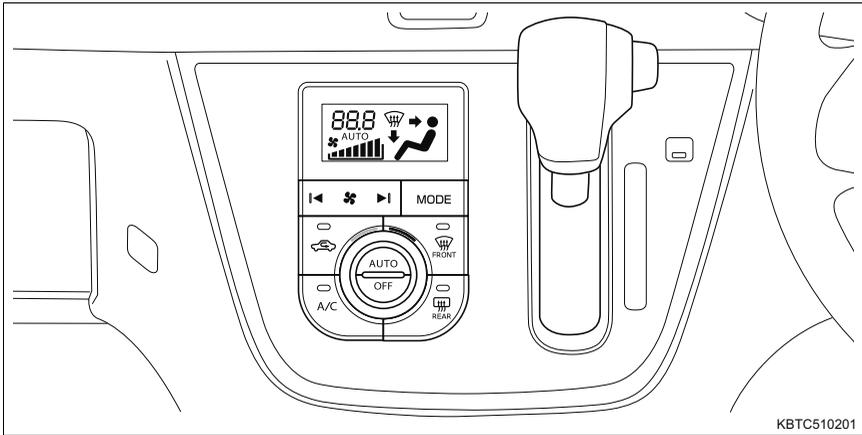
エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

■ 吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

オートエアコン★

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



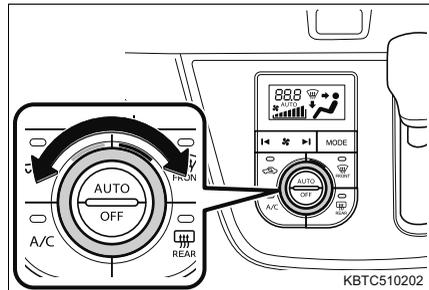
KBTC510201

エアコンの操作について

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節ダイヤルを右に、下げるときは左にまわす

 **A/C** が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。



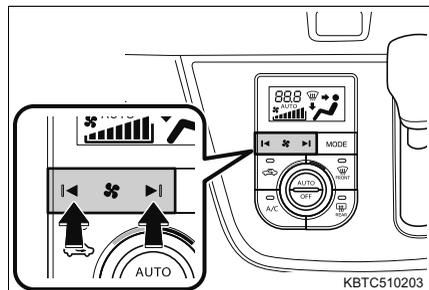
KBTC510202

■ 風量を切りかえる

風量を調節するには  の

 (増) か  (減) を押す

OFF を押すと、送風が止まります。



KBTC510203

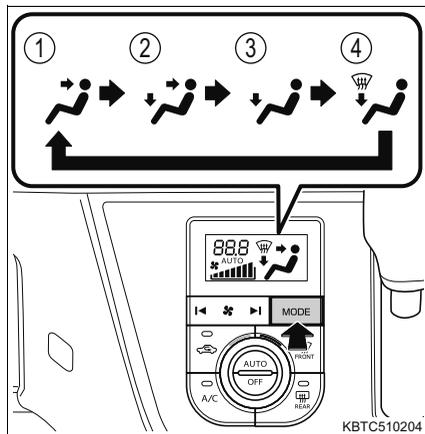
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる

MODE を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る



オート設定を使うとき

- 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

- 2 温度を設定する

- 3  を押す
A/C

押すたびにエアコンの ON / OFF が切りかわります。

- 4 送風を止めたいときは OFF を押す

■ オート設定時の表示について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO の表示が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、の表示灯が点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには

を押す
FRONT

エアコンが作動し、自動的に外気導入に切りかわります。

曇りが取れたら再度 を押すと、前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す
REAR

リヤウインドウデフォグガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

吹き出し口について

■ 風が出る位置と風量

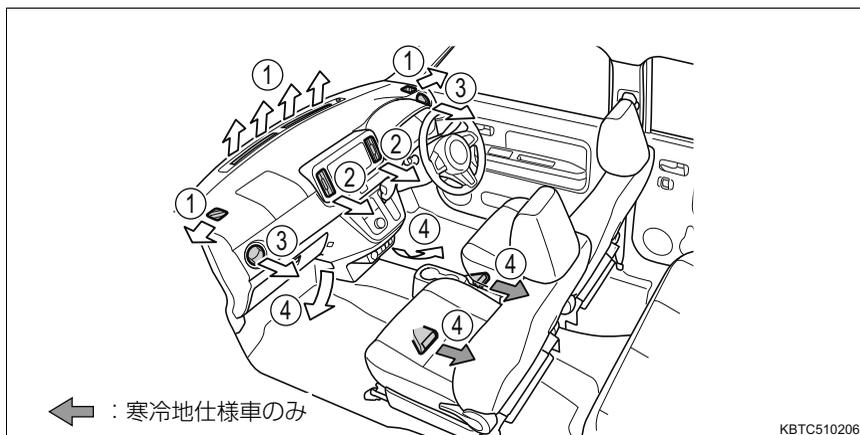
吹き出し口の表示により、風が出る位置や風量が次の表のとおり変化します。

風量は吹き出し口によって異なります。

表示				
吹き出し口	② ③	② ③ ④	④ ① ③	① ④ ③

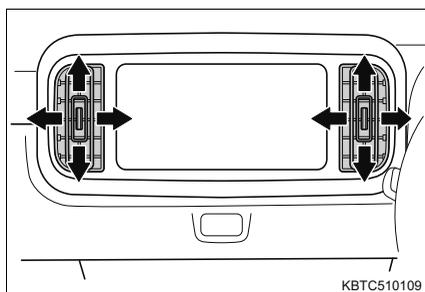
() は特に風量が少ないものを示します。

▶ 吹き出し口の位置

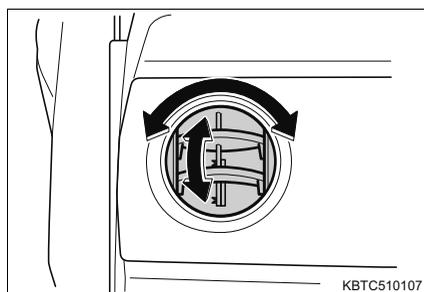


■ 風向き調整

▶ 中央吹き出し口



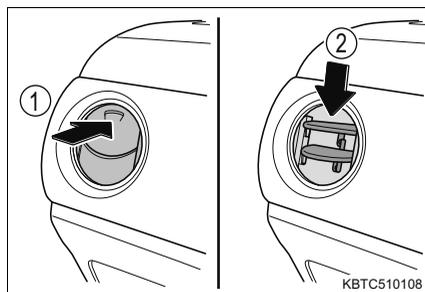
▶ 左右吹き出し口



■ 吹き出し口の開閉

- ① くぼみを押して開ける
- ② カバーを下げて閉じる

▶ 左右吹き出し口



📖 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は

 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

-  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■ 吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より温められて送風されます。

■ 外気温度が 0℃ 付近のとき

 を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

知識

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 304

■ カスタマイズ機能

AUTO を ON にしたとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえるかどうかなどを設定できます。(カスタマイズ一覧→ P. 388)

警告

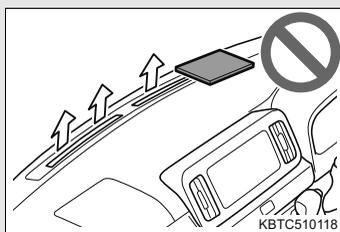
■ フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、



を押しさないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

- フロントウィンドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ 吹き出し口について

暖房で使用するときには、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

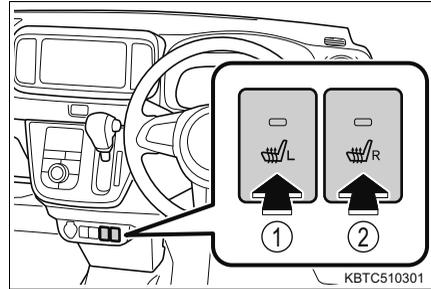
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター★

- ① 助手席をあたためる
- ② 運転席をあたためる

シートヒーター作動中は、作動表示灯が点灯します。

再度押すと OFF になり、作動表示灯が消灯します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ 使用しないときは

スイッチをもう一度押してください。作動表示灯が消灯します。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたがシートヒーターに触れないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続で使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

注意

■ シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防止するために

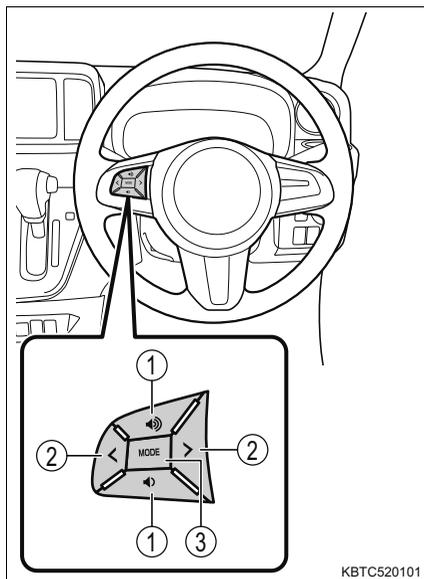
エンジンを停止した状態で使用しないでください。

ステアリングスイッチ★

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

- ① 音量を調節する
- ② CD、ラジオなどの操作
- ③ モードを切りかえる



モードを切りかえる

オーディオの電源が ON のとき **MODE** を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切りかわります。

音量を調節するには

オーディオの電源が ON のとき  または  を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調節できます。運転のさまたげにならない適度な音量でお聞きください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

選局または選曲するには

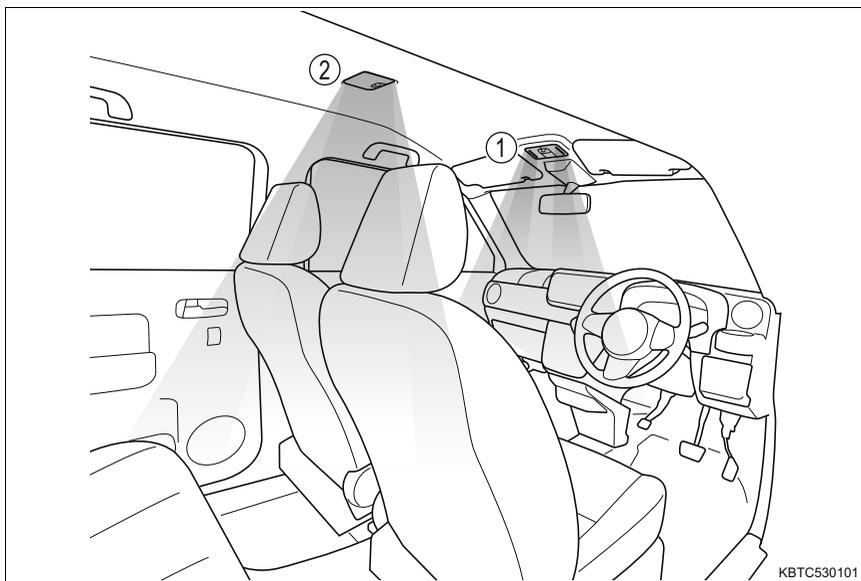
オーディオの電源が ON のとき  または  を押す

スイッチを押して、お聞きになりたい放送局や CD で再生したい曲を選択します。

 警告**■ 事故を防ぐために**

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

室内灯一覧

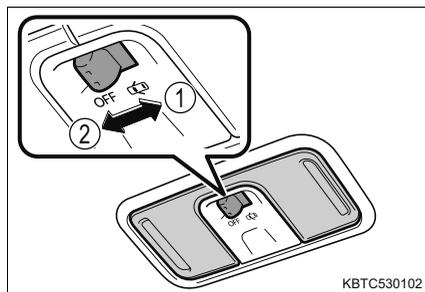


- ① フロントパーソナルランプ
- ② ルームランプ

フロントパーソナルランプ

■ ドア連動スイッチでの操作

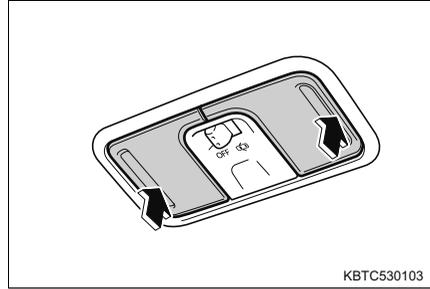
- ① ドアポジション（ドア連動）
ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。
- ② ランプを消灯する



■ 独立スイッチでの操作

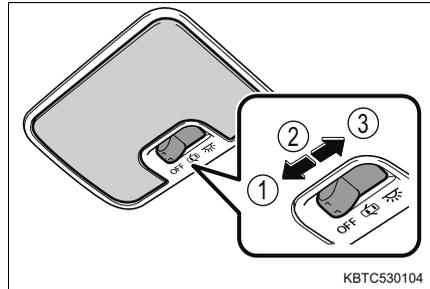
ランプを点灯・消灯する

ドア連動スイッチがドアポジションでドアが開いているときは、レンズを押しても消灯しません。



ルームランプ

- ① ランプを消灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）
- ③ ランプを点灯する



知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム（ドア連動機能）

- ランプのスイッチがドアポジションのとき、ドアの施錠・解錠／開閉、エンジンスイッチの状態により、各部の照明が自動的に点灯、消灯します。

■ バッテリーあがりを防止するために

- 半ドア状態でランプのスイッチがドアポジションのときは約 10 分後に自動消灯します。
- ランプが点灯したままの場合、約 12 分後に自動消灯します。

■ カスタマイズ機能

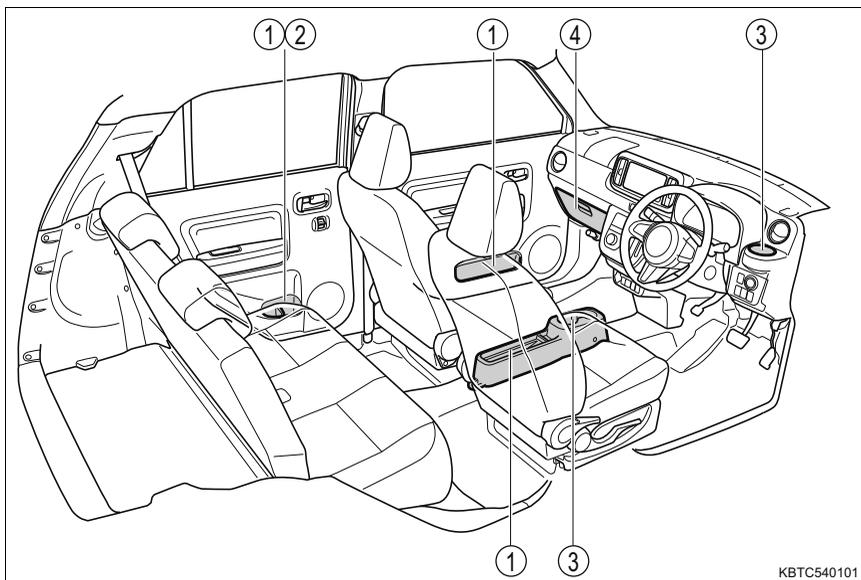
イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 388）

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



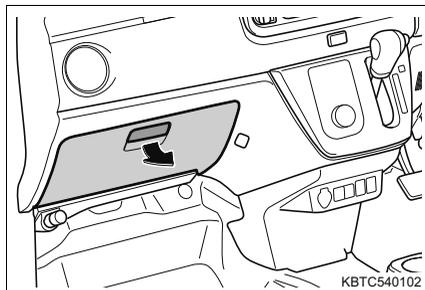
- ① オープントレイ (→ P. 269) ③ カップホルダー (→ P. 267)
 ② ボトルホルダー (→ P. 267) ④ グローブボックス (→ P. 267)

⚠ 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
 放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
 急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

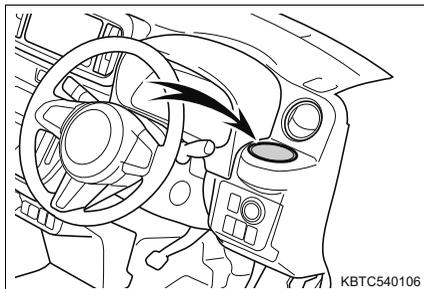
レバーを引いて開ける



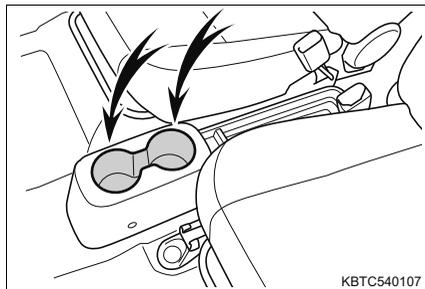
カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

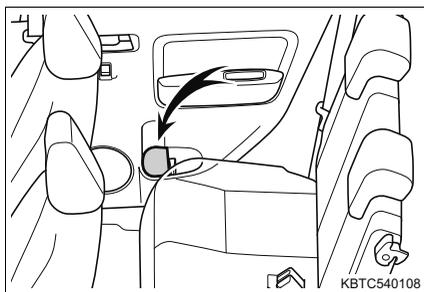
▶ 運転席



▶ センターコンソールトレイ



■ ボトルホルダー（リヤドア）



📖 知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

 **警告**

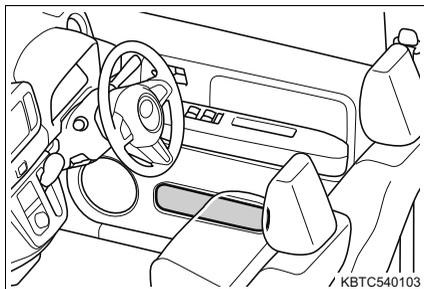
- カップホルダーには、カップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- ボトルホルダーには、ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダー・ボトルホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。
- 運転席側のカップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意**

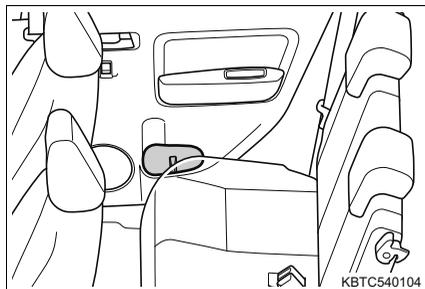
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- リヤドアのボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- 故障を防ぐため、飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。

オープントレイ

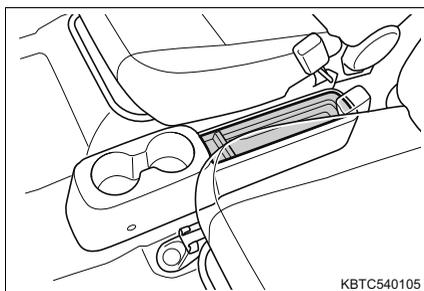
▶ フロントドア



▶ リヤドア



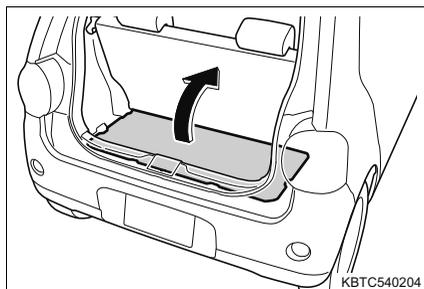
▶ センターコンソールトレイ

**▲ 警告**

トレイ内に転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ラゲージルーム内装備

デッキボード



警告

■ デッキボードを操作するときは

荷物を載せた状態で操作しないでください。
指をはさんだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

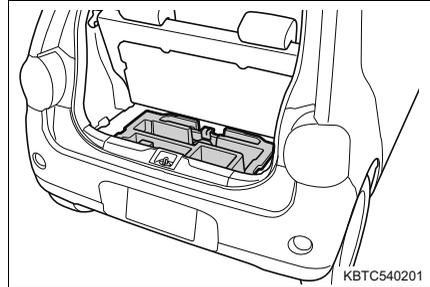
注意

■ デッキボードの破損を防ぐために

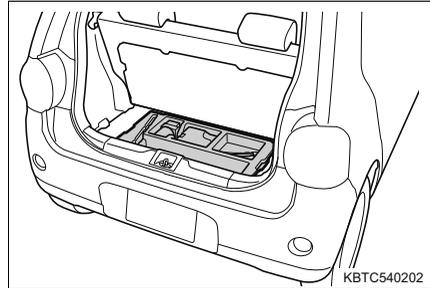
デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

デッキアンダートレイ

▶ FF 車（前輪駆動）



▶ 4WD 車（4 輪駆動）



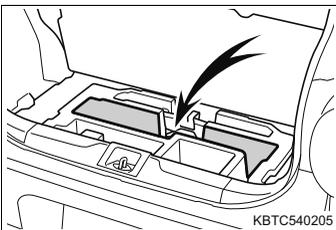
知識

■ 停止表示板収納について

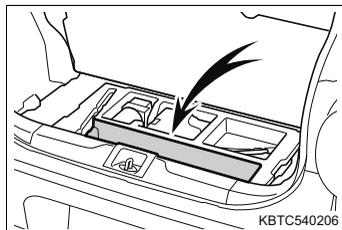
デッキアンダートレイに、停止表示板を収納することができます。

ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

▶ FF 車（前輪駆動）



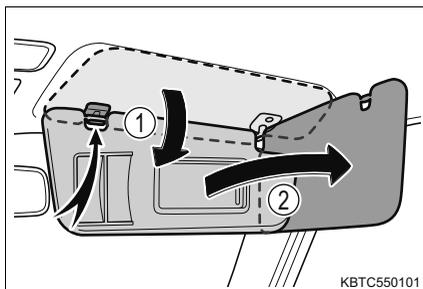
▶ 4WD 車（4 輪駆動）



その他の室内装備

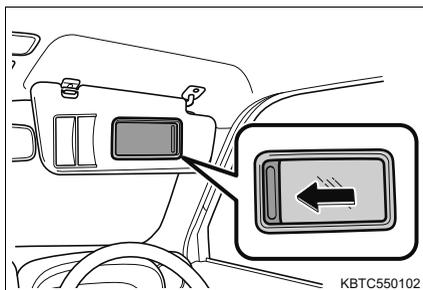
サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



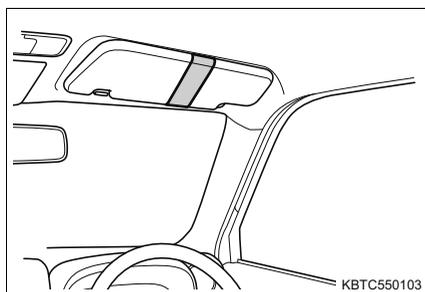
■ バニティミラー★

カバーをスライドして開ける

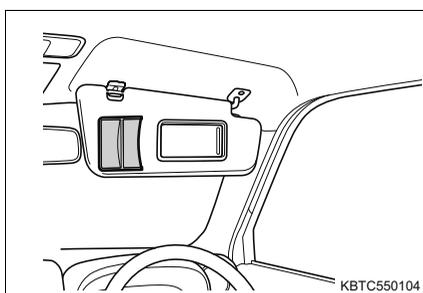


■ チケットホルダー／カードホルダー

▶ チケットホルダー



▶ カードホルダー★

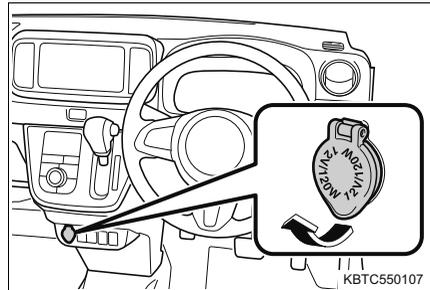


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクセサリソケット

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ eco IDLE によるエンジン再始動時について

エンジン停止状態から再始動するとき、一時的に使用できないことがあります
が、異常ではありません。

注意

■ ショートや故障を防止するために

異物が入ったり、液体などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

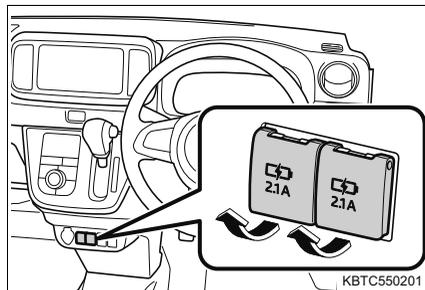
エンジンが停止した状態で、アクセサリソケットを長時間使用しないでください。

USB 電源ソケット★

最大消費電力 10.5W (DC5V/2.1A) 以下の電源としてお使いください。
充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご
使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

1 フタを開ける



2 ケーブルをソケットの向きに合わせてしっかり奥まで差し込む

機器やケーブルは、運転のさまたげにならない場所に固定してください。

3 使用後は必ずケーブルを抜く

フタが閉まっていることを確認してください。

知識

- エンジンが再始動したときに、一時的に充電を停止することがある場合は、バッテリーの劣化が考えられますのでダイハツサービス工場にご相談ください。
- 一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、異常ではありません。

■ 作動条件

- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ 正常に働かないおそれのある状況

- 最大定格を超える電力を要求する機器を接続したとき
 - ・ 保護機能が働くため充電できないことがあります。
 - ・ 充電できた場合でも充電完了までの時間がかかることがあります。
- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっているとき
 - ・ エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから充電を開始してください。
 - ・ 高温状態で充電した場合、温度センサーが自動的に充電を停止する場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

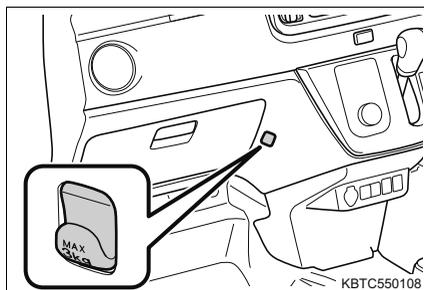
- USB 電源ソケットに指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足をとられないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

注意

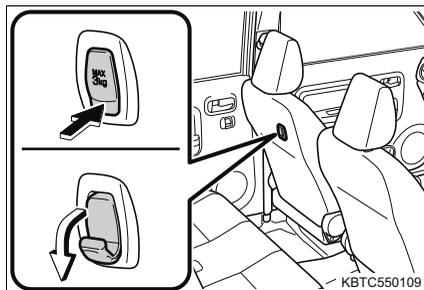
- 強い衝撃や力を加えないでください。
- **バッテリーあがりを防ぐために**
 - エンジンが停止した状態で、USB 電源ソケットを長時間使用しないでください。
 - 走行中の使用でも充電が不要になったらケーブルを抜くように心がけてください。

ショッピングフック

▶ 助手席前



▶ 助手席シートバック★

**警告**

- 助手席シートバックのショッピングフック★を使用しないときはけがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

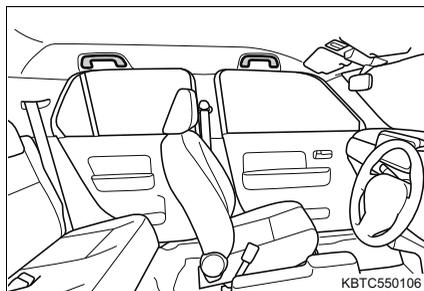
⚠ 注意**■ ショッピングフックの破損を防ぐために**

3kg を超えるものをフックに吊り下げないでください。

フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

格納式アシストグリップ

天井に取り付けられている格納式アシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

**⚠ 警告**

格納式アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

格納式アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

破損を防ぐために、格納式アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

- 外装の手入れ …………… 278
- 内装の手入れ …………… 282

6-2. 簡単な点検・部品交換

- ボンネット …………… 285
- ガレージジャッキ …………… 288
- エンジンオイルについて … 289
- ウォッシャー液の補充 …… 290
- タイヤについて …………… 291
- タイヤの交換 …………… 295
- タイヤ空気圧について …… 302
- エアコンフィルターの
交換 …………… 304
- ワイパーゴムの交換 …… 306
- キーの電池交換 …………… 310
- ヒューズの点検・交換 …… 314
- 電球（バルブ）の交換 …… 316

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボディの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、ダイハツケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

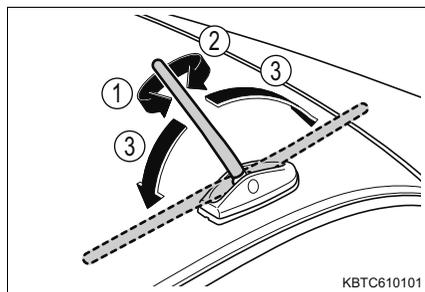
詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

- ① 取りはずす
- ② 取り付ける
- ③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。



KBTC610101

デザインフィルムトップ★について

コーティングを施しているため、ワックスをかける必要はありません。

固形ワックスなどを使用した場合、フィルム表面の凹凸に固形物が残留し、外観を損なうことがあります。デザインフィルムトップ表面の凹凸に固形ワックスなどが入り込んだ場合は、柔らかいブラシ（歯ブラシなど）で取り除いてください。

■ 洗車の手順

- 1 塗装面と同様に十分に水をかけながら、スポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗う

洗剤を使う場合は、研磨剤を含まない中性の洗浄液で水洗いしてください。
自動洗車機、高圧洗車機もお使いいただけます。

- 2 水が乾かないうちに、柔らかい布でふき取る

知識

■ 自動洗車機を使うとき

● お車を洗う前に：

- ・ ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択する
- ・ アンテナを取りはずす

車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。

● ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠、ハイマウントストップランプ付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■ 洗車などで車に水をかけたとき（キーフリーシステム装着車）

電子カードキーが作動範囲内にある場合、洗車などで水圧にてドアハンドル表面にあるドアハンドルのスイッチが押され、ドアが施錠・解錠することがあります。

（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告**■ 洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

● 次のような場合は、ただちに洗車してください。

- 海岸地帯を走行したあと
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

● ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

● 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

● ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ ドアミラーの損傷を防ぐために

自動洗車機を使用するときは、ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択してください。

 **注意****■ アンテナの取り扱いについて**

アンテナを取り扱うときは無理な力をかけないでください。ボデーの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。

■ アンテナの損傷を防ぐために

- 車庫の天井などにアンテナがあたるときはアンテナを格納してください。
- 次のようなときはアンテナを取りはずしてください
 - ・ カーカバーをかけるとき
 - ・ 自動洗車機を使用するとき
 - ・ 降雪時に長時間駐車するとき

■ アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機を使用するときなどアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

■ デザインフィルムトップ★について

デザインフィルムトップ貼り付け部にルーフキャリアを取り付けしないでください。デザインフィルムトップが破損するおそれがあります。

■ 洗車時の注意

- 洗車をするときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。車体がへこむおそれがあります。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、カメラ★やカメラ周辺、ソナー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
また、ノズルの先端を、次の部品の結合部やブーツ類（ゴム又は樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 研磨剤入りの洗剤は使用しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗淨

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV&IR カットガラス (フロントドア)★について

- フロントドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- フロントドアガラスの汚れがひどいときは、フロントドアガラスの開閉を繰り返さないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **警告****■ 車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 28)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

 **注意****■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。
- メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。
変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

 **注意****■ 革の傷みをさけるために**

皮革の表面の劣化や損傷をさけるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を清掃するとき

ステレオカメラ (→ P. 181) にさわらないように注意してください。

誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、スマートアシストⅢの誤作動や故障につながるおそれがあります。

■ リヤウィンドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパー UV&IR カットガラス (フロントドア)★を清掃するときは

フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品 (ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど) や鋭利なもの、硬いものを使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

■ 液体芳香剤を使用するときは

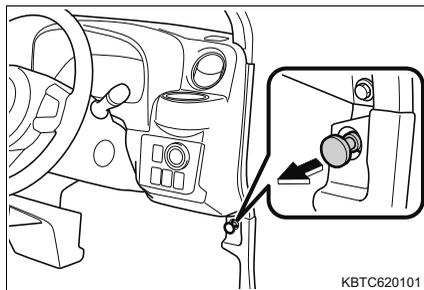
こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメントパネルの上やメーターの近くに置かないでください。

液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

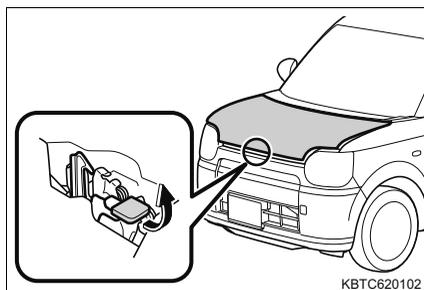
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

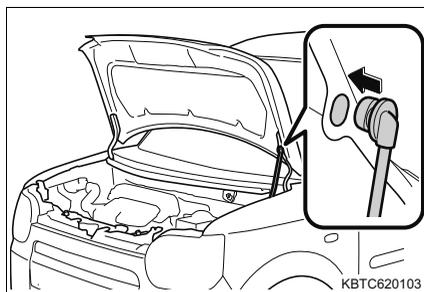
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

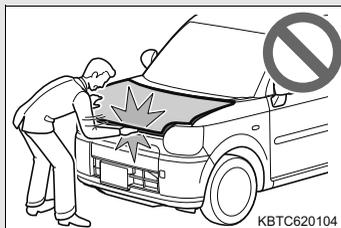
■ オイルを点検・交換するとき

オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。

重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



 **注意****■ ボンネットを開けるとき**

フロントワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

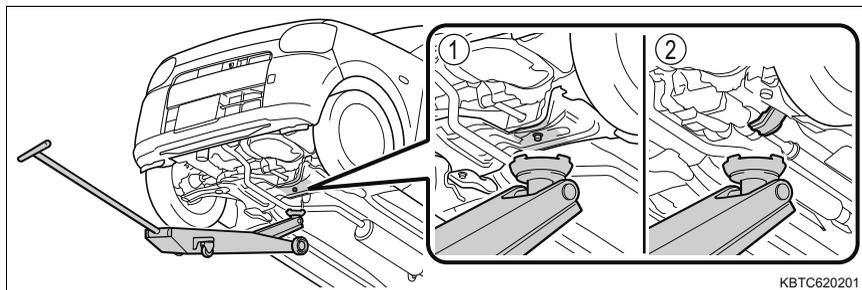
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

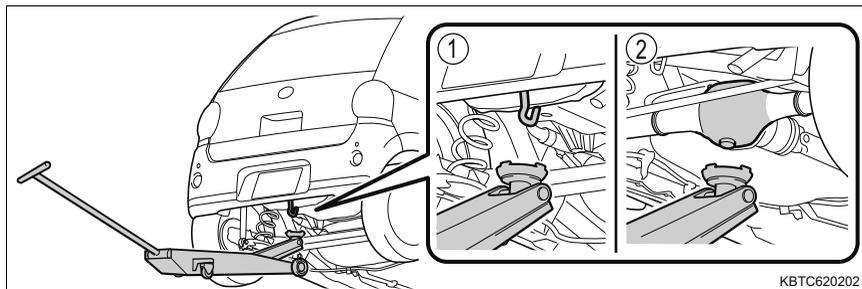
◆ フロント側



① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

◆ リヤ側



① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

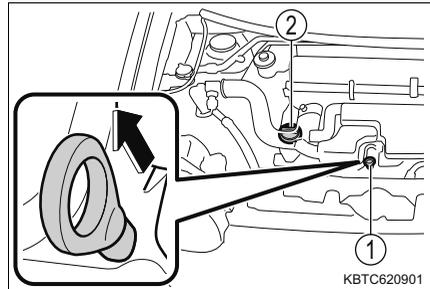
エンジンオイルについて

点検

エンジンオイルの量は、定期的に点検してください。また、高速走行を行う前は、必ず点検してください。

点検はオイルレベルゲージを抜き取って行います。

- ① オイルレベルゲージ
- ② オイルフィラキャップ



エンジンルームのイラストは代表例です。

知識

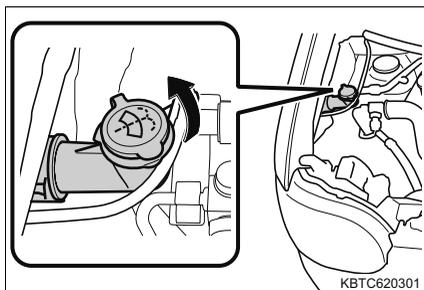
■ エンジンオイルについて

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行と共に減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、オイルフィラキャップの裏側や、オイル注入口にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機などで水分が蒸発すると解消します。
この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

●タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

●タイヤの亀裂・損傷の有無

●タイヤの溝の深さ

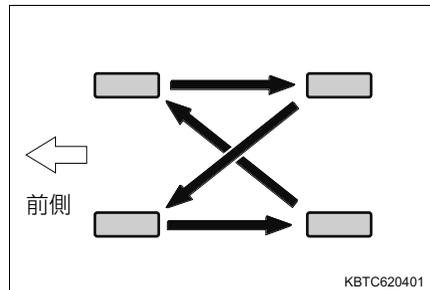
●タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、ダイハツは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定された空気圧に調整してください。

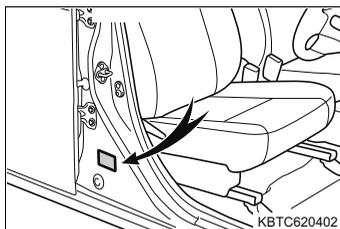


知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪
155/65R14 75S	260 (2.6)	260 (2.6)

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ空気圧の点検

- 1ヶ月に1回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ タイヤローテーションについて

この車両には、スペアタイヤが搭載されていないため、スペアタイヤを利用するタイヤローテーションができません。ダイハツサービス工場にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）で、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルトッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない。
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

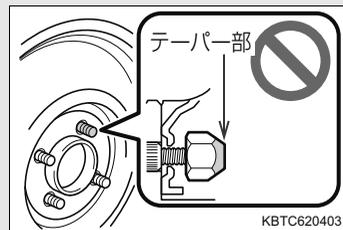
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部分を内側にして取り付けてください。テーパ部分を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。

ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。

またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。

タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの交換

ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

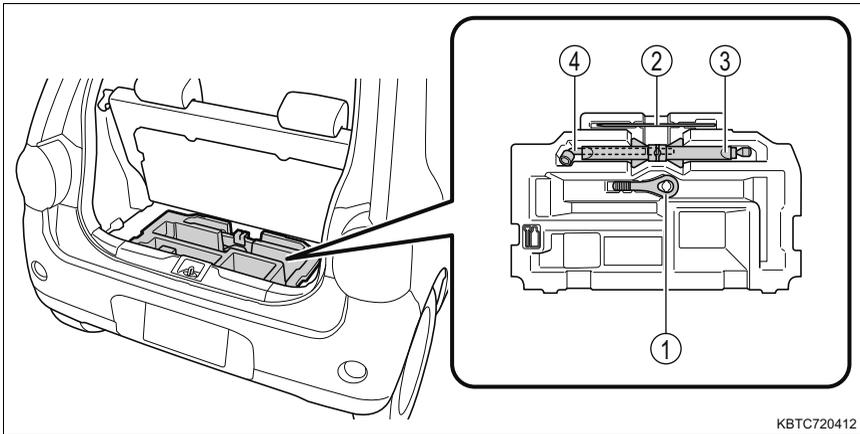
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

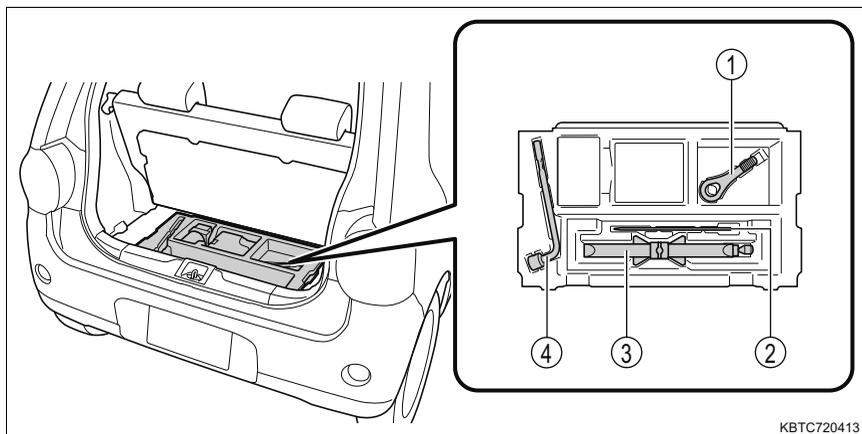
- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する

工具とジャッキの位置

▶FF車（前輪駆動）



▶4WD車（4輪駆動）



KBTC720413

- | | |
|------------|--------------|
| ① けん引フック | ③ ジャッキ |
| ② ジャッキハンドル | ④ ホイールナットレンチ |

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

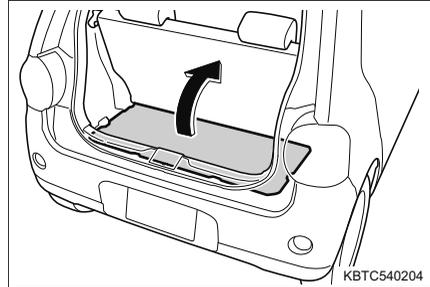
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、お車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様のお車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様のお車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）に正しくかける
- ジャッキで支えられているお車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたりお車を走らせない
- 車内に人を乗せたままお車を持ち上げない
- お車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- お車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- お車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- お車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキと工具の取り出し方

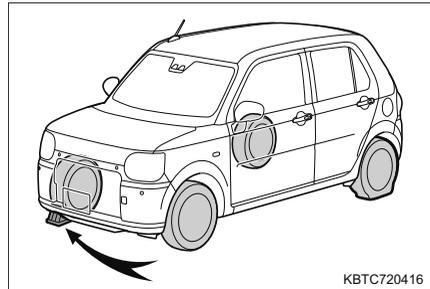
1 デッキボードを持ち上げる



2 ジャッキと工具を取出す (→ P. 295, 296)

タイヤの交換

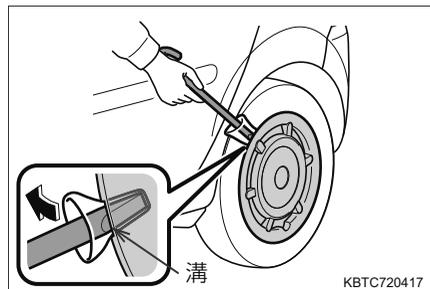
1 輪止めをする



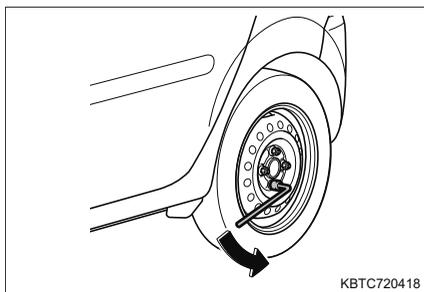
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ホイールキャップをはずす

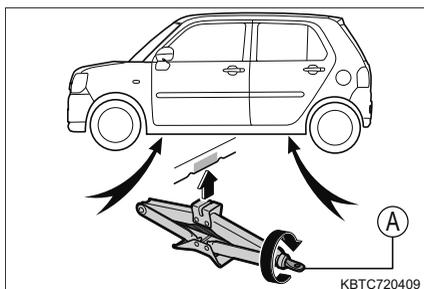
- 傷が付くのを防ぐため、ジャッキハンドルの先端に布などを巻いて保護してください。
- ジャッキハンドルを溝に差し込んではずします。



- 3 ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

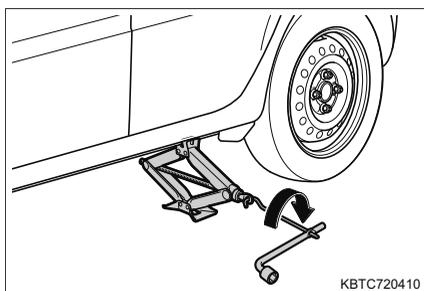


- 4 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置(切り欠きと切り欠きの間)にしっかりかける



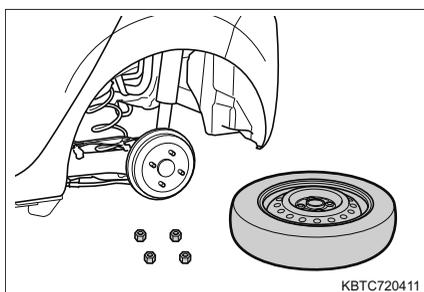
- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体をあげる

ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にして置きます。



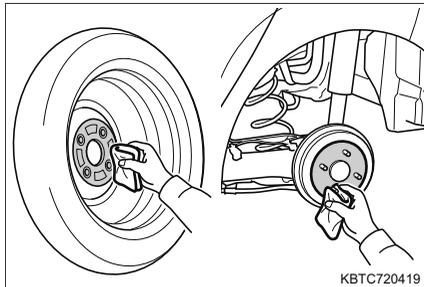
 **警告****■ タイヤ交換について**

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部やナットのテーパ部オイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、ダイハツサービス工場での点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパ部を内側にして取り付ける (→ P. 293)

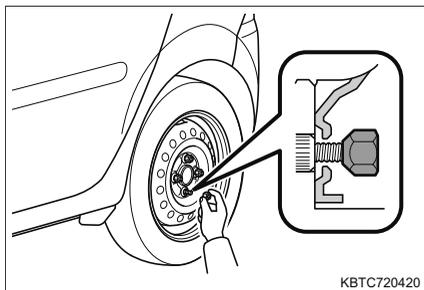
タイヤの取り付け

- 1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る

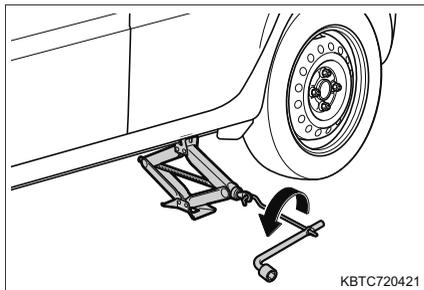
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



- 2 タイヤを取り付け、がたつかない程度まで手でナットを仮締めする
ナットのテーパ部分にホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

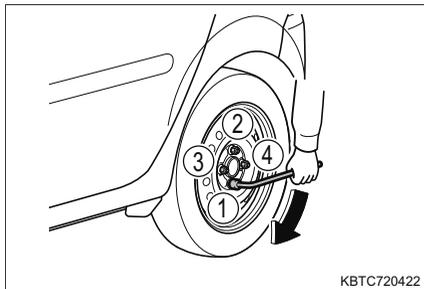


- 3 車体を下げる



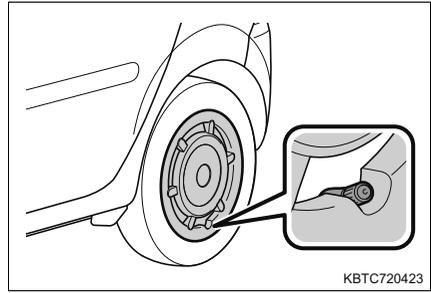
- 4 図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m (1050kgf・cm)



- 5 車両に装着されていたホイールにもどしたときは、ホイールキャップを取り付ける

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。



- 6 すべての工具・ジャッキを収納する

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 386)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、ダイハツサービス工場でのタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 **警告****■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 **注意****■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

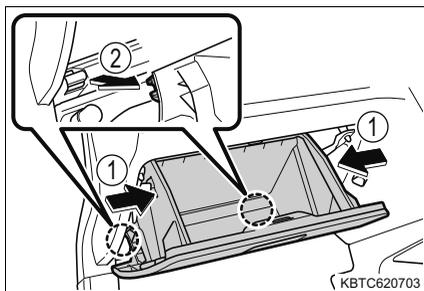
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的
に交換してください。

交換のしかた

1 エンジンスイッチを“OFF”にする

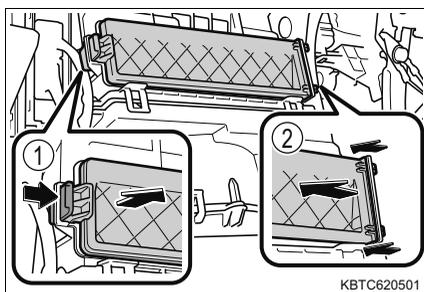
2 グローブボックスを取りはずす

- ① 側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずす
- ② 下部のツメをはずす



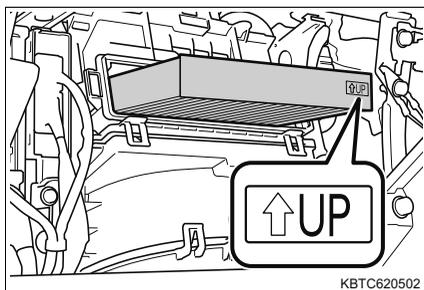
3 フィルターカバーを取りはずす

- ① フィルターカバーの固定を解除する
- ② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、フィルターカバーを抜く

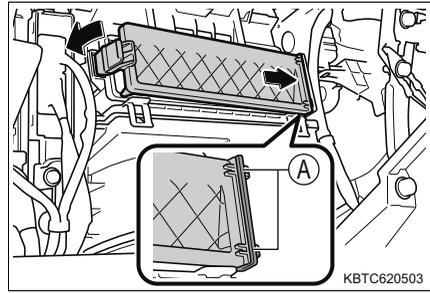


4 フィルターを取りはずし、新しい
フィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くよう
に取り付けます。



- 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける
フィルターカバーはA部に入れてから、
取り付けてください。



知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

▶ クリーンエアフィルター装着車
20,000km[10,000km*] ごと

* 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

▶ スーパークリーンエアフィルター装着車
20,000km[10,000km*] ごと

* 大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所や山岳地、丘陵地など地域により花粉が多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

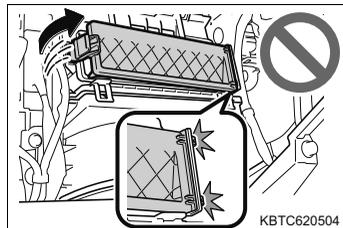
注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するとき、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



ワイパーゴムの交換

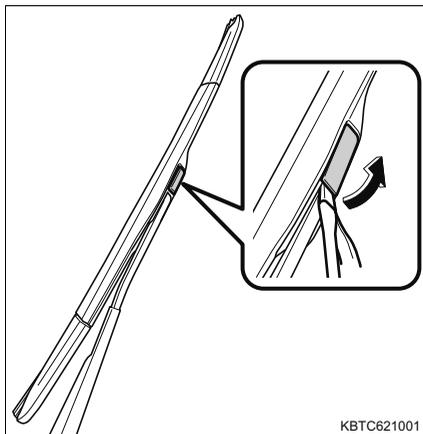
ワイパーゴムを交換する際は、次の要領でワイパーの各部品を操作してください。

フロントワイパー

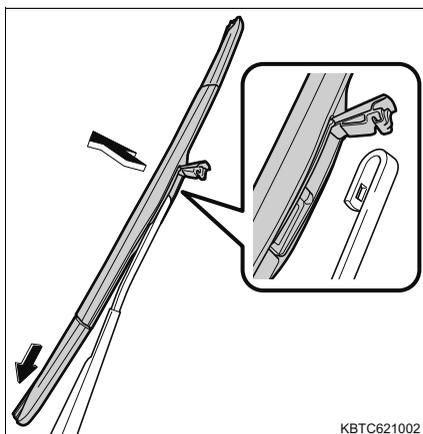
■ フロントワイパーブレードの脱着

- ① ワイパーアームを起こし、マイナスドライバーなどを挿し込んで、カバーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



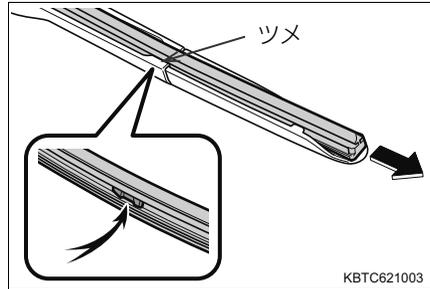
- ② ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす



- ③ 取り付けるときは、逆の手順で取り付ける

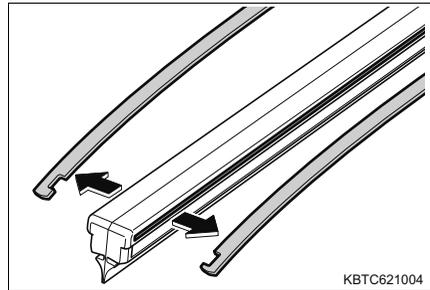
■ フロントワイパーゴムの交換

- 1 ワイパーゴムを引っ張り、ストッパーをワイパーブレードのツメからはずし、そのまま引き抜く



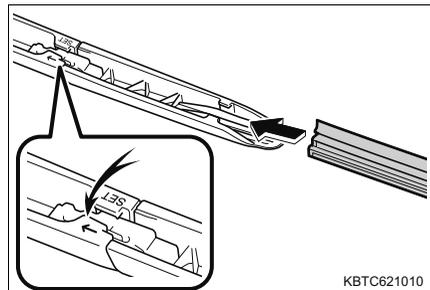
- 2 古いワイパーゴムから金属プレート2枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

金属プレートの切り欠きと反りの向きに注意して取り付けてください。



- 3 取り付けるときは、ワイパーゴムのストッパーがないほうからワイパーブレードに挿入する

ワイパーブレードにある矢印の方向へ挿入してください。



- 4 ワイパーゴムのストッパーをワイパーブレードのツメで確実に固定する

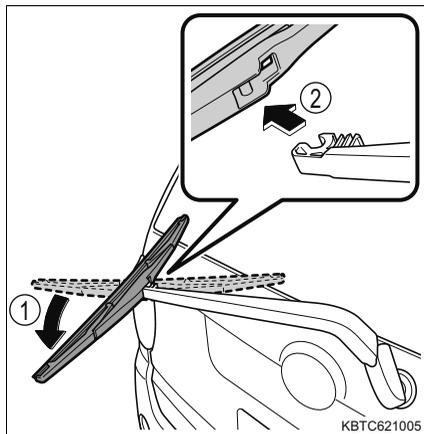
リヤワイパー★

■ リヤワイパーブレードの脱着

- ① ワイパーアームを起し、ワイパーブレードを取りはずす

① ツメのかん合がはずれる位置までワイパーブレードをまわす

② ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす

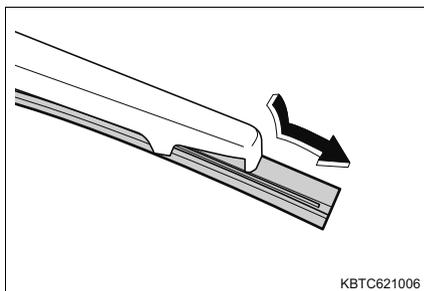


- ② ワイパーブレードを取り付けるときは ① と逆の手順で取り付ける

ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

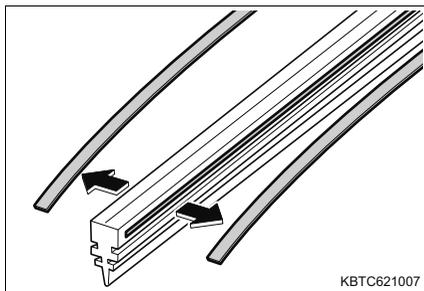
■ リヤワイパーゴムの交換

- ① ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く

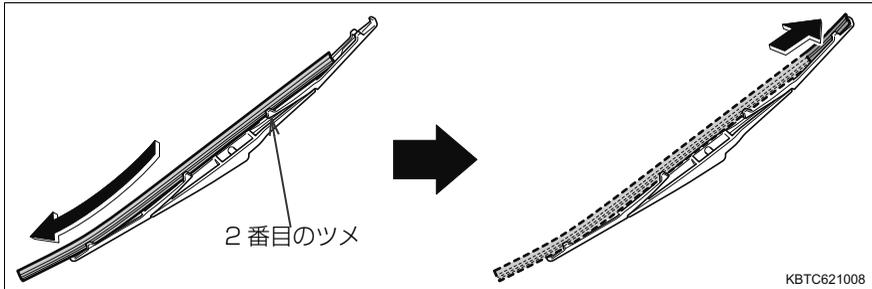


- ② 古いワイパーゴムから金属プレート2枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

金属プレートの反りの向きに注意して取り付けてください。

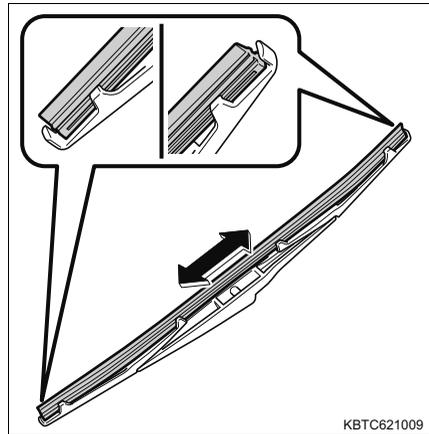


- 3 ワイパーブレードの2番目のツメを通してワイパーゴムを挿入し、3つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った1つのツメに通すワイパーゴムにウォッシャー液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



- 4 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

- ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。
- ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



知識

■ ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

⚠ 注意

- ワイパーを交換するときはツメの破損に注意してください。
- ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずしたあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

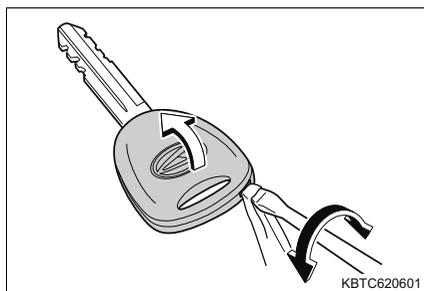
- 薄刃のマイナスドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）
- リチウム電池
 - ・ CR1620（キーフリーシステム非装着車）
 - ・ CR2032（キーフリーシステム装着車）

電池交換のしかた

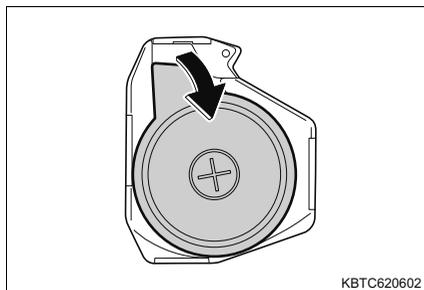
▶ キーフリーシステム非装着車

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

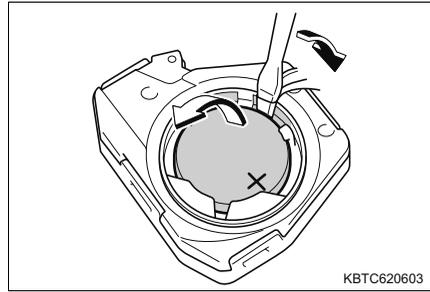


2 モジュール裏側のゴムカバーをはずす

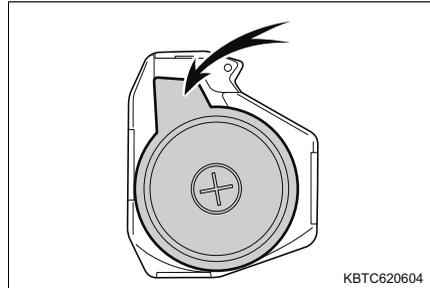


3 消耗した電池を取り出す

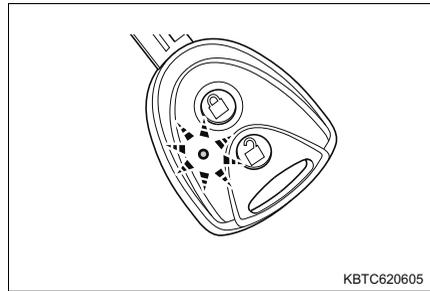
新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

**4** モジュールにゴムカバーを取り付ける

ゴムカバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。ゴムカバーが確実にはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。

**5** カバーを取り付ける

スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認してください。

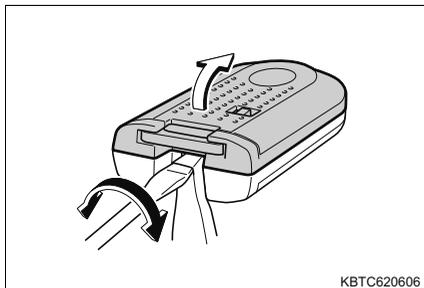


▶キーフリーシステム装着車

1 カバーをはずす

ダイハツマーク側を上にしてはずしてください。

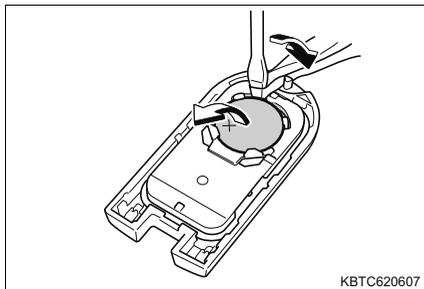
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



2 消耗した電池を取り出す

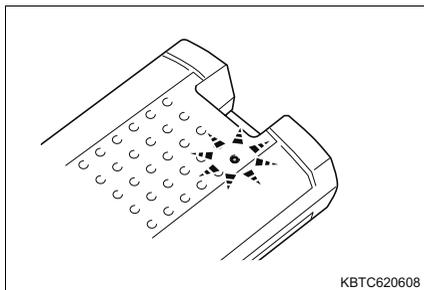
カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子カードキーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。



3 カバーを取り付ける

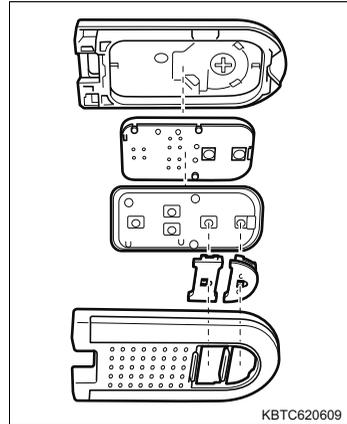
スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する



知識

■ 電子カードキー★の部品がばらけたときは

図を参考に組み付けてください。



■ リチウム電池の入手

電池はダイハツサービス工場・時計店およびカメラ店などで購入できます。

- キーフリーシステム非装着車：CR1620
- キーフリーシステム装着車：CR2032

■ 電子カードキー★の電池が消耗していると

次のような状態になります。

- キーフリーシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

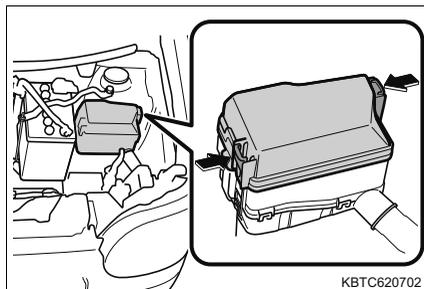
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

- ① エンジンスイッチを“OFF”にする
- ② ヒューズボックスを開ける

▶エンジンルーム

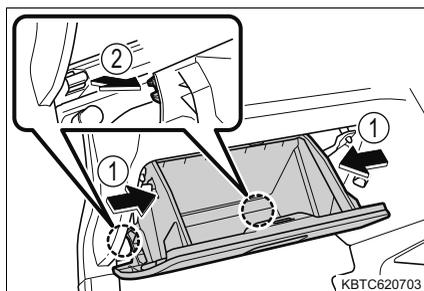
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



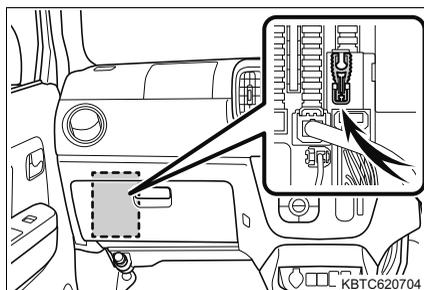
▶助手席足元

グローブボックスをはずす

- ① 側面を内側に押し上部のツメを片側ずつはずす
- ② 下部のツメをはずす



- ③ ヒューズを引き抜く
ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

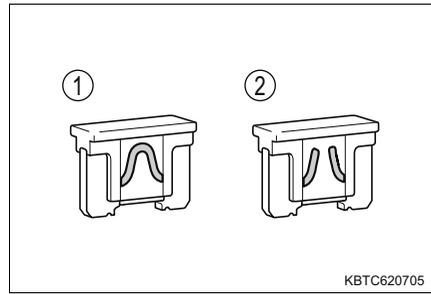


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 316)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球 (バルブ) を交換するとき

この車両に指定されているダイハツ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のダイハツ純正品以外には使用できない場合があります。

警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

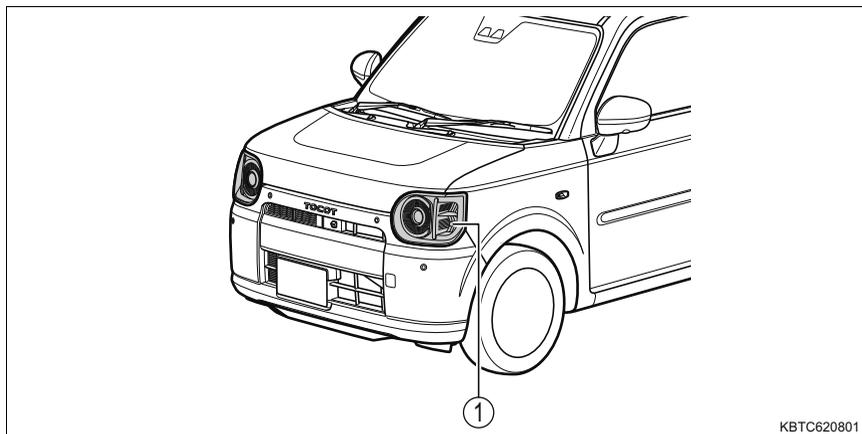
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、ダイハツサービス工場での交換をおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 386）

バルブ位置

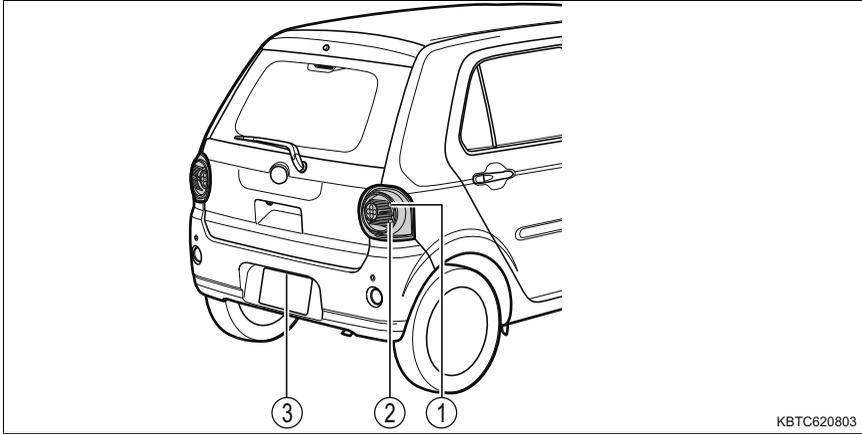
■ フロント



KBTC620801

① フロント方向指示／非常点滅灯

■ リヤ



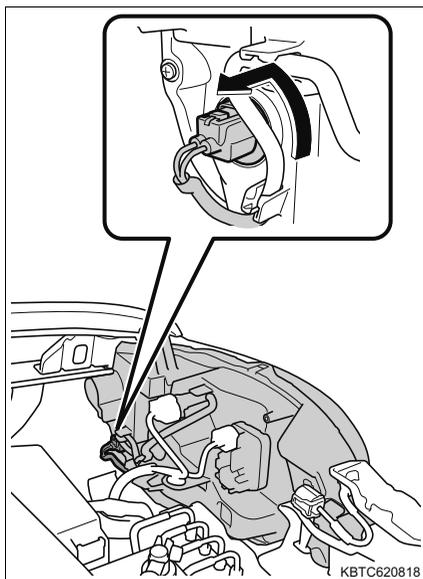
- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯
- ③ 番号灯

電球交換のしかた

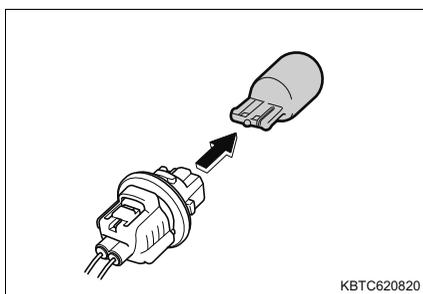
フロント方向指示／非常点滅灯はボンネットを開けてから作業してください。

■ フロント方向指示／非常点滅灯

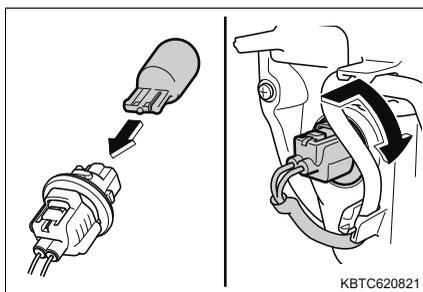
- 1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



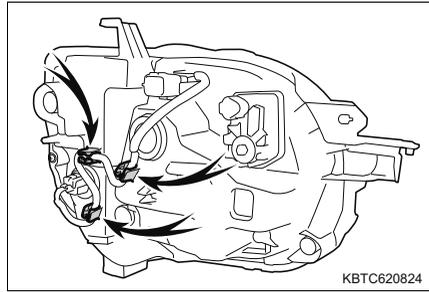
- 2 電球を取りはずす



- 3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

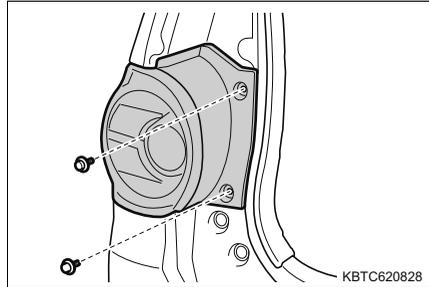


- 4 配線がランプ本体に確実に取り付けられていることを確認する
配線を取り付けるときは、クランプに元どおり取り付けてください。

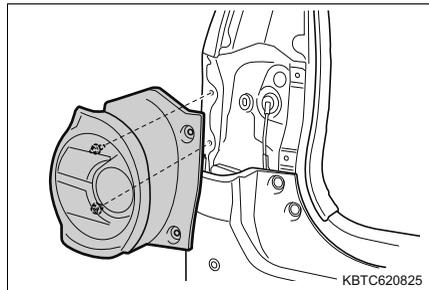


■ 後退灯・リヤ方向指示／非常点滅灯

- 1 バックドアを開けて、ボルト(2本)をはずす

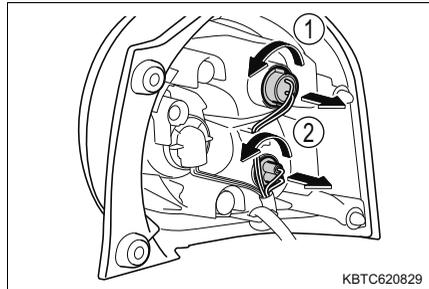


- 2 ランプ本体をまっすぐ後方に引き、内部にあるかん合をはずす
ランプ本体は、ピン(1ヶ所)とクリップ(1ヶ所)で固定されています。



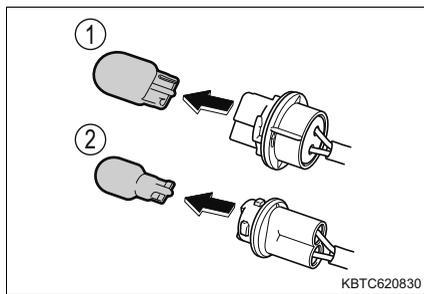
- 3 ソケットを取りはずす

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
② 後退灯



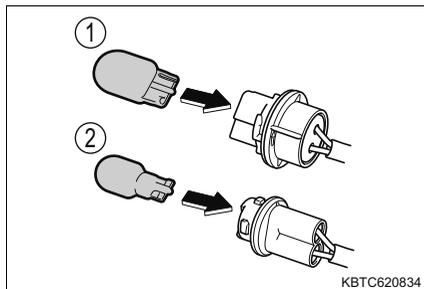
4 電球を取りはずす

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



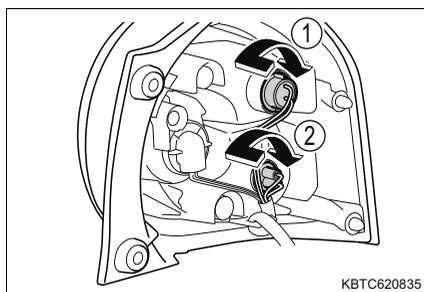
5 電球を交換し取り付ける

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



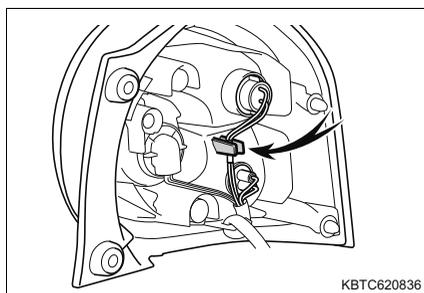
6 ソケットを取り付ける

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯

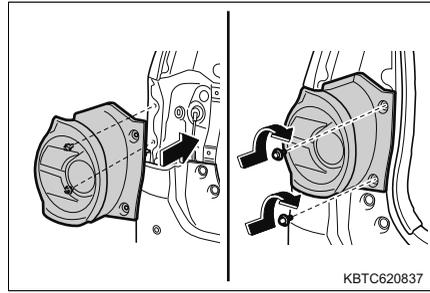


7 配線がランプ本体に確実に取り付けられていることを確認する

配線を取り付けるときは、クランプに元どおり取り付けてください。

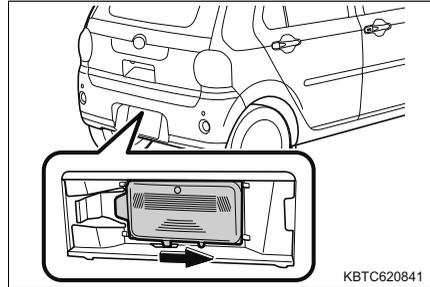


- 8 車両側とランプ本体のクリップの位置を合わせてランプ本体を取り付け、ボルト（2本）で固定する

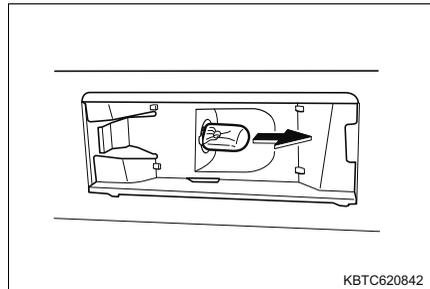


■ 番号灯

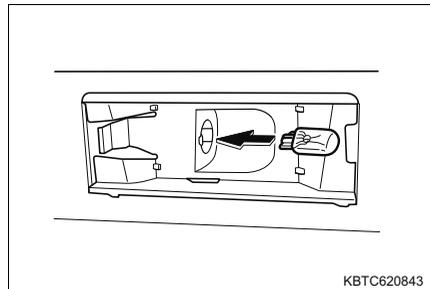
- 1 レンズをスライドして取りはずす



- 2 電球を取りはずす

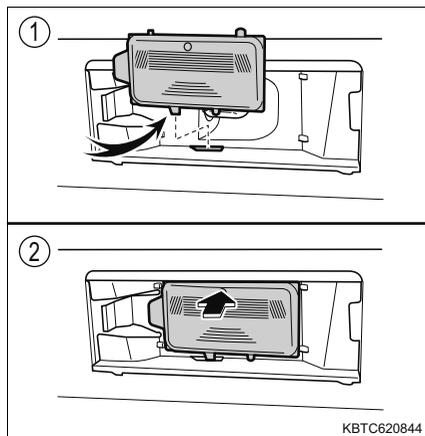


- 3 新しい電球を取り付ける



④ レンズを取り付ける

レンズの突起部をランプ本体の溝に入れ (①)、矢印の方向に押し (②) 取り付ける



■ その他の電球

次の電球が切れたときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

- ヘッドランプハイビーム／ロービーム
- 車幅灯
- サイド方向指示／非常点滅灯
- 制動灯／尾灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■ LED ランプについて

制動灯／尾灯・ハイマウントストップランプは数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場でご相談ください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球 (バルブ) を交換するとき

→ P. 316

 **警告****■ 電球を交換するときは**

- ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかり取り付けられていることを確認ください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは	326
非常点滅灯 (ハザードランプ)	327
発炎筒	328
車両を緊急停止するには	330
水没・冠水したときは	332

7-2. 緊急時の対処法

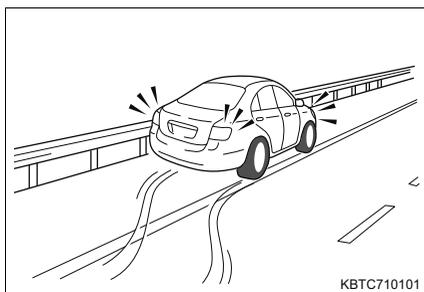
けん引について	333
フューエルポンプ シャットオフシステム	339
警告灯がついたときは	340
警告メッセージが 表示されたときは	346
「スマアシ停止」が 表示されたときは	355
パンクしたときは	358
エンジンが かからないときは	371
電子カードキーが 正常に働かないときは (キーフリーシステム 装着車)	372
バッテリーが あがったときは	374
オーバーヒート したときは	377
スタックしたときは	380

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

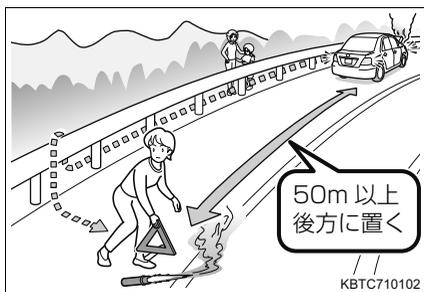
非常点滅灯（→ P. 327）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

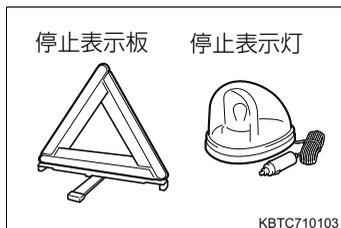
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 328）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板のご購入については、ダイハツサービス工場にお問い合わせください。



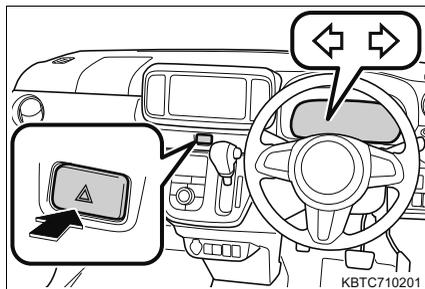
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。



⚠ 注意

■ 非常点滅灯について

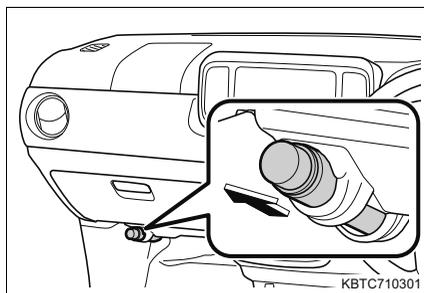
エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

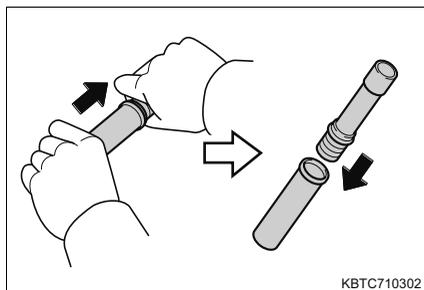
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)

発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

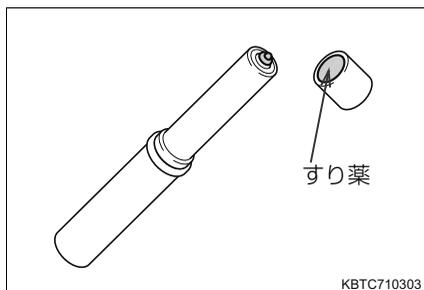
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、ダイハツサービス工場でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 **警告****■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかり踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶シフトレバーが N に入った場合

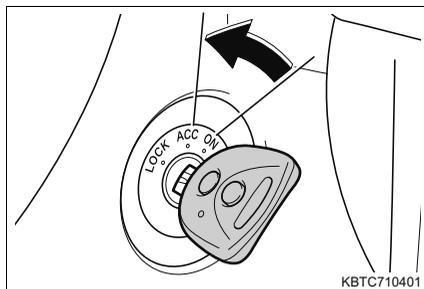
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 キーフリーシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



キーフリーシステム装着車：エンジンスイッチを3秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押し続けてエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

 **警告****■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき**

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーフリーシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分以上を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー^{*}の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

^{*} 詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけダイハツサービス工場または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

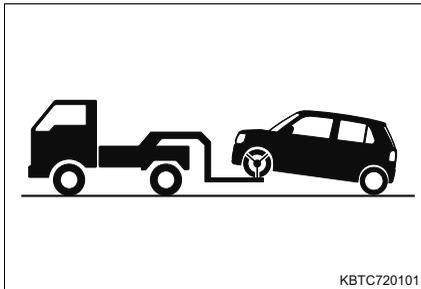
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

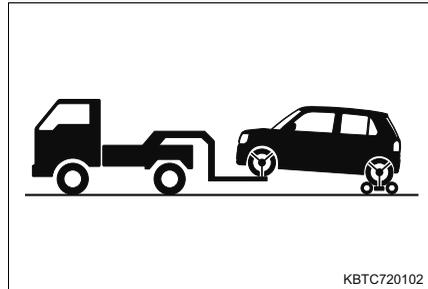
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは (FF 車) ▶ 前向きにけん引するときは (4WD 車)



KBTC720101

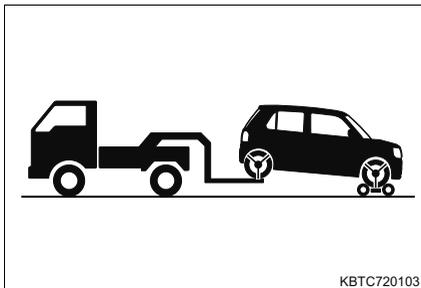
パーキングブレーキを解除する



KBTC720102

台車を使用して後輪を持ち上げる

- ▶ うしろ向きにけん引するときは

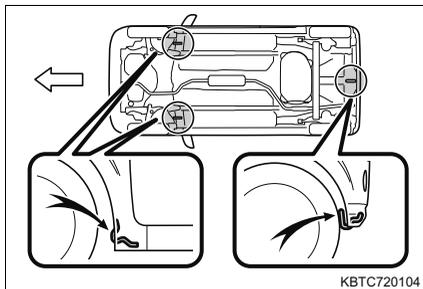


KBTC720103

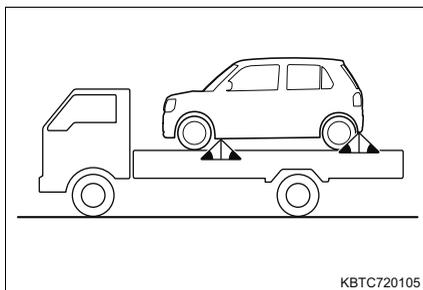
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



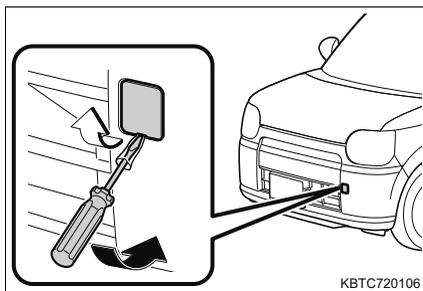
他車にけん引してもらうとき

① けん引フックを取り出す (→ P. 360)

② けん引フックを取り付ける

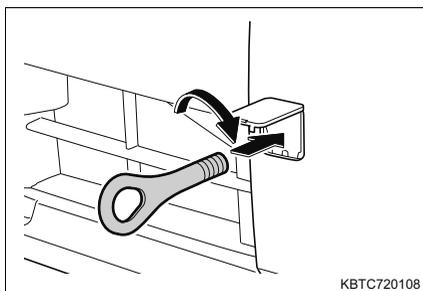
マイナスドライバーなどを使って
フタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



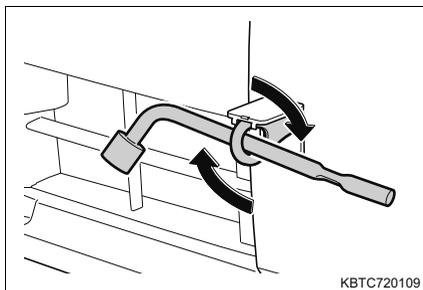
KBTC720106

けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



KBTC720108

ホイールナットレンチや金属の固
い棒などを使い確実に取り付ける



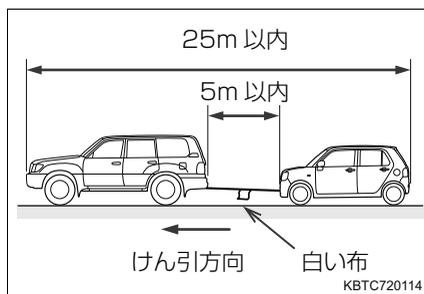
KBTC720109

③ 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

4 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



5 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

6 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 159

知識

■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ 他車にけん引してもらうときに

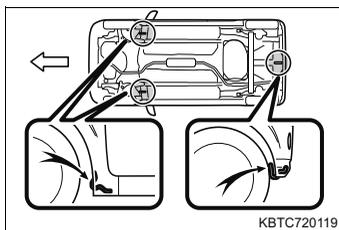
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ ホイールナットレンチについて

ラゲージルーム内に搭載されています。(→ P. 360)

■ 輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



警告

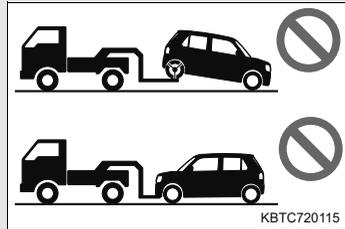
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

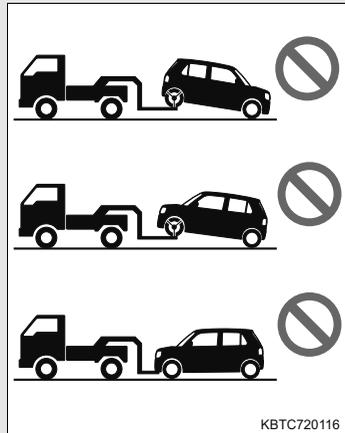
▶ FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などをさけてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを“OFF”にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。
- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。

警告

■けん引フックを車両に取り付けるとき

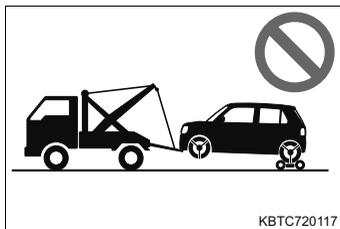
指定の位置にしっかり取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



KBTC720117

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブルなどを過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度は 30km/h 以下、距離 50km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF 車）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、フューエルポンプシャットオフシステムが作動している可能性があります。フューエルポンプシャットオフシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

システム作動後にエンジンを再始動するには

- 1 エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>ブレーキ警告灯（警告ブザー※1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 <p>→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>
	<p>充電警告灯</p> <p>充電系統の異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。</p>
	<p>油圧警告灯</p> <p>エンジンオイルの圧力異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。</p>
 (赤色点滅 または点灯)	<p>高水温警告灯（警告ブザー）</p> <p>エンジン冷却水温の異常 (水温の上昇にとまない、点滅から点灯にかかります。 → P. 377)</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。</p>
	<p>エンジン警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 <p>→ ただちにダイハツサービス工場点検を受けてください。</p>
 (点滅)	<p>CVT 警告灯</p> <p>CVT 電子制御システムの異常</p> <p>→ ただちにダイハツサービス工場点検を受けてください。</p>

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	<p>SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 <p>→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>
	<p>ABS 警告灯</p> <p>ABS の異常</p> <p>→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>(赤色)</p>	<p>パワーステアリング警告灯 (警告ブザー)</p> <p>EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常</p> <p>→ ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>
<p>※2</p>  <p>(黄色)</p>	<p>パワーステアリング警告灯 (警告ブザー)</p> <p>電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート</p> <p>→ ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作をひかえてください。約 10 分経過すると通常の重さにもどります。</p>
 <p>(黄色)</p>	<p>オートハイビーム警告灯★</p> <p>オートハイビームの異常</p> <p>→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>
   <p>※3</p> 	<p>スマートアシスト OFF 表示灯</p> <p>車線逸脱警報 OFF 表示灯</p> <p>マスターウォーニング</p> <p>マルチインフォメーションディスプレイに「スマアシ故障」が表示</p> <p>スマートアシストⅢの異常</p> <p>→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>
 	<p>コーナーセンサー表示灯 (警告ブザー)</p> <p>マスターウォーニング</p> <p>コーナーセンサーの異常</p> <p>→ ダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点灯)	スリップ表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキアシストの異常 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 (VSC・TRC 作動時は点滅します→ P. 240) ・ ヒルホールドシステムの異常 → ダイハツサービス工場 で点検を受けてください。
 (点滅)	eco IDLE OFF 表示灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ eco IDLE システムの異常 ・ スターターの交換時期 (eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 214) → ダイハツサービス工場 で点検を受けてください。
※4  (点滅→消灯)	eco IDLE OFF 表示灯 バッテリーの交換時期 (eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 214) → ダイハツサービス工場 で点検を受けてください。
	ブレーキオーバーライドシステム警告灯★ ブレーキオーバーライドシステムの作動時 → アクセルペダルから足を離す
	半ドア警告灯※5★ いずれかのドアが確実に閉まっていない → 全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 (警告ブザー) 燃料の残量が 2WD 車は約 4.5L 以下、4WD 車は約 5.5L 以下になった → 燃料を補給する
 (点滅)	▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯※6 (警告ブザー※7) 運転席・助手席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する ▶ TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車 運転席シートベルト締め忘れ警告灯 (警告ブザー※7) 運転席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	助手席シートベルト締め忘れ警告灯※6★（警告ブザー※7） 助手席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する
	後席シートベルト締め忘れ警告灯※8,9（警告ブザー※10） 後席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する
	パーキングブレーキ未解除警告灯（警告ブザー※11） パーキングブレーキがかかっているとき → パーキングブレーキを解除する

- ※1 ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。
- ※2 パワーステアリング警告灯（黄色）：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はダイハツサービス工場にて点検を受けてください。
- ※3 「スマアシ故障」の表示：
ステレオカメラ、ソナーに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイ★に表示されます。
- ※4 eco IDLE OFF 表示灯：
エンジン始動時に、数秒間点滅します。
- ※5 半ドア警告灯：
開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイ★に表示されます。
- ※6 助手席シートベルト締め忘れ警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。
- ※7 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトが締め忘れのまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトが締め忘れのままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。
- ※8 インナーミラー上部に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ※⁹ 後席シートベルト締め忘れ警告灯：
後席シートベルトが非装着の状態、エンジンスイッチを“ON”にしたとき、もしくは後席シートベルトをはずすと点灯します。
後席シートベルトを着用する、または走行後約 30 秒経過すると消灯します。
また、走行後、後席シートベルトをはずした状態でリヤドアを開閉すると点灯します。
- ※¹⁰ 後席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
車速が約 5km/h 以上で乗員が後席シートベルトをはずすと約 30 秒間鳴り続けます。一度警告ブザーが鳴ると、約 5km/h 以下で走行しても約 30 秒間鳴り続けます。
後席シートベルトを着用する、もしくはリヤドアを開閉すると、ブザーが停止します。
- ※¹¹ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE 表示灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告灯	警告内容・対処方法
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた → 運転席ドアを閉める
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトをはずした → 運転席シートベルトを着用する
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中にボンネットを開けた → ボンネットを閉めたあと、シフトレバーを P にして、エンジンスイッチでエンジンを始動する

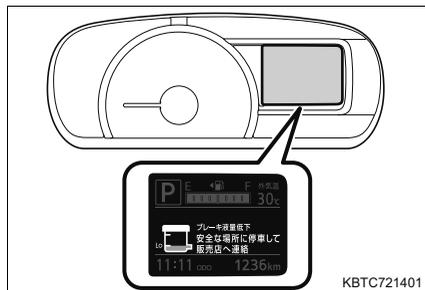
警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは★

TFT マルチインフォメーションディスプレイ★に警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、ダイハツサービス工場へご連絡ください。

メッセージと警告作動

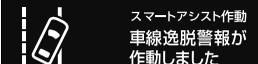
警告メッセージ	警告内容・対処方法
 <p>ブレーキ液量低下 安全な場所に停車して 販売店へ連絡</p> 	<p>ブレーキ液の不足 車速が約 5km/h をこえたときには警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>
 <p>ブレーキシステム故障 安全な場所に停車して 販売店へ連絡</p> 	<p>ブレーキシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。</p>
 <p>充電システム故障 安全な場所に停車して 販売店へ連絡</p> 	<p>充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。</p>
 <p>エンジン油圧低下 安全な場所に停車して 販売店へ連絡</p> 	<p>エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 <p>エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 販売店へ連絡</p>  <p>(赤色)</p>	<p>エンジン冷却水高温異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。</p>
 <p>エンジンシステム異常 販売店で点検を 受けてください</p> 	<p>エンジン電子制御システムの異常 電子制御スロットルの異常 → ただちにダイハツサービス工場点検を受けてください。</p>
<p>CVT</p> <p>CVTシステム異常 販売店で点検を 受けてください</p>  <p>(点滅)</p>	<p>CVT 電子制御システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場点検を受けてください。</p>
 <p>SRSエアバッグ故障 販売店で点検を 受けてください</p> 	<p>SRS エアバッグシステムの異常 プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場点検を受けてください。</p>
 <p>ABS故障 販売店で点検を 受けてください</p> 	<p>ABS の異常 → ただちにダイハツサービス工場点検を受けてください。</p>
 <p>パワーステアリング故障 販売店で点検を 受けてください</p>  <p>(赤色)</p>	<p>EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場点検を受けてください。</p>
 <p>パワーステアリング機能低下 ハンドルが重くなります</p>  <p>(黄色)</p>	<p>電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート 警告ブザーが鳴ります。 → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作をひかえてください。約 10 分経過すると通常の重さにもどります。</p>

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 <p>キーフリー故障 販売店で点検を受けてください</p> 	<p>キーフリーシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>オートハイビーム故障 販売店で点検を受けてください</p>  <p>(黄色)</p>	<p>オートハイビームの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>スマートアシストⅢ故障 販売店で点検を受けてください</p>   	<p>スマートアシストⅢの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>コーナーセンサー故障 販売店で点検を受けてください</p> 	<p>コーナーセンサーの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>コーナーセンサー 機能低下</p>	<p>コーナーセンサー機能低下 警告ブザーが鳴ります。 → 雨、雪、氷、汚れなどがバンパーのソナーに付着していないか確認し、取り除いてください。</p>
 <p>VSC故障 販売店で点検を受けてください</p> 	<p>ブレーキアシストの異常 VSC システムの異常 TRC システムの異常 ヒルホールドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	<p>eco IDLE システムの異常 スターターの交換時期 バッテリーの交換時期</p> <p>バッテリーの交換時期の場合は、数秒間表示されます。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>
 	<p>ブレーキオーバライドシステムが作動 → アクセルペダルから足を離してください。</p>
 	<p>車両通信システムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。</p>
	<p>いずれかのドアが確実に閉まっていない 開いているドアが表示されます。 → 全ドアを閉める</p>
 	<p>燃料の残量が 2WD 車は約 4.5L 以下、4WD 車は約 5.5L 以下になった 警告ブザーが鳴ります。 → 燃料を補給する</p>
   	<p>シートベルト締め忘れ 警告ブザーが鳴ります。 運転席、助手席は車速が約 20km/h をこえたときに表示されます。 後席は車速が約 5km/h をこえてシートベルトをはずしたときに表示されます。 → シートベルトを着用する</p>

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 <p>スマートアシスト作動 前方注意！！</p> 	<p>パーキングブレーキが解除されていない パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h をこえたときには警告ブザーが鳴ります。 → パーキングブレーキを解除する</p>
 <p>※1</p> 	<p>衝突警報機能（対車両・対歩行者）が作動 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）が作動 誤発進抑制制御機能（前方）が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする</p>
 <p>※2</p> 	<p>誤発進抑制制御機能（後方）が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする</p>
 <p>スマートアシスト作動 先行車が発進しました</p>	<p>先行車発進お知らせ機能が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、車両を発進させる</p>
 <p>スマートアシスト作動 車線逸脱警報が作動しました</p>	<p>車線逸脱警報機能が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす</p>
 <p>コーナーセンサー作動 周辺注意</p>	<p>コーナーセンサー作動 作動しているソナーの箇所が表示されます。 警告ブザーが鳴ることがあります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする</p>
 <p>VSCが作動しました</p>  <p>(点滅)</p>	<p>VSC が作動 → 特に慎重な運転をする</p>

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 <p>ライトを 消してください</p> 	<p>車幅灯点灯時に、運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。</p> <p>→ 車幅灯を消灯する</p>
 <p>タイヤが左を 向いています</p>  <p>タイヤが右を 向いています</p>	<p>停車時、ハンドルが左、または右に操作されている → タイヤの向きを確認し、安全に車両を発進させる</p>

- ※1 衝突回避支援ブレーキ機能の1次ブレーキ・2次ブレーキ、誤発進抑制制御機能（前方）のエンジン出力抑制制御が作動したとき点灯します。
- ※2 誤発進抑制制御機能（後方）のエンジン出力制御が作動したとき点灯します。

知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示とは異なる場合があります。

■ 警告メッセージの表示について

- エンジンスイッチが“ON”のときにENTERスイッチを押すと、警告メッセージが非表示になります。
- ENTERスイッチを押して警告メッセージを非表示にしても、次の警告メッセージは数秒後に表示されます。
 - ・ ブレーキ液量低下
 - ・ ブレーキシステム故障
 - ・ 充電システム故障
 - ・ エンジン油圧低下
 - ・ エンジン冷却水高温

■ 車線逸脱警報機能について

次のような場合は、車線を逸脱しても、警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 作動条件以外の車速で走行しているとき
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき

また、その他にも、システムが正常に作動しない場合があります（→ P. 209）

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリーシステムの警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—	 キーが見つかりません	電子カードキーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした → 電子カードキーを携帯する ※1
5回	3回	 キーが見つかりません	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた ・警告ブザーが鳴ります。 → 電子カードキーを携帯して乗車する
—	1回	 車内にキーがあります	車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチでドアを施錠しようとした → 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する
—	1回	 車内にキーがあります	車内に電子カードキーを置いたまま、運転席ドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした → 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する
—	—	 ブレーキを踏みながらキーでエンジンスイッチに触れてください	電子カードキーを携帯していない状態で2回エンジンをかけようとした → 電子カードキーを携帯する ※1

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—	 バッテリー保護のため 自動で電源を OFFにしました	自動でエンジンスイッチが“OFF” になった ・エンジンスイッチが“ACC”のと きは1時間以上、“ON”のときは 20分以上経過すると表示されま す。 → 次回エンジン始動時にエンジン回転 数を少し高めにし、約5分間その 回転を保持しバッテリーを充電する
3回	—	 キーの電池残量が 残りわずかです	電子カードキーの電池切れが近いと きにエンジンスイッチを“OFF”に した※2 ・警告ブザーが鳴ります。 → 新しい電池に交換する (→ P. 312)
—	—	 ハンドルを左右に回し ながらエンジンスイッチ を押してください	エンジンスイッチを押してハンドル ロックが解除できなかった → ブレーキペダルを踏んでハンド ルを左右にまわしながらエンジ ンスイッチを押す
—	—	 Pレンジに入れて電源を OFFにしてください	シフトレバーがP以外の状態でエ ンジンスイッチを“OFF”にしよう とした → シフトレバーをPにする
—	1回	 電源をOFFに してください	エンジンスイッチが“ACC”または “ON”のときに、フロントドアまた はバックドアのリクエストスイ ッチでドアを施錠しようとした → エンジンスイッチを“OFF”にして 施錠する

※1 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れて
いる可能性があります。(→ P. 312)

※2 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”に
したときも表示されます。

知識

■ 警告メッセージについて

→ P. 351

■ 警告メッセージの表示について

→ P. 351

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザーが聞こえない場合があります。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE の警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音 (約 5 秒間)	 シートベルトが外れたためエンジンを再始動しました  (高速点滅)	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトをはずした ・ 警告ブザーが鳴ります。 → 運転席シートベルトを着用する
連続音 (約 5 秒間)	 ドアが開いたためエンジンを再始動しました  (高速点滅)	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた ・ 警告ブザーが鳴ります。 → 運転席ドアを閉める

知識

■ 警告メッセージについて

→ P. 351

■ 警告メッセージの表示について

→ P. 351

■ 警告ブザーについて

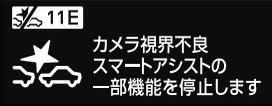
→ P. 354

「スマアシ停止」が表示されたときは

スマートアシストⅢの機能が停止すると、「スマアシ停止」と機能停止コードがディスプレイに表示されます。表示された場合は、次のように対処してください。

また、TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車は、機能停止のメッセージを表示することができます。(→ P. 80)

機能停止コード一覧

機能停止コード	メッセージ※2	警告内容・対処方法
※1  ※2 		ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない → 原因状態が解消されると復帰
※1  ※2 		ステレオカメラ（車両前側）内が高温になった → 原因状態が解消されると復帰 エンジン始動後、2次ブレーキが3回作動した → 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にしたあと、再度エンジンスイッチを“ON”にする
※1  ※2 		スマートアシスト初期学習中 → しばらく走行すると復帰

機能停止コード	メッセージ※2	警告内容・対処方法
※1  ※2 		雨、雪、氷、汚れなどがフロントソナー部※3 またはリヤソナー部※4 に付着している → ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰
※1  ※2 		フロントワイパーを“高速”で作動させている → 原因状態が解消されると復帰

- ※1 マルチインフォメーションディスプレイ装着車
- ※2 TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車
- ※3 シフトレバーがD・S・Bのとき
- ※4 シフトレバーがRのとき

 知識

■ 機能停止コードについて

- 処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。
通常の走行に支障はありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 機能停止コード「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「11E」はシフトレバーがR以外、「15E」「16E」はシフトレバーがPまたはN以外のときに表示します。
- 「15E」が表示されていても、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- シフトレバーがD・S・Bのときは、フロントワイパーを“高速”で作動させていても、「16E」、「スマアシ停止」、警告メッセージが表示されないことがあります。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できない場合があります。(→ P. 359)

タイヤパンク応急修理セットで応急修理したタイヤの修理・交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。タイヤパンク応急修理セットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

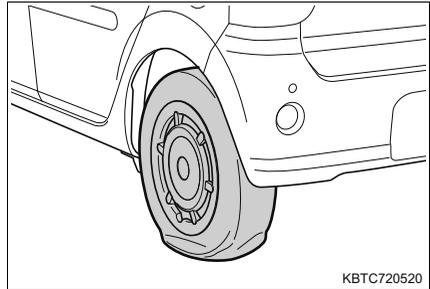
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・パンク修理剤がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

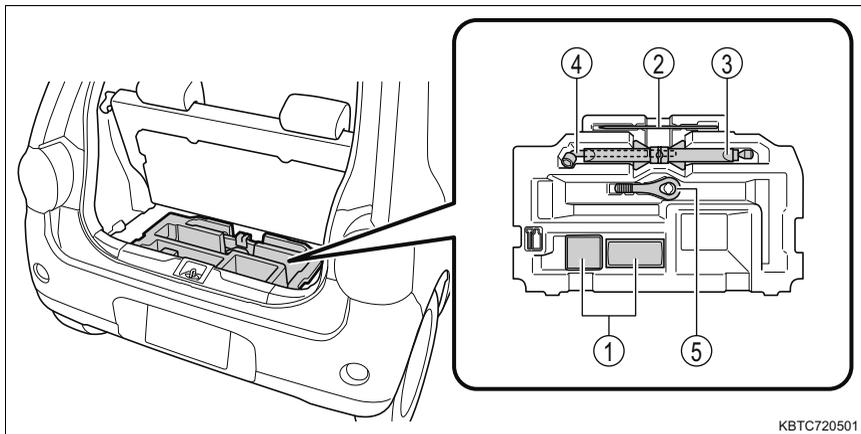
■ タイヤパンク応急修理セットで修理できないパンク

次の場合は、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

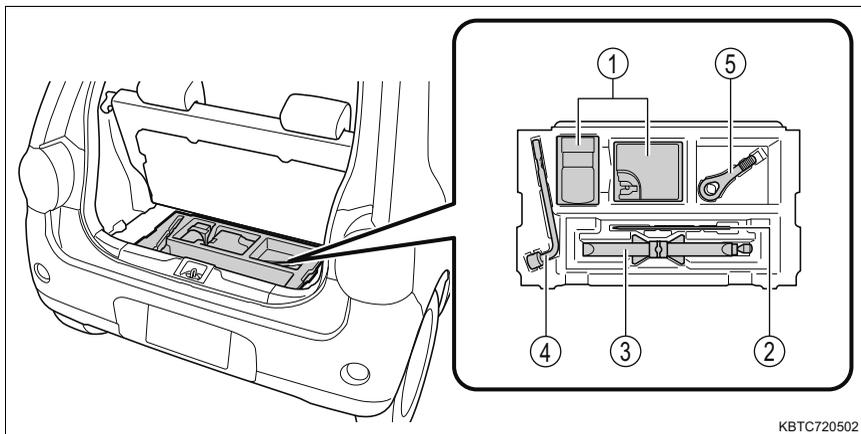
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 修理剤の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理セット・工具の搭載位置

▶ FF 車（前輪駆動）



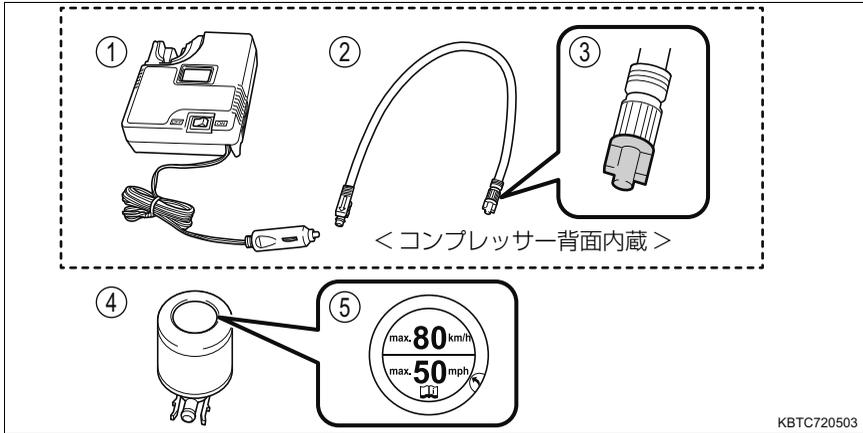
▶ 4WD 車（4 輪駆動）



- | | |
|-----------------|--------------|
| ① タイヤパンク応急修理セット | ④ ホイールナットレンチ |
| ② ジャッキハンドル* | ⑤ けん引フック |
| ③ ジャッキ | |

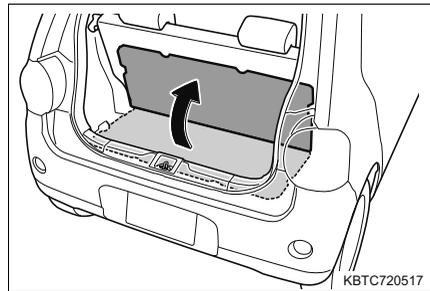
*ジャッキの使い方（→ P. 298）

タイヤパンク応急修理セットの内容／各部の名称



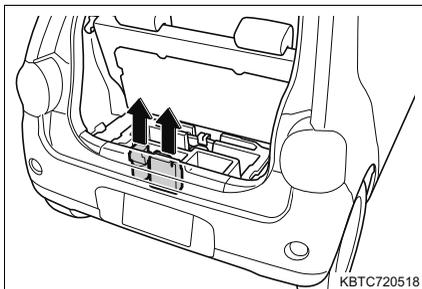
タイヤパンク応急修理セットの取り出し方

- 1 デッキボードを持ち上げる

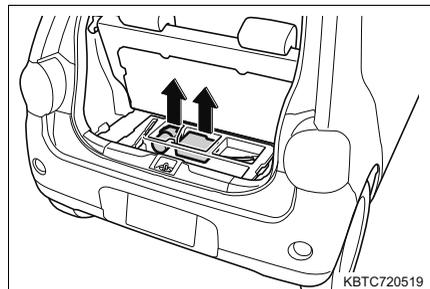


- 2 タイヤパンク応急修理セットを取り出す

▶FF車（前輪駆動）



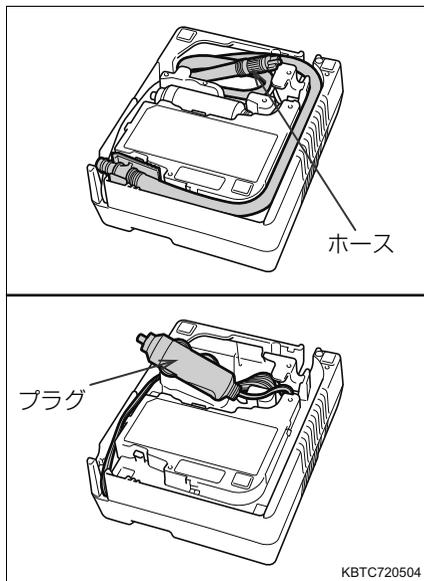
▶4WD車（4輪駆動）



応急修理するとき**1** パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

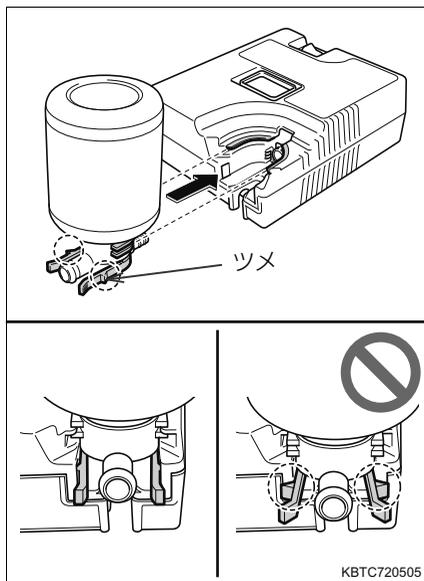
緩衝材（スポンジ）が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。

（交換用修理剤ボトルには、緩衝材が入っていませんので再使用してください）

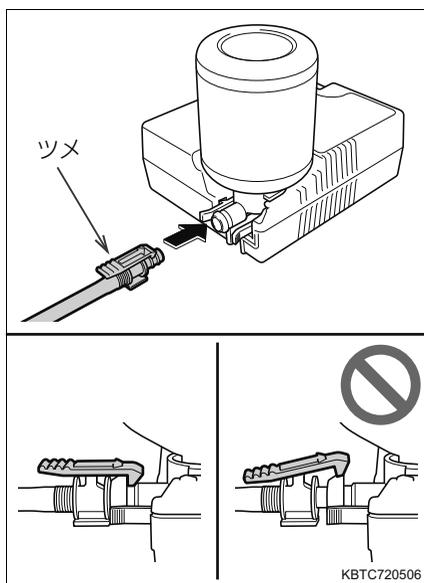
2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す**3** 修理剤ボトルをよく振る

修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

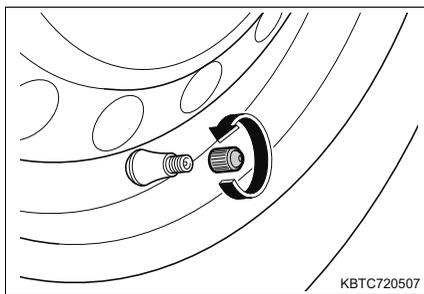
- 4 コンプレッサーに修理剤ボトルを強く押し込み固定する
ボトルのツメが固定されるまで、しっかり押し込んでください。



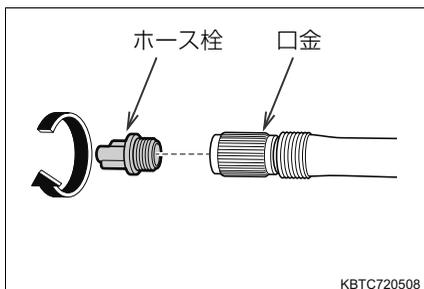
- 5 修理剤ボトルにホースを差し込む
ホースのツメが固定されるまでしっかり差し込んでください。
接続部が確実に固定されていることを確認してください。



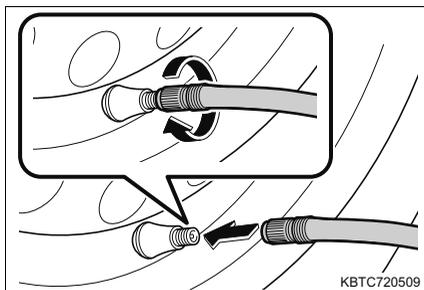
- 6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取りはずす



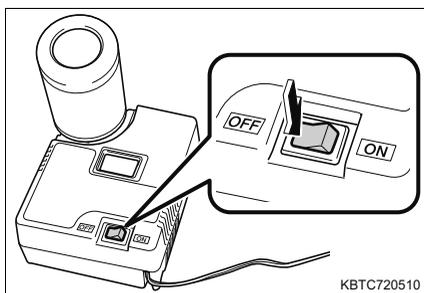
- 7 ホースの口金からホース栓を取りはずす



- 8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する
ホースの口金をまわして最後までしっかりねじ込みます。

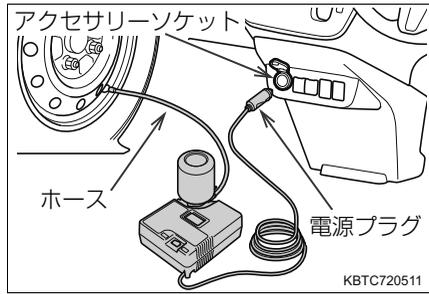


- 9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する



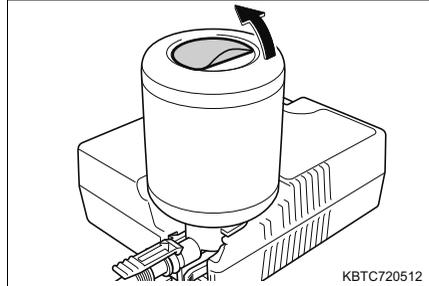
- 10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリースOCKETに差し込む

手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリースOCKETに差し込んでください。



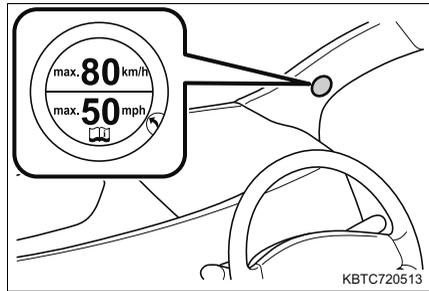
KBTC720511

- 11 修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



KBTC720512

- 12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



KBTC720513

- 13 タイヤの指定空気圧を確認する

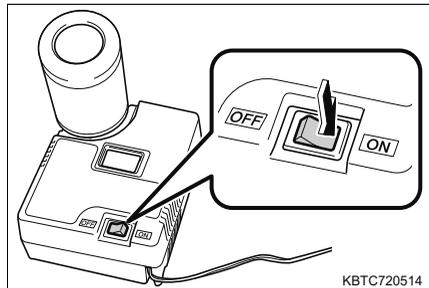
タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

- 14 エンジンを開始する

- 15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、修理剤と空気を充填する

5分以内に昇圧し始めない場合、タイヤをジャッキで浮かせて手で2～3回以上まわし、修理剤をタイヤ全体にいきわたらせてから、再度昇圧操作を行ってください。

(ジャッキの使い方→P. 298)



KBTC720514

- 16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

- ① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくは修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約300～400kPaまで上がります。
- ② 1分程度(低温の場合は5分程度)で実際の空気圧表示になります。
- ③ 指定空気圧になるまで昇圧します。

次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場、またはJAFなどにご連絡ください。

- 修理剤が5分以内に充填できない
- 25分以内に指定空気圧まで上がらない

- 17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする

- 18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取りはずす

ホースの口金を取りはずすときに修理剤がもれることがあります。

- 19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

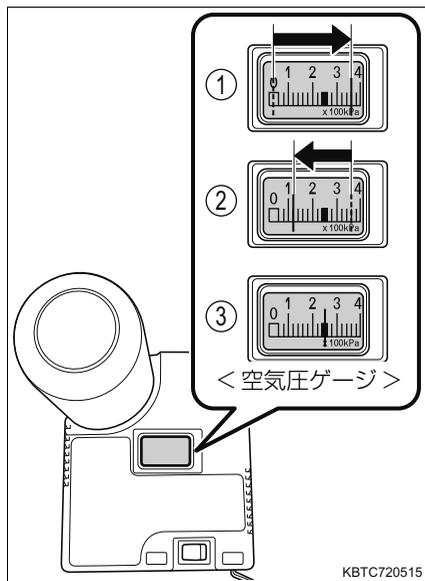
- 20 ホースの口金にホース栓を取り付ける

- 21 いったんボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する

コンプレッサーに取り付けた修理剤ボトル、ホース、ホース栓は取りはずさないでください。取りはずすとボトル内に残った修理剤がこぼれるおそれがあります。

- 22 空気が抜けるのを防ぐため、すみやかに走行を開始する

急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさげ、80km/h以下で慎重に運転してください。



- 23 約 5km 程度走行後、交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にする
- 24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する
- コンプレッサーを車両に接続する
 - エンジンを始動する
 - コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する
- 25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する
- ▶ 空気圧が 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合
手順 6 ~ 23 を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。
- ▶ 空気圧が 130kPa 以下に低下していた場合
タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。
- 26 異常がなければ、すみやかにダイハツサービス工場まで走行する
- 急加速・急ブレーキ・急ハンドルをさけ、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
 - 100km 以上の距離を走行しないでください。

知識

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤパンク応急修理セットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ タイヤパンク応急修理セットの点検について

- パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク修理剤は使用しないでください。タイヤパンク応急修理セットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- タイヤ空気圧充填用コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに挿し込み、エンジンスイッチを“ACC”にして、作動の確認をしてください。

■ タイヤパンク応急修理セットについて

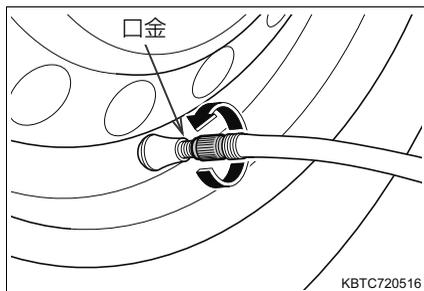
- タイヤパンク応急修理セットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤパンク応急修理セットのパンク修理剤ボトルは、1本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク修理剤ボトルの交換は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 外気温度が -30℃ ~ 60℃ のときに使用できます。

知識

- タイヤパンク応急修理セット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- タイヤ空気圧充填用コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧充填用コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- 新しい修理剤は、ダイハツサービス工場でご購入ください。

■ 空気を入れすぎてしまったとき

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



警告

■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などにタイヤパンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤパンク応急修理セットはお客様のお車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク修理剤について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんのお水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

 **警告****■パンクしたタイヤを応急修理するとき**

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ空気圧充填用コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- タイヤ空気圧充填用コンプレッサーの使用中に、作動が鈍くなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30分以上放置してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メータやウインドウガラスなど、運転のさまたげになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク修理剤を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 **注意****■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- タイヤパンク応急修理セットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- タイヤパンク応急修理セットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- タイヤパンク応急修理セットは砂埃や水をさけて収納してください。
- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 150, 153）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 150, 153）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム★に異常がある可能性があります。
（→ P. 57）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 374）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合（キーフリーシステム装着車）

- 電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。
（→ P. 372）
- ハンドルロックに異常がある可能性があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 374）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

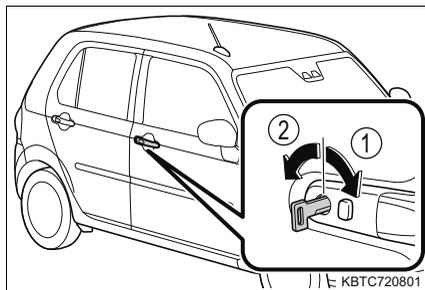
電子カードキーが正常に働かないときは (キーフリーシステム装着車)

電子カードキーと車両間の通信がさまたげられたり(→ P. 106)、電子カードキーの電池が切れたときは、キーフリーシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

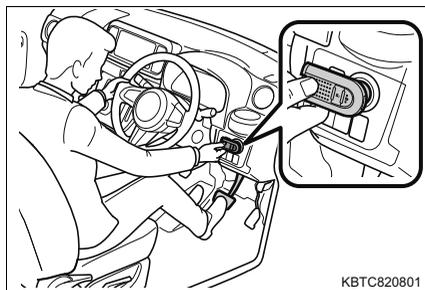
エマージェンシーキー(→ P. 99)を使って次の操作ができます。

- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠



エンジン始動の方法

- ① シフトレバーがPの状態ですブレーキペダルを踏む
- ② 電子カードキーのダイハツエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる
 - エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
 - セキュリティアラームの作動が停止します。(→ P. 58)



- ③ エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

 知識**■ エンジンの停止方法**

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 312)

■ エンジンスイッチモードの切りかえ

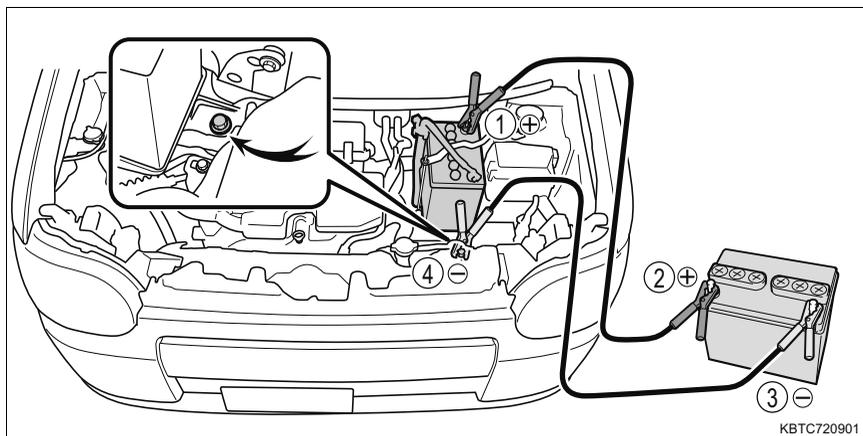
エンジン始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 154)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 バッテリーの + 端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ
 - ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの + 端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの + 端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの - 端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をミッションマウントのボルト（図に示す部分）につなぐ



- 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 3 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてから自車のエンジンをかける
- 4 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにダイハツサービス工場での点検を受けてください。

 知識**■ バッテリーあがりのときの始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはダイハツサービス工場にて点検を受けてください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがりのときや取りはずし時など（キーフリーシステム装着車）

- バッテリーがあがった直後はキーフリーシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはエマージェンシーキーで施錠・解錠を実施してください。
- バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に作動しますので、問題ではありません。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがりのとき、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを“OFF”にしてから行ってください。
バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■ バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーは、eco IDLE 専用品です。

同等の性能のものと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

 **警告****■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

救済車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■ 車の損傷を防ぐために

車両を押ししたり、引いたりして始動させないでください。

触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

 **注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 340）が赤色に点滅または点灯した
- TFT マルチインフォメーションディスプレイ装着車：「エンジン冷却水高温」の警告メッセージ（→ P. 347）が表示された
- エンジンの出力が低下した（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ファン

② ラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。

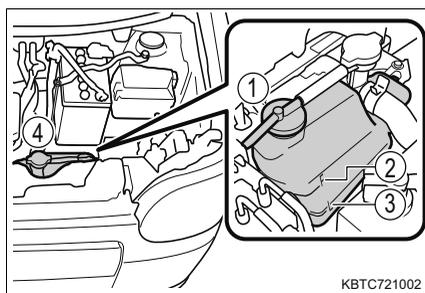
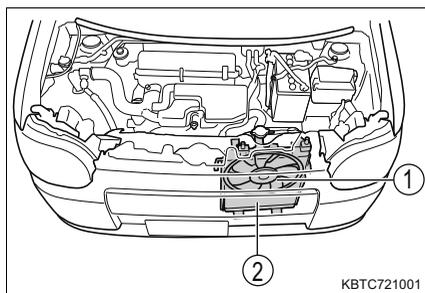
- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

② “F”（上限）

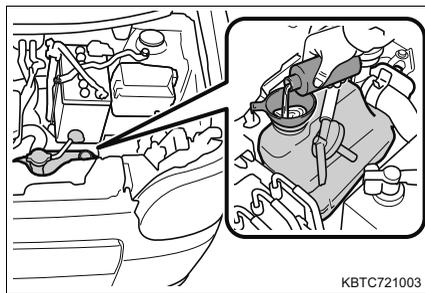
③ “L”（下限）

④ ラジエーターキャップ



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



KBTC721003

- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF を繰り返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止し、ダイハツサービス工場に連絡する

ファンが作動している場合：

最寄りのダイハツサービス工場での点検を受ける

警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合はラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 **注意****■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

- ① パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、エンジンを停止する
- ② タイヤ前後の土や雪を取り除く
- ③ タイヤの下に木や石などをあてがう
- ④ エンジンを再始動する
- ⑤ シフトレバーをDまたはRに確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む
VSC・TRCの作動で脱出しにくいときは、TRCまたはVSC・TRCを停止してください。(→ P. 240, 241)

警告

■ 脱出するとき

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突をさけるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのをさけ、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など) …………… 382

8-2. カスタマイズ機能

カスタマイズ機能一覧 …… 388

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 …… 392

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン	30

エンジンオイル

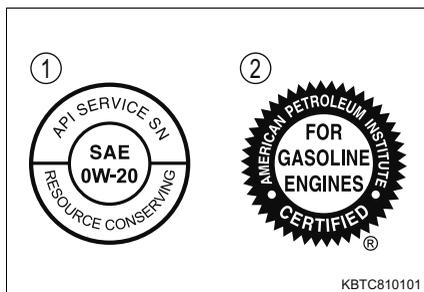
指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※）	
		オイルのみ交換	オイルと オイル フィルター交換
推奨：アミックス EXTRA 0W-20 適合：アミックス EXTRA 5W-30	KF-VE	2.7	2.9

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

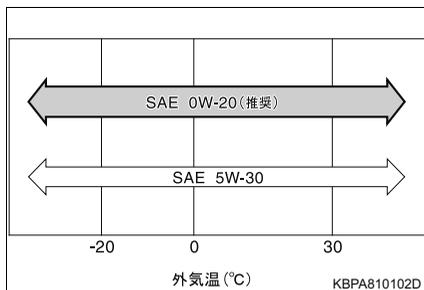
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサクサーティフィケーション) マークがついています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

次の図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について (例として 0W-20 で説明します) :

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い (数値が大きい) オイルは高速または重負荷走行に適していません。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
アミックスロングライフクーラント (高防錆力タイプ) 凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	KF-VE	3.2

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※1)
アミックス CVT フルード -DFE ※2 または DC	5.7

※1 容量は参考値です。交換が必要な際はダイハツサービス工場にご相談ください。

※2 省燃費性に優れるオイルです。

トランスファー (4WD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
アミックスディファレンシャル ハイポイドギヤオイル (API GL-5 SAE 80W-90)	0.57

リヤディファレンシャル (4WD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
アミックス ATF D3-SP	0.73

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
アミックスブレーキフルード (DOT3 相当)

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	0.5 ~ 3
踏み込んだときの床板とのすき間*	73.8 以上

* エンジン回転時に 294 N(30 kgf)の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 踏力 245N (25kgf) のときのノッチ* 数	5 ~ 7

* ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度 (“カチッ” という音) のことです。

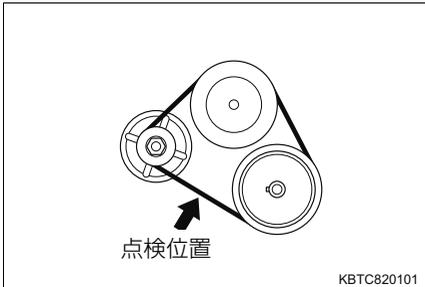
バッテリー

型式
M-42

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)
1.5

Vリブドベルト

項目	エンジン	基準値 [mm]
たわみ量  押力 98N (10kgf) (冷間時)	KF-VE	7.9 ~ 9.7

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
155/65R14 75S	14×4.5J	260 (2.6)	260 (2.6)

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	フロント方向指示／非常点滅灯	21
	サイド方向指示／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	フロントパーソナルランプ (LED タイプを除く)	5
	ルームランプ	8

* 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
LA550S	KF-VE (ガソリン)	FF (前輪駆動)
LA560S	KF-VE (ガソリン)	4WD (4輪駆動)

カスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてダイハツサービス工場で作動内容を変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはダイハツサービス工場へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

■ キーフリーシステム★、ワイヤレスドアロック共通 (→ P. 101, 111)

機能の内容	初期設定	変更後
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
作動の合図 (音量)	標準	大きい
		小さい
		鳴らない

■ キーフリーシステム★ (→ P. 101)

機能の内容	初期設定	変更後
キーフリーシステムの作動	あり	なし

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアロック (→ P. 116)

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応オートドアロック	あり	なし
シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	なし	あり
シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	あり	なし
エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にしたときの全ドア解錠 (エンジンスイッチ“OFF”連動オートドアアンロック)	なし	あり

■ バックドア (→ P. 119)

機能の内容	初期設定	変更後
バックドアの右側スイッチ★操作による作動	施錠のみ	施錠・解錠

■ スマートアシストⅢ (先行車発進お知らせ機能) (→ P. 211)

機能の内容	初期設定	変更後
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング	遅い	標準
		早い

■ オートエアコン★ (→ P. 255)

機能の内容	初期設定	変更後
AUTOスイッチがONのとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ (→ P. 163)

機能の内容	初期設定	変更後
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチと連動	運転席ドアと連動

■ イルミネーション (→ P. 264)

機能の内容	初期設定	変更後
ドア開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間	15 秒	7.5 秒
エンジンスイッチ "OFF" 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし

■ ドアミラー (キーフリーシステム装着車) (→ P. 134)

機能の内容	初期設定	変更後
ドアミラースイッチの操作による格納・復帰	エンジンスイッチが "ACC" または "ON" で格納・復帰	エンジンスイッチが "ON" で格納・復帰
エンジンスイッチの操作と連動して復帰	エンジンスイッチが "ACC" または "ON" で復帰	エンジンスイッチが "ON" で復帰

■ フロントワイパー (車速感応式間欠ワイパー装着車) (→ P. 171)

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応間欠作動機能	する	しない

■ リヤワイパー&ウォッシャー★ (→ P. 173)

機能の内容	初期設定	変更後
リバース連動機能	する	しない
間欠作動時間の調整	標準	早い
		遅い
間欠作動開始時に 4 秒間の低速作動	する	しない
リヤウォッシャー連動機能	しない	する

■ 方向指示レバー (→ P. 161)

機能の内容	初期設定	変更後
レバーを途中まで動かしたときの 3 回点滅する機能	する	しない
逆方向にレバーを操作して点滅を中止させるときの、逆方向の 3 回点滅が始まるまでのレバー保持時間	レベル 2	レベル 1 ~ 4
右左折後に消灯させるハンドルの角度調整	レベル 3	レベル 1 ~ 9

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パワーウィンドウ	正常に働かないとき	P. 138

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	394
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	398
アルファベット順さくいん	399
五十音順さくいん	400

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、ダイハツサービス工場にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーまたはエマージェンシーキーをなくした場合、ダイハツサービス工場
でダイハツ純正の新しいキーまたはエマージェンシーキーを作ることができます。（→ P. 99）
- キーまたは電子カードキーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにダイハツサービス工場にご相談ください。（→ P. 100）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 310）
- キーフリーシステム装着車
エンジンスイッチが“ON”になっていませんか？
施錠するときはエンジンスイッチを“OFF”にしてください。（→ P. 154）
- キーフリーシステム装着車
電子カードキーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは電子カードキーを携帯していることを確認してください。
- キーフリーシステム装着車
電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 106）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
（→ P. 115）

故障かな？と思ったら**エンジンがかからない
（キーフリーシステム非装着車）**

- シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 150）
- ハンドルロックされていませんか？（→ P. 151）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 374）

**エンジンがかからない
（キーフリーシステム装着車）**

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 153）
- シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 153）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 103）
- ハンドルロックされていませんか？（→ P. 156）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 372）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 374）



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチが“ON”になっていますか？
エンジンスイッチが“ON”でブレーキを踏んでも解除できないときは（→ P. 159）を参照してください。



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- キーフリーシステム非装着車
盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます。（→ P. 150）
- キーフリーシステム装着車
盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 155）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 137）



エンジンスイッチが自動的に OFF になった （キーフリーシステム装着車）

- 一定時間“ACC”または“ON”（エンジンがかかっている状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 155）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 398）をご確認ください。

**警告灯や警告メッセージ★が表示されたとき**

- 警告灯や警告メッセージ★が表示されたときは、（→ P. 340, 346）をご確認ください。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- 車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理セットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 358）

**立ち往生した**

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 380）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	セキュリティアラームが作動した	P. 58
	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに電子カードキー★を車内から持ち出している	P. 352
	エンジンスイッチにキーが挿してある★	P. 151
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 165
エンジンを停止したとき	電子カードキー★の電池残量が少なくなっている	P. 353

走行しているとき

状況	原因	詳細
停車しているとき	先行車が発進しても、停車し続けた	P. 211
走り出したとき	パーキングブレーキが解除されていない	P. 343 P. 350
	運転席・助手席・後席のシートベルトを着用していない※	P. 342 P. 343 P. 349
	ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれた	P. 199
走行しているとき	前方障害物に対して衝突の危険性がある	P. 189
	走行車線から逸脱する可能性がある	P. 208
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 145

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン)..... P. 250, 255

ABS

(アンチロックブレーキシステム)..... P. 239

ACC

(アクセサリ)..... P. 150, 154

EDR

(イベントデータレコーダー)..... P. 8

EPS

(電気式パワーステアリング)..... P. 239

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション)..... P. 383

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィックス)..... P. 38

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム)..... P. 28

TRC

..... P. 239

USB

(ユニバーサルシリアルバス)..... P. 274

VSC

..... P. 239

五十音順さくいん

あ

アイドリングストップ	213
アイドリングストップ	
時間	73, 80, 81
eco IDLE	
(エコアイドル)	213
eco IDLE OFF スイッチ	214
eco IDLE OFF 表示灯	214
eco IDLE 表示灯	213
アウターハンドル	
(ドアハンドル)	114
アウターミラー	133
オート作動	134
調整	133
アクセサリソケット	273
アシストグリップ	276
アンチロックブレーキシステム	
(ABS)	239
アンテナ	278

い

イグニッション	
スイッチ	150, 153
位置交換	
(タイヤローテーション)	291
一体可倒シート	125
イベントデータレコーダー	
(EDR)	8
イモビライザー機能	57
イルミネーテッドエントリー	
システム (ドア運動)	265
カスタマイズ機能	388
作動について	265
点灯する部位	264
インジケーター	65
インナーミラー	
(ルームミラー)	132

う

ウインカー (方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換	316
方向指示レバー	161
ワット数	386
ウインドウ	136
ウォッシュャー	171, 173
パワーウインドウ	136
リヤウインドウ	
デフォッガー	251, 257
ウインドウロックスイッチ	
(パワーウインドウ	
OFF スイッチ)	137
ウォッシュャー	171, 173
液の補給	290
スイッチ	171, 173
タンク容量	385
冬の前の準備・点検	245
ウォーニングランプ	
(警告灯)	340
動けなくなったときは	
(スタックした)	380
運転	140
環境に配慮した運転	142
寒冷時の運転	245
正しい運転姿勢	22
手順	140
運転席シートベルト	
締め忘れ警告灯	342
運転席・助手席シートベルト	
締め忘れ警告灯	342

え

エアコン	
オートエアコン	255
フィルターの交換	304
マニュアルエアコン	250
エアバッグ	28
SRS エアバッグ警告灯	341
作動条件	32
配置	28
エコリーフゲージ	142
エマージェンシーキー	
(メカニカルキー)	99
エマージェンシーストップシグナル	
(緊急ブレーキシグナル)	240
エンジン	
イグニッション	
スイッチ	150, 153
エンジンがかからない	371
エンジン警告灯	340
エンジンスイッチ	150, 153
オーバーヒート	377
かけ方	150, 153
ボンネット	285
エンジンイモビライザー	
システム表示灯	
(セキュリティ表示灯)	57
エンジンオイル	382
定期点検	289
冬の前の準備・点検	245
メンテナンスデータ	382
油圧警告表示	340
エンジンスイッチ	
操作方法	150, 153
エンディング画面	84

お

オイル	
油脂類の容量と銘柄	382
応急修理セット	358
お子さまを乗せるとき	37
ウインドウロックスイッチ	
(パワーウインドウ	
OFFスイッチ)	137
エアバッグに関する警告	29
お子さまの	
シートベルト着用	25
お子さまを乗せるときの	
警告	26
キーの電池に関する警告	313
シートベルトに関する警告	26
チャイルドシート	38
チャイルドシートの	
取り付け	50
チャイルドプロテクター	115
発炎筒の取り扱いに関する	
警告	329
バックドアに関する警告	121
バッテリーに関する警告	376
パワーウインドウに関する	
警告	138
オドメーター	72, 78
機能	72, 78
表示切りかえスイッチ	71, 78
オートエアコン	255
オートドアロック	
アンロック機能	116
オートハイビーム	167
オートライト	
(自動点灯・消灯機能)	163
オーバーヒート	377

オープナー

給油口	176
バックドア	119
ボンネット	285
オープニング画面	82
オープントレイ	269

か

外気温度表示	73, 81
外装の電球 (バルブ)	316
交換要領	316
ワット数	386
格納式アシストグリップ	276
カスタマイズ機能	388
ガソリンスタンドでの情報	416
型式	387
カップホルダー	267
ガラスの曇り取り (リヤウインドウ デフォッガー)	251, 257
ガレージジャッキ	288
冠水路走行	148
寒冷時の運転	245
カーテンシールドエアバッグ	28
カーペット	282
洗浄	282
フロアマットの取り付け方	20

き

給油	175
給油のしかた	176
メンテナンスデータ	382
緊急時のシートベルト固定機構	25
緊急時の対処	
イベントデータレコーダー (EDR)	8
エンジンがかからない	371
オーバーヒートした	377
キーの電池が切れた	310, 372
キーを失くした	99, 100
警告灯がついた	340
警告メッセージが 表示された	346
けん引	333
故障したときは	326
車両を緊急停止する	330
水没・冠水したときは	332
スタックした	380
電子カードキーが 正常に働かない	372
発炎筒	328
バッテリーがあがった	374
パンクした	358
非常点滅灯 (ハザードランプ)	327
緊急ブレーキシグナル (エマージェンシー ストップシグナル)	240

キー	98
イグニッション	
スイッチ	150, 153
エンジンが始動できない	371
エンジンスイッチ	150, 153
キーナンバープレート	98
キーの構成	98
キーの電池が切れた	310, 312
キーレスエントリー	111
キーを失くした	99, 100
正常に働かない	372
施錠・解錠ができない	372
電子カードキー	98
電子カードキーの作動範囲	103
電池交換	310, 312
メカニカルキー	
(エマージェンシー	
キー)	99, 372
ワイヤレスリモコン	111
キーフリーシステム	101
エンジンスイッチ	
(ブッシュボタン	
スタートスイッチ)	153
エンジンの始動	153
カスタマイズ機能	388
警告ブザー	104, 352
作動範囲	103
正常に働かない	372
電波がおよぼす	
影響について	110
ドアの施錠・解錠	101
発信機の位置	103
キーレスエントリー	
(ワイヤレス機能)	101, 111
キーフリーシステム	101
ワイヤレスドアロック	111



空気圧 (タイヤ)	386
空調 (エアコン)	
オートエアコン	255
フィルターの交換	304
マニュアルエアコン	250
区間距離計	
(トリップメーター)	72, 78
機能	72, 78
表示切りかえスイッチ	71, 78
曇り取り	
フロントウインドウ	
ガラス	251, 257
リヤウインドウ	
デフォッガー	251, 257
クラクション (ホーン)	130
クリアランスランプ	
(車幅灯)	163
ランプスイッチ	
(ライトスイッチ)	163
電球 (バルブ) の交換	316
クリップ	
フロアマット	20
クリーンエアフィルター	304
グローブボックス	267

け

警音器（ホーン）	130
計器類（メーター）	68
TFT マルチインフォメーション	
ディスプレイ	77
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	71
警告灯	340
アンチロックブレーキ	
システム（ABS）	341
運転席シートベルト	
締め忘れ	342
eco IDLE OFF 表示灯	342
SRS エアバッグ	341
エンジン	340
オートハイビーム	341
高水温	340
後席シートベルト締め忘れ	343
コーナーセンサー表示灯	341
車線逸脱警報 OFF 表示灯	341
充電	340
助手席シートベルト	
締め忘れ	342, 343
CVT	340
スマートアシスト	
OFF 表示灯	341
スリップ表示灯	342
燃料残量	342
パワーステアリング	341
半ドア	342
パーキングブレーキ未解除	343
プリテンショナー	341
ブレーキ	340
ブレーキオーバーライド	
システム	342
マスターウォーニング	341
油圧	340

警告ブザー

運転席シートベルト	
締め忘れ	342, 349
eco IDLE	219, 345, 354
キーフリーシステム	104, 352
後席シートベルト	
締め忘れ	343, 349
誤発進抑制制御機能（前方・後方）	183, 184, 350
コーナーセンサー	224, 350
車線逸脱警報機能	184, 350
衝突回避支援	
ブレーキ機能	183, 350
衝突警報機能	183, 350
助手席シートベルト	
締め忘れ	342, 343, 349
先行車発進	
お知らせ機能	184, 350
パワーステアリング	341, 347
パーキングブレーキ	
未解除走行時	343, 350
ブレーキ	340, 346
ランプ消し忘れ	165, 351
リバース	159
警告メッセージ	346
化粧ミラー	
（バニティミラー）	272
けん引	
けん引されるとき	333
フック	335

こ

交換	
エアコンフィルター……………	304
キーの電池……………	310
タイヤ……………	295
電球 (バルブ) ……………	316
ヒューズ……………	314
ワイパーゴム……………	306
工具 (ツール) ……………	295, 360
光軸調整ダイヤル ……………	164
後席シートベルト	
締め忘れ警告灯 ……………	343
航続可能距離 ……………	72, 80
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換……………	316
ワット数……………	386
誤発進抑制制御機能	
(前方・後方) ……………	199
小物入れ ……………	269
今回燃費 ……………	80
コンライト	
(自動点灯・消灯装置) ……………	163
コーナーセンサー ……………	223

さ

サイドエアバッグ ……………	28
サイド方向指示灯 (側面方向指示灯)	
電球 (バルブ) の交換……………	316
方向指示レバー……………	161
ワット数……………	386
サイドミラー (ドアミラー) ……	133
操作……………	133
三角表示板収納スペース ……………	271
サンバイザー ……………	272

し

室内灯 (インテリアランプ) ……	264
フロント	
パーソナルランプ ……………	264
ルームランプ ……………	265
ワット数 ……………	386
始動のしかた……………	150, 153
シフトポジション……………	158
シフトレバー	
シフトレバーが	
シフトできない ……………	159
CVT ……………	158
リバース警告ブザー ……………	159
シフトロックシステム……………	159
車線逸脱警報 OFF 表示灯 ……	182
車線逸脱警報機能……………	208
車線逸脱警報作動灯……………	184
車速	
スピードメーター ……………	68, 69
ジャッキ	
ガレージジャッキ ……………	288
車載ジャッキ ……………	295, 360
タイヤ交換 ……………	295
ジャッキハンドル……………	295, 360
車幅灯……………	163
ランプスイッチ	
(ライトスイッチ) ……………	163
電球 (バルブ) の交換 ……	316
車両カスタマイズ機能……………	388
車両型式……………	387
車両仕様 (スペック) ……………	387
車両データの記録……………	7
車両を緊急停止するには……………	330
収納装備……………	266
手動光軸調整ダイヤル……………	164
ジュニアシート……………	38
仕様 (車両仕様) ……………	387

衝突回避支援ブレーキ機能 (対車両・対歩行者) ……………	189
衝突警報機能 (対車両・対歩行者) ……………	189
初期設定 ……………	392
TFT マルチインフォメーション ディスプレイ ……………	89
パワーウィンドウ ……………	138
助手席シートベルト	
締め忘れ警告灯 ……………	342, 343
ショッピングフック ……………	275
シート	
シートに関する警告 ……………	126
シートの調整に関する警告 ……	124
シートヒーター ……………	261
正しい運転姿勢 ……………	22
チャイルドシート ……………	38
チャイルドシートの固定 ………	50
調整 ……………	124
手入れ ……………	283
フロントシート ……………	124
ヘッドレスト ……………	127
リヤシート ……………	125
シートヒーター ……………	261
シートベルト ……………	24
お子さまの着用 ……………	26
緊急時の シートベルト固定機構 ………	25
シートベルト 締め忘れ警告灯 ……………	342, 343
正しく着用するには ……………	24
チャイルドシートの固定 ………	50
着け方・はずし方 ……………	24
手入れ ……………	282
妊娠中の方の着用 ……………	26
シートベルト	
締め忘れ警告灯 ……………	342, 343

シートベルトプリテンショナー ……	25
機能 ……………	25
プリテンショナー警告灯 ……	341
CVT	
シフトレバーが シフトできない ……………	159
CVT ……………	158

す

スイッチ	
アイドリングストップ システム (eco IDLE) ……	214
イグニッション ……………	150, 153
ウインドウロック ……………	137
ウォッシャー ……………	171, 173
エンジンスイッチ ……………	150, 153
オーディオ操作スイッチ ……	262
シートヒーター ……………	261
スマートアシスト OFF スイッチ ……………	182
ドアミラー ……………	133
パワーウィンドウ ……………	136
非常点滅灯 (ハザードランプ) ……………	327
VSC・TRC OFF ……………	240
フロント パーソナルランプ ……………	264
メーター操作スイッチ ……	71, 78
ランプスイッチ (ライトスイッチ) ……………	163
リヤウインドウ デフォッガー ……………	251, 257
ワイパー ……………	171, 173
スタック ……………	380
スターター エンジンの始動 ……………	150, 153
スターターがまわらない ……	371
ステアリングスイッチ ………	262

ステアリングホイール

(ハンドル)	130
位置調整	130
パワーステアリング警告灯	341
ステレオカメラ	181
ストップランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) の交換	316
スノータイヤ (冬用タイヤ)	245
スピードメーター	68, 69
スペック (車両仕様)	387
スマートアシスト作動灯	183
スマートアシスト	
OFFスイッチ	182
スマートアシスト	
OFF表示灯	182
スマートアシスト	
機能停止コード	355
スマートアシスト	
故障警告灯	341, 348
スマートアシスト停止警告灯	355
スマートアシストⅢ	178
スモールランプ (車幅灯)	163
電球 (バルブ) の交換	316
ランプスイッチ	
(ライトスイッチ)	163
ワット数	386

せ

清掃

外装	278
シートベルト	282
内装	282
制動灯	
電球 (バルブ) の交換	316
積算距離計	
(オドメーター)	72, 78
機能	72, 78
表示切りかえスイッチ	71, 78
セキュリティアラーム	58
セキュリティ表示灯	57
節約燃料	80, 81
先行車発進お知らせ機能	211
洗車	278
前照灯 (ヘッドランプ)	163
手動光軸調整ダイヤル	164
電球 (バルブ) の交換	316
ライトセンサー	165
ランプ消し忘れ	
警告ブザー	165
ランプ消し忘れ防止機能	165
ランプスイッチ	
(ライトスイッチ)	163
センターコンソールトレイ	269

そ

速度計	
（スピードメーター）	……… 68, 69
側面方向指示灯	
（サイド方向指示灯）	……… 161
ソナー	……… 181, 223

た

タイヤ	……… 291
空気圧	……… 386
交換	……… 295
締め付けトルク	……… 300
点検	……… 291
パンク応急修理セット	……… 358
パンクしたときは	……… 358
冬用タイヤ	……… 245
ホイールサイズ	……… 386
ローテーション	
（位置交換）	……… 291
タイヤが空まわりする	
（スタックした）	……… 380
タイヤチェーン	……… 245
ターンシグナルランプ	
（方向指示灯）	……… 161
電球（バルブ）の交換	……… 316
方向指示レバー	……… 161
ワット数	……… 386

ち

チェンジレバー（シフトレバー）	
シフトレバーが	
シフトできない	……… 159
CVT	……… 158
リバース警告ブザー	……… 159
チェーン（タイヤチェーン）	… 245
チャイルドシート	……… 38
ISOFIX バーでの取り付け	… 53
シートベルトでの固定	……… 51
選択方法	……… 38
取り付け方	……… 50
チャイルドプロテクター	……… 115
駐車ブレーキ	
（パーキングブレーキ）	……… 162
操作	……… 162
未解除走行時警告ブザー	… 343,
350	
メンテナンスデータ	……… 385
チルトステアリング	……… 130

つ

ツール（工具）	……… 295, 360
---------	--------------

て

手入れ	
外装	278
シートベルト	282
内装	282
TFT マルチインフォメーション	
ディスプレイ	77
デザインフィルムトップ	279
デッキアンダートレイ	271
デッキボード	270
デフォッガー	
フロントガラス	251, 257
リヤウインドウ	
デフォッガー	251, 257
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	316
ワット数	386
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	382
電子カードキー	98
キーの電池が切れた	372
作動範囲	103
正常にはたらかないとき	372
電池交換	312
電池交換 (キー)	310
テールランプ (尾灯)	163
電球 (バルブ) の交換	316
ランプスイッチ	
(ライトスイッチ)	163

と

ドア	114
オートドアロック	
アンロック機能	116
キーフリーシステム	101
チャイルドプロテクター	115
ドアガラス	136
ドアポケット	269
半ドア警告灯	342, 349
ロックレバー	
(パワードアロック)	114
ワイヤレスリモコン	111
ドアガラス	136
ドアハンドル	
(アウターハンドル)	114
ドアポケット	269
ドアミラー	133
オート作動	134
操作	133
ドア連動 (イルミネーテッド	
エントリーシステム)	265
盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	57
セキュリティアラーム	58
時計	85
時計の調整	85
トップテザーアンカー	55
ドライブインフォメーション	79
トランスミッション	158
操作	158
メンテナンスデータ	384
トリップ	
インフォメーション	72, 78
トリップメーター	72, 78
機能	72, 78
表示切りかえスイッチ	71, 78

な

内装	
収納装備	266
手入れ	282

に

荷物	
積むときの注意	149
ラゲージルーム	270

ぬ

ぬかるみにはまった (スタックした)	380
-----------------------	-----

ね

燃料	
ガソリンスタンドでの情報	416
給油	175
種類	382
燃料計	68, 69
燃料残量警告灯	342, 349
容量	382

は

排気ガス	36
ハイビーム (ヘッドランプ)	163
電球 (バルブ) の交換	316
ランプスイッチ (ライトスイッチ)	163
ワット数	386
挟み込み防止装置	
パワーウインドウ	137
ハザードランプ (非常点滅灯)	327
スイッチ	327
電球 (バルブ) の交換	316
ワット数	386
発炎筒	328
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	316
ワット数	386
バックカメラ	229
バックドア	119
バッテリー	
バッテリーあがりを 防止するために	376
バッテリーがあがった	374
冬の前の準備・点検	245
発電状態表示	79
バニティミラー (化粧ミラー)	272
パノラマモニター	232
バルブ (電球)	
交換要領 (外装のバルブ)	316
ワット数	386

パワーウィンドウ	136
ウィンドウロックスイッチ (パワーウィンドウ OFFスイッチ)	137
閉めることが できないときは	137
操作	136
挟み込み防止機能	137
パワーステアリング	239
パワーステアリング警告灯	341
パワードアロック (ロックレバー)	114
パンクした	358
番号灯 (ライセンス プレートランプ)	163
電球 (バルブ) の交換	316
ランプスイッチ (ライトスイッチ)	163
ワット数	386
ハンドル (ステアリングホイール)	130
位置調整	130
パワーステアリング 警告灯	341
ハンドルロック	151, 155
パーキングブレーキ	162
操作	162
パーキングブレーキ 未解除警告灯	343
未解除走行時 警告ブザー	343, 350
メンテナンスデータ	385

ひ

非常点滅灯 (ハザードランプ)	327
スイッチ	327
電球 (バルブ) の交換	316
ワット数	386
尾灯 (テールランプ)	163
電球 (バルブ) の交換	316
ランプスイッチ (ライトスイッチ)	163
ヒューズ	314
表示灯	65
日よけ (サンバイザー)	272
ヒルホールドシステム	239
ヒーター オートエアコン	255
シートヒーター	261
マニュアルエアコン	250

ふ

ファンベルトの点検基準値 …… 386
 Vリブベルトの点検基準値 …… 386
 ブザー
 運転席シートベルト
 締め忘れ …… 342, 349
 eco IDLE …… 219, 345, 354
 キーフリーシステム …… 104, 352
 後席シートベルト
 締め忘れ …… 343, 349
 誤発進抑制制御機能（前方・後方）
 …… 183, 184, 350
 コーナーセンサー …… 224, 350
 車線逸脱警報機能 …… 184, 350
 衝突回避支援ブレーキ
 機能 …… 183, 350
 衝突警報機能 …… 183, 350
 助手席シートベルト
 締め忘れ …… 342, 343, 349
 先行車発進
 お知らせ機能 …… 183, 350
 パワーステアリング …… 341, 347
 パーキングブレーキ
 未解除走行時 …… 343, 350
 ブレーキ …… 340, 346
 ランプ消し忘れ …… 165, 351
 リバース …… 159
 フック
 けん引フック …… 335
 ショッピングフック …… 275
 フロアマット固定フック …… 20
 プッシュボタン
 スタートスイッチ …… 153
 冬の前の準備
 （寒冷時の運転） …… 245
 冬用タイヤ …… 245

フューエルメーター
 （燃料計） …… 68, 69
 フューエルリッド（給油口）
 給油のしかた …… 175
 ブレーキ
 パーキングブレーキ …… 162
 ブレーキ警告灯 …… 340
 メンテナンスデータ …… 385
 ブレーキアシスト …… 239
 機能 …… 239
 スリップ表示灯 …… 342
 ブレーキ付近から
 キーキー音が聞こえる …… 145
 ブレーキフルード …… 385
 フロアマット …… 20
 フロントシート …… 124
 シートヒーター …… 261
 正しい運転姿勢 …… 22
 調整 …… 124
 手入れ …… 283
 フロントシート
 調整に関する警告 …… 124
 ヘッドレスト …… 127
 フロントターン
 シグナルランプ …… 161
 電球（バルブ）の交換 …… 316
 方向指示レバー …… 161
 ワット数 …… 386
 フロントパーソナルランプ
 スイッチ …… 264
 ワット数 …… 386
 フロント方向指示灯 …… 161
 電球（バルブ）の交換 …… 316
 方向指示レバー …… 161
 ワット数 …… 386
 ブースターケーブルの
 つながり方 …… 374

へ

平均燃費	72, 79
ヘッドランプ	163
手動光軸調整ダイヤル	164
電球（バルブ）の交換	316
ライトセンサー	165
ランプ消し忘れ警告ブザー	165
ランプ消し忘れ防止機能	165
ランプスイッチ	
（ライトスイッチ）	163
ワット数	386
ヘッドレスト	127
ベビーシート	38

ほ

ホイール	
交換	295
メンテナンスデータ	386
ホイールナットレンチ	295, 360
方向指示灯	161
電球（バルブ）の交換	316
方向指示レバー	161
ワット数	386
補給口（燃料）	175
保証	9
ボトルホルダー	267
ボンネット	
開けかた	285
ホーン（警音器）	130

ま

マスターウォーニング	341
マニュアルエアコン	250
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	71

み

ミラー	
インナーミラー	132
ドアミラー	133
バニティミラー	272

め

メカニカルキー	
（エマージェンシーキー）	99
メンテナンスデータ	382
メーター（計器類）	68
警告灯	340
TFT マルチインフォメーション	
ディスプレイ	77
表示切りかえスイッチ	71, 78
表示灯	65
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	71

ゆ

雪道ですべて動けない	
（スタックした）	380
油脂類	382
USB 電源ソケット	274
ユーザーカスタマイズ機能	388

ら

ライセンスプレートランプ	
(番号灯)	163
電球 (バルブ) の交換	316
ランプスイッチ	
(ライトスイッチ)	163
ワット数	386
ライトセンサー	165
ラゲージルーム	
デッキアンダートレイ	271
デッキボード	270
ラジエーター (冷却装置)	
オーバーヒート	377
メンテナンスデータ	384
ランプ	
室内灯	264
前照灯 (ヘッドランプ)	163
電球 (バルブ) の交換	316
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	327
フロントパーソナルランプ	264
方向指示灯 (ターンシグナル	
ランプ/ウインカー)	161
ライトセンサー	165
ランプ消し忘れ防止機能	165
ルームランプ	265
ワット数	386
ランプ消し忘れ防止機能	165
ランプスイッチ	
(ライトスイッチ)	163

り

リヤウインドウデフォグガー	
スイッチ	251, 257
リヤシート	125
前倒し	125
リヤ方向指示灯	161
電球 (バルブ) の交換	316
方向指示レバー	161
ワット数	386
リヤワイパー	173

る

ルームミラー	
(インナーミラー)	132
ルームランプ	265
スイッチ	265
ワット数	386

れ

冷却水	384
冬の前の準備・点検	245
メンテナンスデータ	384
冷却装置 (ラジエーター)	
オーバーヒート	377
メンテナンスデータ	384
レバー	
シフト	158
方向指示	161
ボンネット解除	285
ロック (ドア)	114

ろ

ロック

ウインドウロック……………	137
キーフリーシステム……………	101
シフトロックシステム……………	159
チャイルドプロテクター……………	115
ドア……………	114
ワイヤレスリモコン……………	111

わ

ワイパーブレード

(寒冷地用)……………	246
-------------	-----

ワイパー&

ウォッシャー……………	171, 173
-------------	----------

ワイヤレスリモコン…………… 111

作動の合図……………	112
------------	-----

操作……………	111
---------	-----

電池交換……………	310
-----------	-----

ワックス…………… 278

ワット数…………… 386

ガソリンスタンドでの情報

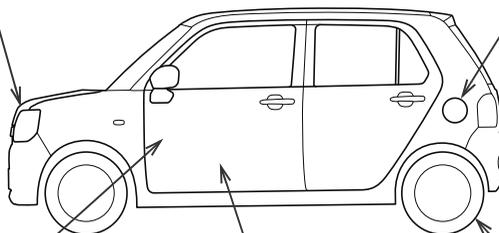
給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 285

給油口

P. 176



KBTCI50001

ボンネット解除レバー

P. 285

給油口オープナー

P. 176

タイヤ空気圧

P. 386

燃料の容量 (参考値)	30L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン P. 175, 382
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 386
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時：2.7L オイルとフィルター交換時：2.9L
エンジンオイルの種類	P. 382

軽自動車を廃車したときは

自動車検査証返納の手続きが必要になりますので、軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

返納に必要な書類など（**A**は一時使用中止時、**B**は解体返納時に必要です）

- A** 自動車検査証返納証明書交付申請書・自動車検査証返納届出書
- B** 解体届出書
- A B** 自動車検査証
- A B** 車両番号標（ない場合は「車両番号標未処分理由書」）
- A B** 軽自動車税申告書
- A B** 印鑑

A 一時使用中止時

7 番窓口

ナンバー領布



6 番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2 番窓口

申請書類の確認



3 番窓口

検査手数料収納



2 番窓口

申請書類の確認

B 解体返納時

7 番窓口

ナンバー領布



6 番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2 番窓口

申請書類の確認



5 番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

使用者・所有者・使用者の住所を変更したときは

検査証記載事項変更の手続きが必要になりますので、使用中の本拠位置を管轄する軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

申請に必要な書類など（**C**は使用者・所有者を変更した場合、**D**は引っ越しなどにより、使用者の住所を変更した場合に必要です）

- C D** 自動車検査証記入申請書
- C D** 自動車検査証
- C D** 使用者の住所を証する書面（印鑑証明書、または住民票抄本などで発行後 3 ヶ月以内のもの）
- C** 自動車損害賠償責任保険証明書、または自動車損害賠償責任共済証明書（使用者がかかった場合に必要です）
- C D** 車両番号標（同じ管轄であれば変更する必要がありません）
- C** 軽自動車税申告書・自動車取得税申告書
 - D** 軽自動車税申告書
- C D** 印鑑

C D（ナンバー変更あり）

2 番窓口

申請書類の確認



7 番窓口

ナンバー頒布



5 番窓口

申請書の受付、および検査証交付



6 番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



7 番窓口

ナンバー頒布

C D（ナンバー変更なし）

2 番窓口

申請書類の確認



6 番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



5 番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

**お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。**

**お問い合わせには、あらかじめ下記の事項
について確認のうえ、ご連絡願います。**

- (1) 車名および型式、登録番号
- (2) ご購入年月日
- (3) 走行距離
- (4) お客様のご住所、お名前、電話番号

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール  0800-500-0182

受付時間 9:00～17:00

〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号



弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。(https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html)

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

シートベルトを締めましょう

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。